

【 科目等履修生・学部聴講生 】

※2023年3月8日現在

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
											科目等履修生	(学部)聴講生		
哲学	5101001	系共通科目(哲学)(講義)	4	通年	火	5			出口 康夫	日本語	○	○	哲学基礎文化学系1	
哲学	5131001	哲学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			國分 功一郎	日本語	○	○	哲学基礎文化学系2	
哲学	5131003	哲学(特殊講義)	2	後期	木	2			薄井 尚樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系3	
哲学	5131004	哲学(特殊講義)	2	前期	月	2			大塚 淳	英語	○	○	哲学基礎文化学系4	
哲学	5131005	哲学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			兼立 雄輝	日本語	○	○	哲学基礎文化学系5	
哲学	5131010	哲学(特殊講義)	2	後期	月	2			大塚 淳	英語	○	○	哲学基礎文化学系6	
哲学	5141001	哲学(演習)	2	後期	木	4			清水 雄也	日本語	○	○	哲学基礎文化学系7	
哲学	5143001	哲学(演習)	2	前期	水	2			出口 康夫	日本語及び英語	○	○	哲学基礎文化学系8	
哲学	5143002	哲学(演習)	2	後期	水	2			出口 康夫	英語	○	○	哲学基礎文化学系9	
哲学	5143003	哲学(演習)	2	前期不定					八木沢 敬	英語	○	○	哲学基礎文化学系10	
哲学	5143005	哲学(演習)	2	後期	火	4			大塚 淳	日本語	○	○	哲学基礎文化学系11	
哲学	5144001	哲学(演習II)	2	前期	金	2			出口 康夫, 大塚 淳, 五十嵐 涼介	日本語及び英語	○	○	哲学基礎文化学系12	
哲学	5147001	哲学(演習III)	2	後期	金	2			出口 康夫, 大塚 淳, 五十嵐 涼介, 西村 洋平, 藤原 琢朗, 五	日本語及び英語	○	○	哲学基礎文化学系13	
哲学	5143004	哲学(演習I)	2	前期	火	1			大塚 淳	日本語	○	○	哲学基礎文化学系14	
西洋哲学史(古代)	5200001	系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)	2	前期	水	5			早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系15	
西洋哲学史(古代)	5202001	系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)	2	後期	水	5			早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系16	
西洋哲学史(古代)	5231001	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期	金	5			西村 洋平	日本語	○	○	哲学基礎文化学系17	
西洋哲学史(古代)	5231002	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			渡岡 剛	日本語	○	○	哲学基礎文化学系18	
西洋哲学史(古代)	5231003	西洋哲学史(特殊講義)	2	後期	金	5			西村 洋平	日本語	○	○	哲学基礎文化学系19	
西洋哲学史(古代)	5231005	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期	月	5			早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系20	
西洋哲学史(古代)	5240002	西洋哲学史(演習)	4	通年	木	4	木	5	早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系21	
西洋哲学史(古代)	5241001	西洋哲学史(演習)	2	前期	火	3			早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系22	
西洋哲学史(古代)	5241002	西洋哲学史(演習)	2	後期	火	3			早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系23	
西洋哲学史(中世)	5204001	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	2	前期	水	2			周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系24	
西洋哲学史(中世)	5206001	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	2	後期	水	2			周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系25	
西洋哲学史(中世)	5234001	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			根岸 伸治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系26	
西洋哲学史(中世)	5234002	西洋哲学史(特殊講義)	2	後期	木	2			周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系27	
西洋哲学史(中世)	5234003	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期	木	2			周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系28	
西洋哲学史(中世)	5242001	西洋哲学史(演習)	4	通年	木	4	木	5	周藤 多紀	日本語	×	○	哲学基礎文化学系29	
西洋哲学史(中世)	5243001	西洋哲学史(演習)	2	前期	金	4			井澤 清	日本語	○	○	哲学基礎文化学系30	
西洋哲学史(中世)	5243002	西洋哲学史(演習)	2	後期	金	4			井澤 清	日本語	○	○	哲学基礎文化学系31	
西洋哲学史(中世)	5243003	西洋哲学史(演習)	2	前期	月	4			周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系32	
西洋哲学史(中世)	5243004	西洋哲学史(演習)	2	後期	月	4			周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系33	
西洋哲学史(近世)	5208001	系共通科目(西洋近世哲学史)(講義)	2	前期	水	3			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系34	
西洋哲学史(近世)	5210001	系共通科目(西洋近世哲学史)(講義)	2	後期	水	3			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系35	
西洋哲学史(近世)	5238002	西洋哲学史(特殊講義)	2	前期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系36	
西洋哲学史(近世)	5238001	西洋哲学史(特殊講義)	2	後期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系37	
西洋哲学史(近世)	5245001	西洋哲学史(近世)(演習)	2	後期	水	4			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系38	
西洋哲学史(近世)	5245003	西洋哲学史(近世)(演習)	2	前期	水	4			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系39	
日本哲学史	5302001	系共通科目(日本哲学史)(講義)	2	前期	火	5			上原 麻有子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系40	
日本哲学史	5304001	系共通科目(日本哲学史)(講義)	2	後期	火	5			上原 麻有子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系41	
日本哲学史	5331001	日本哲学史(特殊講義)	2	前期	水	4			上原 麻有子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系42	
日本哲学史	5331002	日本哲学史(特殊講義)	2	後期	水	4			上原 麻有子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系43	
日本哲学史	5331003	日本哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			小林 信之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系44	
日本哲学史	5331005	日本哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			中島 隆博	日本語	○	○	哲学基礎文化学系45	
日本哲学史	5331006	日本哲学史(特殊講義)	2	前期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系46	
日本哲学史	5331007	日本哲学史(特殊講義)	2	後期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系47	
日本哲学史	5341001	日本哲学史(演習)	2	前期	金	3			景山 洋平	日本語	○	○	哲学基礎文化学系48	
日本哲学史	5343001	日本哲学史(基礎演習)	2	前期	木	5			上原麻有子, WIRTZ, Fernando Gustavo	日本語	○	○	哲学基礎文化学系49	
日本哲学史	5343002	日本哲学史(基礎演習)	2	後期	木	2			藤宮 裕	日本語	○	○	哲学基礎文化学系50	
倫理学	5402001	系共通科目(倫理学)(講義A)	2	前期	金	2			児玉 聡	日本語	○	○	哲学基礎文化学系51	
倫理学	5403001	系共通科目(倫理学)(講義B)	2	後期	金	2			児玉 聡	日本語	○	○	哲学基礎文化学系52	
倫理学	5431002	倫理学(特殊講義)	2	前期	火	2			児玉 聡	日本語	○	○	哲学基礎文化学系53	
倫理学	5431003	倫理学(特殊講義)	2	後期	火	2			児玉 聡	日本語	○	○	哲学基礎文化学系54	
倫理学	5431005	倫理学(特殊講義)	2	後期	水	2			Campbell, Michael	英語	○	○	哲学基礎文化学系55	
倫理学	5440001	倫理学(演習)	4	通年	火	4			児玉 聡	日本語	○	○	哲学基礎文化学系56	
倫理学	5440002	倫理学(演習)	4	通年	金	3			児玉 聡	日本語	○	○	哲学基礎文化学系57	
倫理学	5443003	倫理学(演習)	2	前期	金	5			永守 伸年	日本語	○	○	哲学基礎文化学系58	
倫理学	5443004	倫理学(演習)	2	後期	金	5			永守 伸年	日本語	○	○	哲学基礎文化学系59	
宗教学	5502001	系共通科目(宗教学A)(講義)	2	前期	月	1			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系60	
宗教学	5503001	系共通科目(宗教学B)(講義)	2	後期	月	1			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系61	
宗教学	5531003	宗教学(特殊講義)	2	前期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系62	
宗教学	5531004	宗教学(特殊講義)	2	後期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系63	
宗教学	5531005	宗教学(特殊講義)	2	前期	火	5			伊原木 大祐	日本語	○	○	哲学基礎文化学系64	
宗教学	5531006	宗教学(特殊講義)	2	後期	火	5			伊原木 大祐	日本語	○	○	哲学基礎文化学系65	
宗教学	5531001	宗教学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			西村 明	日本語	○	○	哲学基礎文化学系66	
宗教学	5541001	宗教学(演習)	2	前期	水	5			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系67	
宗教学	5541002	宗教学(演習)	2	後期	水	5			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系68	
宗教学	5541003	宗教学(演習)	2	後期	木	2			安部 浩	日本語	○	○	哲学基礎文化学系69	
宗教学	5541004	宗教学(演習)	2	前期	火	4			伊原木 大祐	日本語	○	○	哲学基礎文化学系70	
宗教学	5541005	宗教学(演習)	2	後期	火	4			伊原木 大祐	日本語	○	○	哲学基礎文化学系71	
宗教学	5543001	宗教学(基礎演習)	2	前期	金	4	金	5	杉村 靖彦, 伊原木 大祐	日本語	○	○	哲学基礎文化学系72	
宗教学	5543002	宗教学(基礎演習)	2	後期	金	4	金	5	杉村 靖彦, 伊原木 大祐	日本語	○	○	哲学基礎文化学系73	
宗教学	5551001	宗教学(講義)	2	前期	木	2			根無 一行	日本語	○	○	哲学基礎文化学系74	
宗教学	5551002	宗教学(講義)	2	後期	木	2			根無 一行	日本語	○	○	哲学基礎文化学系75	
キリスト教	5602001	系共通科目(キリスト教)(講義)	2	前期	火	2			津田 謙治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系76	
キリスト教	5604001	系共通科目(キリスト教)(講義)	2	後期	火	2			津田 謙治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系77	
キリスト教	5631001	キリスト教(特殊講義)	2	後期	木	4			渡部 和隆	日本語	○	○	哲学基礎文化学系78	
キリスト教	5631002	キリスト教(特殊講義)	2	後期	月	2			津田 謙治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系79	
キリスト教	5631003	キリスト教(特殊講義)	2	前期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系80	
キリスト教	5631004	キリスト教(特殊講義)	2	後期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系81	
キリスト教	5631005	キリスト教(特殊講義)	2	前期	木	4			谷塚 山	日本語	○	○	哲学基礎文化学系82	
キリスト教	5631006	キリスト教(特殊講義)	2	前期集中	他	他			山田 順	日本語	○	○	哲学基礎文化学系83	
キリスト教	5641001	キリスト教(演習)	2	後期	木	5			浅野 淳博	日本語	○	○	哲学基礎文化学系84	
キリスト教	5641004	キリスト教(演習)	2	前期	水	3			平出 貴大, 波勢 邦生	日本語	○	○	哲学基礎文化学系85	
キリスト教	5641005	キリスト教(演習)	2	後期	金	4			河崎 靖	日本語	○	○	哲学基礎文化学系86	
キリスト教	5641006	キリスト教(演習)	2	前期	月	4			津田 謙治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系87	
キリスト教	5641007	キリスト教(演習)	2	後期	月	4			津田 謙治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系88	
キリスト教	5631007	キリスト教(特殊講義)	2	前期	月	2			津田 謙治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系89	
美術学	5705001	系共通科目(美術)(講義)	2	前期	水	4			杉山 卓史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系90	
美術学	5707001	系共通科目(美術)(講義)	2	後期	月	5			川 欣也	日本語	○	○	哲学基礎文化学系91	
美術学	5708001	系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)	2	後期	金	1			筒井 忠仁	日本語	○	○		

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
											科目等履修生	(学部)聴講生		
美学美術史学	5753001	美学美術史学(講読)	2	前期	木	2			高井 たかね	日本語	○	○	哲学基礎文化学系116	
美学美術史学	5753002	美学美術史学(講読)	2	後期	木	2			田中 健一	日本語	○	○	哲学基礎文化学系117	
美学美術史学	5731004	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	水	3			田中 健一	日本語	○	○	哲学基礎文化学系118	
美学美術史学	5731017	美学美術史学(特殊講義)	2	後期	水	5			宇佐美 文理	日本語	○	○	哲学基礎文化学系119	
美学美術史学	5731022	美学美術史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			小林 信之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系120	
哲学基礎文化学系	0012001	哲学基礎文化学系(ゼミナール)	2	前期	木	2			大河内 泰樹 安井 絢子, 笠木 丈, 林 和雄, 番西 信	日本語	○	○	哲学基礎文化学系121	

哲学基礎文化学系1

科目ナンバリング		U-LET01 25101 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(哲学)(講義) Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代哲学入門									
【授業の概要・目的】											
西洋哲学は、神との本格的な決別を果たすことで「現代哲学」へと変貌を遂げました。本授業では、西洋近世哲学の一つの完成形態であるカントやヘーゲルの哲学から説き起こし、大きく大陸哲学と分析哲学という二つの流れに沿いながら、19世紀から21世紀初頭にかけての哲学の動向を概観します。											
【到達目標】											
分析哲学や大陸哲学といった個々の学派の内部に閉じ籠ることなく、現代哲学の流れに関する包括的な俯瞰図を得ることができる。また現在進行中の新たな哲学動向に触れることもできる。											
【授業計画と内容】											
前期											
1 カント：聖域（サンクチュアリ）に隔離された神											
2 ヘーゲル：歴史的二級市民としての神											
3 ショーペンハウワー：「生の領域」の発見											
4 フォイエルバッハ：愛と二人称の哲学											
5 ニーチェ：現状肯定の実存哲学											
6 東西思想交流史											
7 ブーバー：「私とあなた」と老荘的コミュニケーション											
8 ハイデガーⅠ：現存在と共存在											
9 ハイデガーⅡ：現存在から「黒ノート」へ											
10 リオタールのポストモダン											
11 分析哲学とは何か											
12 論理学革命											
13 フレーゲの哲学											
14 ラッセルの確定記述理論											
15 まとめ											
後期											
1. 近代哲学と認識論（デカルト・ヒューム・カント）											
2. 19世紀の哲学（実証主義・新カント主義）											
3. 現代哲学の「意味論的転換」											
4. フレーゲと論理学の革命											
5. ラッセル											
6. ウィトゲンシュタイン											
7. ウィーン学団とカルナップの実証主義											
8. プラグマティズムⅠ											
9. プラグマティズムⅡ											
10. クワインのホーリズム											
11. 言語哲学											
----- 系共通科目(哲学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(哲学)(講義)(2)

-
12. 形而上学の復興
 13. 科学哲学
 14. 人工知能時代の哲学
 15. 後期まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の小レポート(50%) + 全授業終了後のレポート(50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、授業内容のスライドを配布する。それをもとに小レポートを作成し提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系2

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学総合文化研究科 教授 國分 功一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		スピノザ哲学を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>スピノザは17世紀オランダの哲学者です。その哲学は多くの哲学者、文学者、読者に影響を与えてきました。ただ、主著『エチカ』は他を寄せつけぬ難解さによって知られています。スピノザ哲学に憧れて著作を紐解いてみたものの、うまく読み進められなかったという話はよく耳にするところです。不思議なのは、それにもかかわらず、スピノザが多くの人々に影響を与え、また多くの人々を魅了してきたということです。スピノザ哲学には、確かに難解ではあるけれども、それでもなぜか惹かれてしまうという不思議な特徴があるのです。</p> <p>この講義ではこの哲学の魅力を最大限に引き出しつつ、スピノザ哲学を読むことを試みたいと思います。スピノザ哲学が難解であることにはいくつか明確な理由があるように思われます。その一つとして、現代の読者である我々にとって、スピノザ哲学は単に考えが違うのではなくて、そもそも考え方が違うということが挙げられます。こんな比喻で説明してもいいでしょう。哲学書を読めばそこに書かれた内容が我々の頭に入って何らかの仕方で機能します。哲学書の読書とは、いわばアプリをインストールするようなものです。でも、アプリをインストールしようにも、そもそもOS WindowsやMacといったオペレーションシステム が違っていたらどうでしょうか。インストールしようにもインストールできません。私はスピノザ哲学の難解さは、このOSの違いに喩えるところがあると思っています。スピノザ哲学は、現代の我々 さしあたり「我々」のことを、近代科学を一つの常識として身につけた知性と考えることにしましょう とは考え方のOSが異なっているように思われるのです。この講義ではこのOSの違いに注目しながら、スピノザの著作を受講生の皆さんと一緒に読んでいきます。</p> <p>とはいえ、漫然とスピノザの著作を読むわけではありません。この講義ではスピノザ哲学を読むに当たり、「意識consciousness」の概念に注目したいと思います。スピノザ哲学の研究においては、「スピノザは意識を価値下げた」というのが近年の常識でした。しかし私はこれは疑わしいと思っています。むしろ意識の概念にこそ、スピノザ哲学を読み解く鍵がある。そしてスピノザ哲学における意識の概念に注目することは、17世紀における思想史上の大転換のもつ意味を改めて理解することに繋がります。詳しくはもちろん講義の中で説明しますが、社会契約論や近代的個人概念などを再考する手がかりがここにはあります。</p> <p>哲学を勉強するワクワク感を受講生の皆さんと共有できればと思います。</p>											
[到達目標]											
<p>上記の「授業の概要・目的」で紹介した内容を理解し、体得することが、この授業の到達目標です。集中講義なので大変ですが、頑張っついてきてほしいと思います。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学を学ぶとは？ 2. スピノザの生涯 3. 『デカルトの哲学原理』とコギト 4. 『デカルトの哲学原理』と総合的方法の問題 5. 『知性改善論』と方法の問題 											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

6. 『知性改善論』における定義の問題
7. 哲学史における存在と思考 アーレント「実存哲学とは何か」を巡って
8. 『エチカ』における総合的方法の完成
9. 『エチカ』における無限 実体と様態
10. 人間精神の理論 身体の観念としての精神
11. 意志の自由の否定
12. コナトゥス、衝動、欲望 スピノザにおける意識の理論
13. 「意識」の歴史 17世紀における意識概念の発明
14. 第三種認識と人間の自由
15. スピノザの政治論と意識概念の関係

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業終了後に提出してもらったレポートで評価します。詳細は講義の中で説明します。

【教科書】

講義で使用する資料は授業中に配布します。

【参考書等】

(参考書)

國分功一郎 『スピノザ 読む人の肖像』(2022) ISBN:4004319447 (岩波新書 読んでおくと講義の理解が深まると思います。)

國分功一郎 『はじめてのスピノザ 自由へのエチカ』(2020) ISBN:4065215846 (講談社現代新書 全くスピノザに触れたことがない人にお勧めです。)

【授業外学修(予習・復習)等】

余裕のある人は参考文献の二冊を読んでおいてください。更に余裕のある人はスピノザの著作を読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

講師への連絡方法については授業中にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系3

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学文学部 教授 薄井 尚樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		潜在的態度の哲学入門									
【授業の概要・目的】											
潜在的態度のありようは近年，その測定技術の進歩にともない，急速に明らかにされつつある．このことは同時に，知覚から道徳的責任に至るまで，さまざまな興味深い哲学的な問題をうみだし，多くの哲学研究者の関心を喚起することにもなった．本講義では，潜在的態度が哲学の諸領域にどのようなかかわるか，またそこでの研究の現状を紹介したい．											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 潜在的態度が哲学の諸領域にどのようなかたちでかかわるかを理解する ・ 経験科学と哲学の連続性についての考えを深める ・ 現代の心の哲学のホット・トピックのひとつについての最新の議論状況を把握する 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 潜在的態度とはどのようなものか(1)：潜在的態度／顕在的態度という分類</p> <p>第3回 潜在的態度とはどのようなものか(2)：信念から特性まで</p> <p>第4回 潜在的態度と知覚(1)：潜在的態度は知覚にどう影響するか</p> <p>第5回 潜在的態度と知覚(2)：バイアスのともなう知覚からなにがもたらされるか</p> <p>第6回 潜在的態度と知識(1)：潜在的態度と自己知の関係</p> <p>第7回 潜在的態度と知識(2)：潜在的態度の認知的利益</p> <p>第8回 潜在的態度と倫理：潜在的態度がもたらすディレンマ</p> <p>第9回 潜在的態度と道徳的責任(1)：潜在的態度から道徳的責任は生じうるか</p> <p>第10回 潜在的態度と道徳的責任(2)：「誰の」道徳的責任なのか</p> <p>第11回 潜在的態度と構造的不正義：潜在的制度と社会制度のまじわり</p> <p>第12回 潜在的態度と介入(1)：個人主義と構造主義の対立</p> <p>第13回 潜在的態度と介入(2)：統合主義という道</p> <p>第14回 潜在的態度と自己(1)：潜在的態度は「本当の自己」なのか</p> <p>第15回 潜在的態度と自己(2)：「本当の自己」をひろげる</p> <p>ただし学生の関心，授業の進行状況に応じて内容を変更することがある</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業ごとの課題（40％），レポート（60％）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業ごとの課題に取り組むために，自分がとったノートをよく読んで復習すること．
また，授業の最後に次の授業のおおまかな内容やカギとなる考えを紹介するので，その周辺知識を事前に調べておくこと．

（その他（オフィスアワー等））

担当者のメールアドレス: n.usui[at]kansai-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系4

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced topics in causality									
【授業の概要・目的】											
<p>This advanced course will explore in depth a range of topics in the recent studies on causality both in philosophy and machine learning. We will examine three major philosophical theories of causation, namely (1) the causal Bayes nets, (2) the process theory, and (3) the interventionist theory, focusing especially on their mathematical/formal underpinnings.</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of this course, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Understand and critically evaluate a range of philosophical theories of causation - Understand the basics of mathematical theories used to model causality, including Bayesian networks, monoidal categories, and monoid actions. 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Three major views on causality 3. Causal Bayes nets (1) 4. Causal Bayes nets (2) 5. Criticisms and problems of causal Bayes nets 6. The process theory 7. Monoidal categories and the process causality (1) 8. Monoidal categories and the process causality (2) 9. Event vs. process causality 10. The interventionist theory of causation 11. Intervention and monoid actions (1) 12. Intervention and monoid actions (2) 13. Comparison of three views 14. Summary 15. Feedback (no class) 											
【履修要件】											
<p>The class assumes knowledge of basic level probability and statistics.</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

- Participation in class discussions 10%
- Comment papers 30%
- Final essay 60%

[教科書]

Douglas Kutach 『Causation』 (Polity)
クタッチ 『現代哲学のキーコンセプト 因果性』 (岩波書店)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to read the assigned reading material before each class.

(その他(オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系5

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学人文社会系研究科 乗立 雄輝 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		どうやったら正しい解釈に到達できるのか? : 『純粋理性批判』 「純粋理性のアンチノミー」を題材として									
[授業の概要・目的]											
<p>哲学的テキストを十分に理解するためには、ただ漫然と読んでいただけではダメである。要所要所で読解のための「補助線」を引き、また適切な解釈的問いを立てていくことが必要だ。(《仮説を立て、検証する》という手続きは文献解釈でも必要なのだ。)さて、適切な解釈的問いを立て、「正しい」解釈に到達するためにはどのようにしたらよいのか?</p> <p>本講義では私は、特にイマヌエル・カント(著)『純粋理性批判』 「純粋理性のアンチノミー」(以下「アンチノミー論」と略記)を題材とし、初学者が、どのような点に注目し、そしてどのような解釈的問いを立てていけば、テキストをより深く/明瞭に理解することができるようになるかを示したいと思う。</p> <p>本講義は、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の方式で行なわれる。すなわち、たんに講師が一方的に情報提供を行う、というやり方ではなく、履修者のみなさんに実際に当該テキストを読み、試行錯誤し、議論してもらおう(おそらく小グループをいくつか作り、議論することになるだろう)。その点で、本講義は、通常の「講義」というよりは「実習」に近い。私の助言を参考にしつつ、実際に解釈実践を積むことで、解釈スキルを養成することこそが、本講義のねらいである。</p> <p>なお、時間的制限により、本講義ではアンチノミー論の全てを扱うことはしない。検討対象となるのは次の箇所である: 第一節、第二節(特に第一アンチノミー)、第六節、第七節、第九節(特に数学的アンチノミーの解決(A532/B560まで))。また、最終日には、アンチノミー論と類似の論証構造を持つ『純粋理性批判』第一版「第四パラロギスム」の解釈の実践を通じて、各自の解釈スキル向上の達成度を確認する予定である。(ただし、履修者のレベルに合わせて、進度は柔軟に変更していく。)</p> <p>レベル設定としては、カント哲学についての基礎知識を持っていないが学習意欲はある学部生が十分についていけるようなものにするつもりである。とはいえ、(カント研究を専門とする)大学院生であってもそれなりに楽しめる内容になるはずだ。意欲あるみなさんの参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>本講義を最後まで聴講するならば、結果的に、アンチノミー論全体についてのかかなり明瞭な理解が得られることだろう。しかし、本講義の眼目はむしろ、解釈スキルの養成にある。すなわち、テキスト読解に際して、履修者のみなさんが自分自身で適切な解釈的問いを立て、自ら解釈の精度を高めていけるように「なる」ことこそが、本講義の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>[1日目] 読解のための着手点を築きあげる</p> <p>事前課題: アンチノミー論(のうち本講義で扱う箇所; 上述)を各自で読み、そこで展開されている議論を自分が現時点で可能な限りで明瞭にまとめてくる; レジュメを持参することが望ましい。また、余力のある者は特にアンチノミー論第一節と第六節を詳しく読んでほしい。</p> <p>* この段階で十分な解釈を提示できる必要は全くない。(本講義は「初学者向け」ですよ!)この課題の眼目は、現時点での、みなさんの理解を確認することにある。(これについては以下の課題</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

でも同様。)

第1回：履修者間での相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認する / 読解上の基礎知識の解説(1)〔『純粹理性批判』概説 / 「アンチノミー」とは何か〕

第2回：読解上の基礎知識の解説(2)〔アンチノミー論の『純粹理性批判』全体における体系的位
置 / 認識能力(感性、悟性、理性、(繼起的)綜合、等々)についてのカントの理説 / 中心概念「条件
の系列Reihe der Bedingungen」(第一節) ; 他にも基礎知識についての質問があれば受け付ける〕

第3回：解釈上の補助線の提示(1) / アンチノミー論理解のカギとなる「超越論的實在論 / 超越論的
觀念論」について(第六節)

[2日目] アンチノミー論第七節(アンチノミーの一般的解決)の読解

事前課題：前回講義で提起された解釈上の補助線に留意しつつ、第七節を各自で読み、そこで展開
されている議論についての自分の理解をまとめてくる ; レジュメ持参が望ましい。

第4回：相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認する

第5回：第七節の解釈上の問題提起 / 統一的解釈の提示

第6回：解釈上の補助線の提示(2) : アンチノミー解決の観点からアンチノミー導出(第二節)の議
論を振り返るとどうなるか?

[3日目] アンチノミー論第二節(諸アンチノミーの導出)の読解

事前課題：前回講義で配布する論文(15頁程度 ; 日本語)を参考にしつつ、第二節の特に第一アン
チノミーの導出の箇所を読み、定立・反定立の証明についての自分の理解をまとめてくる ; レジュ
メ持参が望ましい。

第7回：課題の相互発表 / アンチノミー導出の統一的構造の把握

第8回：アンチノミー導出&解決の統一的構造 すなわちアンチノミー論の全体像 の把握

第9回：(1)問いの変更：アンチノミー論そのものの理解ではなく、超越論的觀念論の主張内容の解
明を主眼とするように解釈的問題設定を変更したらどうなるか？(自分の意図や目的に合わせて解
釈的問いを変更する仕方を学ぶ) / (2)次回のための問題提起：カントの超越論的觀念論によるアン
チノミー解決によれば、条件の系列は有限でもなければ実無限でもない ; それは可能無限である。
さて、条件の系列が「可能無限である」とはどのようなことなのか？ここには、たんに「可能無限
という語の意味を調べればよい、というだけではすまない重大な問題が存する。この問題について
予告的に紹介し、次回への準備とする。

[4日目] カントのアンチノミー解決を深掘りする

ねらい：現代の分析哲学や数学の哲学の道具立てを援用することによって、ただテキストを読んで
いただけでは出てこないような新たな解釈的問いが立てられるようになり、このことを通じてテク
スト解釈をさらに深めていくことができることを体験する。

事前課題：前回講義の問題設定を参考にして、アンチノミー論第九節の、とりわけ第一アンチノミ
ーの解決の箇所(A517-523/B545-551)を読み、その内容についての自分なりのイメージを作って
おく ; レジュメ持参が望ましい。また、「実無限 / 可能無限」の区別についてインターネット等
を用いて簡単に調べてくること。

第10回：課題の相互発表 / カント解釈上の問題 / 「可能無限」概念そのものをめぐる問題

第11回：直観主義数学を導きの糸として、可能無限の最初のモデルを得る

第12回：次回のための問題提起：(1)直観主義数学から得た成果を(カントの超越論的觀念論が扱う)
経験的領域に適用しようとする際に生じる問題の紹介(monotonicity, publicness, defeasibility)。(2)
『純粹理性批判』第一版「第四パラロギスムス」は、アンチノミー論と非常によく似た論証構造を
持っている。この箇所の解釈の実践を通じて、今までの学習成果を確認する。

[5日目] これまでに学んできたスキルを活用してみる

哲学(特殊講義)(3)へ続く

哲学(特殊講義)(3)

事前課題：今までの講義内容（とりわけ、解釈上の問いの立て方）を参考にして、第一版「第四パラロギスムス」を各自で読み、そこで展開されている議論を可能な限り明瞭な仕方でもとめた発表レジュメを作成して持参する（自分用と提出用の2部；成績評価に使用する）。

第13回：直観主義数学から得た成果を経験的領域に適用する際の諸問題の解決のアウトラインを紹介

第14回：課題の相互発表 / 各自の解釈スキルがどの程度向上したのかを確認

第15回：第一版「第四パラロギスムス」の統一的解釈 / 超越論的観念論をめぐる解釈上の問題の提示 / 全体の総括

【履修要件】

特に設けない。すなわち、『純粋理性批判』の基礎知識を持っている、といったことを履修要件とはしない。ただし、毎回の課題をこなす そのためには少なくとも、自分自身でカントのテキストを読む必要がある 用意と覚悟のある人のみ本講義を受講していただきたい。（とはいえ、無茶な要求をするつもりはない。本講義はあくまでもカント哲学の「初学者向け」である。）

* 自分でカントのテキストを読むことは必須だが、解説書や参考書を利用することは自由である；むしろ推奨する。

【成績評価の方法・観点】

(1) 第1～4日の事前課題：それぞれ10%（計40%）

(2) 第5日の事前課題：20%

(3) 講義中の議論（グループ / 全体ディスカッション）への貢献：40%

【教科書】

イマヌエル・カント、『純粋理性批判』 どの訳でもかまわないので、入手すること。（岩波文庫（篠田訳）、光文社古典新訳文庫（中山訳）はお勧めしない。安価で入手可能なものとしては、『世界の大思想』シリーズ（高峯訳）がお勧め。）

講義では基本的に日本語訳を用いるが、ドイツ語原文や英訳を参考にできる人はそうすることを強くお勧めする。

【参考書等】

（参考書）

入門書

・御子柴善之、『自分で考える勇気：カント哲学入門』，岩波ジュニア新書，2015年。（カント哲学について全く / ほとんど知らない人が全体像を理解するためにはこの本がよいだろう。）

・御子柴善之、『シリーズ 世界の思想：カント 純粋理性批判』，角川選書，2020年。（『純粋理性批判』全体の流れを理解するのに便利。とりわけ初心者が苦労する、個々のテキスト箇所の理解のために必要となる前提知識をわかりやすく説明してくれる。）

・中島義道、『『純粋理性批判』を噛み砕く』，講談社，2010年。（アンチノミー論の、特に冒頭部、第一節、第二節を詳細に解説したもの。カントによるアンチノミー導出の議論（第二節）をよりよく理解したい人は、本書にあたるとよい。）

・有福孝岳(他)編、『カント事典 縮刷版』，弘文堂，2014年。（わからない言葉が出てきたらこれで調べよう。）

研究書

哲学(特殊講義)(4)へ続く

哲学(特殊講義)(4)

- ・ Henry Allison, Kant ' s Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense, Revised and Enlarged Edition, Yale University Press, 2004. (今日の『純粋理性批判』研究のための必読書。)
 - ・ ヘンリー・アリソン, 『カントの自由論』, 法政大学出版局, 2017年 (原著1990年) . (本講義では取り扱われない、第三アンチノミーの解決に関心がある人は、本書の第1部にあたるとよい。)
 - ・ Jonathan Bennett, Kant ' s Dialectic, Cambridge University Press, 1974. (本講義では取り扱われない、カントによる個々のアンチノミー導出の議論が詳細に検討されている。)
 - ・ Kiyoshi Chiba, Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit, Walter de Gruyter, 2012. (本講義の先にさらに何があるのかに興味がある人は、この本の第4章と第7章を見るとよい。)
 - ・ P. F. ストローソン, 『意味の限界：『純粋理性批判』論考』, 勁草書房, 1987年 (原著1966年) (「分析カント」の創始。今日でもなお啓発的な多くの洞察を含んでいる。)
- * ほかの参考文献については講義中に紹介する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

上述の、毎回の事前課題を着実にやってくることで、そして何よりも、『純粋理性批判』の当該箇所を自分自身で読み込んでおくことが必要となる。とりわけ、最初の二日分の事前課題のために読むべき分量は多いので、これらに関しては講義開始前に準備しておくことをお勧めする。(実際のところ、第1日目・2日目の課題のための準備を事前に十分に済ませておけば、第3日目以降の課題のために必要となる時間はそれほど多くはならないはずだ。)

また、『純粋理性批判』についての基礎知識は履修のための必要条件ではないが、あれば本講義をより有意義にできることは間違いない。上述「参考書」の「入門書」に挙げてある文献のほか、各自でいろいろと模索してみるとよいだろう。

(その他 (オフィスアワー等))

連絡先メールアドレス :

kchiba.f@outlook.com

この科目は、開講専修の所属学生を優先して、履修人数制限を行います。
履修登録を希望する学生は、事前申込 (予備登録) の手続きをしてください。
(期間 : 9/21 ~ 9/27) 方法は文学部お知らせに掲載します。
他学部聴講 (文学研究科生含む) および非正規生の履修は認めません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系6

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		統計学の哲学(発展)									
【授業の概要・目的】											
統計学は、現代の科学的・帰納推論において特権的な役割を果たしている。本授業では、前年度開講の「統計学の哲学入門」の内容を踏まえ、統計学の哲学的側面および含意について、入門レベルより一歩踏み込んだ考察を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - 統計学や行為決定論など、現代における帰納推論の枠組みを理解する - 統計学の背後にある哲学的な見方を理解する - 特に階層ベイズやブートストラップ等、現代統計学の主要なアイデアと、内在/外在主義認識論や可能世界などの哲学的概念と統計学の関わりを理解する 											
【授業計画と内容】											
全体を大きく(1)基礎・入門的課題、(2)ベイズ統計、(3)頻度主義統計、(4)発展的課題、に区分けし、各回について3-4回ほどの授業を行う											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・入門的課題 <ul style="list-style-type: none"> - 初回オリエンテーション - 統計学の存在論と認識論 - ベイズ統計と古典統計 2. ベイズ統計 <ul style="list-style-type: none"> - ベイズ主義の認識論的問題 - 階層ベイズの存在論 3. 頻度主義 <ul style="list-style-type: none"> - 頻度主義の認識論的問題 - 信頼区間と可能世界 - ブートストラップ統計の認識論 4. 発展的課題 <ul style="list-style-type: none"> - 縮小推定と予測主義 - モデル選択 - 深層学習とその含意 - AI時代の科学的客観性 <ul style="list-style-type: none"> - 予備・まとめ(1回) - フィードバック 											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[履修要件]

前期開講の「統計学の哲学」を受講済み、ないしその教科書『統計学を哲学する』を通読していること。

[成績評価の方法・観点]

- 単元ごとの課題・小レポート（40%）
- 期末レポート（60%）

[教科書]

大塚淳 『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業前に、指定された参考図書を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

火曜日2限または個別予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系7

科目ナンバリング		U-LET01 25141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター- 特定助教 清水 雄也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		因果の哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、因果に関する哲学的問題について論じる。特に、現在の科学哲学において標準説(の1つ)となっている介入主義的理論を中心に、因果概念の一般理論、因果関係の存在論的特性、因果言明の優劣比較、因果選別の理論について検討する。因果そのものに対する哲学的関心を持つ者だけでなく、科学・哲学における因果概念の利用や、法的・道徳的な責任と因果の関係に関心を持つ者の受講も歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 因果概念の一般的特徴づけを目指す諸学説の眼目と問題点について理解する。 ・ 因果関係の存在論的特性に関する諸問題について理解する。 ・ 因果言明の優劣比較に関する諸論点について理解する。 ・ 因果選別に関する理論的問題と諸学説について理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画にしたがって講義を進める。ただし、進捗に応じて多少変更する場合がある。</p> <p>01. イントロダクション</p> <p>I. 因果概念の理論</p> <p>02. 規則性と確率連動</p> <p>03. 可操性と行為者性</p> <p>04. 反事実と可能世界</p> <p>05. モデルと介入主義</p> <p>II. 因果関係の特性</p> <p>06. 水準と開放性</p> <p>07. 仲介と階層性</p> <p>08. 条件と派生性</p> <p>III. 因果言明の優劣</p> <p>09. 安定性</p> <p>10. 均整性</p> <p>11. 特定性</p> <p>IV. 因果選別の理論</p> <p>12. 必要性和十分性</p> <p>13. 規範性と正常性</p> <p>14. 適合性と偶然性</p>											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

15. まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。到達目標の達成度（講義内容の理解度）に基づく評価を基本とするが、独自の学習や考察を適切に盛り込んだものには特に高い評価を与える。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

復習：講義で扱われた問題について自ら考察する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系8

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習Ⅰ) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		自己の哲学 Philosophy of Self									
【授業の概要・目的】											
<p>「自己とは何か」「自己はいかにして経験・意識されるのか」「我々はどのような自己を実現すべきなのか」自己をめぐるこれらの問題は、古今東西の哲学の大問題でした。またこれらの問題は、心理学・認知科学・精神医学・社会学などの分野でも盛んに論じられてきました。この授業では、講師が展開している「われわれとしての自己」という新たな自己観から、これらの問題にアプローチします。またパンデミック状況が許せば、海外の第一線の哲学的自己論の研究者をゲストスピーカーとして招き、「われわれとしての自己」とは異なった視点を交えた議論も行います。</p> <p>What is self? How is self experienced? What should self be? Those questions are among the most important ones for the Western and Eastern philosophies for millennia. They have been also much discussed in such fields as psychology, cognitive science, psychiatry and sociology. This seminar will explore those questions from the perspectives of the novel idea of self proposed by the lecturer; i.e., Self-as-We. If the pandemic situation allows, we will invite frontiers of philosophy of self from overseas, and discuss on those issues with them.</p>											
【到達目標】											
<p>受講者は、自己論に関連する様々なトピックに関する哲学的議論について、歴史的な経緯を踏まえた最先端の知識を得ることができると共に、それらの知識を活用しつつ哲学的な議論を展開するスキルを身につけることができる。</p> <p>Students can obtain up-to-date knowledge of philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind and action, phenomenology, and analytic Asian philosophy, and also acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction to philosophy of self (I) Modern Western Philosophy 哲学的自己論入門 (I) 西洋近世哲学</p> <p>2 Introduction to philosophy of self (II) Eastern Philosophy 哲学的自己論入門 (II) 東洋思想</p> <p>3 Introduction to philosophy of self (III) Contemporary Philosophy 哲学的自己論入門 (III) 現代哲学</p> <p>4 From Fundamental Incapability of 'I' to Self-as-We (I) 「根源的できなさ」から「われわれとしての自己」へ (I)</p> <p>5 From Fundamental Incapability of 'I' to Self-as-We (II) 「根源的できなさ」から「われわれとしての自己」へ (II)</p> <p>6 From Fundamental Incapability of 'I' to Self-as-We (III)</p>											
----- 哲学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

「根源的できなさ」から「われわれとしての自己」へ (III)

7 We-turn in Ethics and Moral Responsibility (I)

「WE-ターン」倫理と道徳的責任 (I)

8 We-turn in Ethics and Moral Responsibility (II)

「WE-ターン」倫理と道徳的責任 (II)

9 We-turn in Wellbeing (I)

「WE-ターン」ウェルビーイング (I)

10 We-turn in Wellbeing (II)

「WE-ターン」ウェルビーイング (II)

11 We-turn in Rights and Legal System

「WE-ターン」権利と法体系

12 Self-as-We vs. Other Views on Self (with a Guest Speaker(s))

「われわれとしての自己」を巡って (海外ゲストスピーカーとの共同討議)

13 Summary

まとめと振り返り

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Report 50% and Performances in classes 50%

期末レポート50% 授業での発表・議論参加 50%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to attend each session after having read all materials for discussions.

受講生は、毎回の授業に先立ち、初回授業で示される、各々の授業に関する資料を読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系9

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Self II									
【授業の概要・目的】											
<p>What is self? How is self experienced? What should self be? Those questions are among the most important ones for the Western and Eastern philosophies for millennia. They have been also much discussed in such fields as psychology, cognitive science, psychiatry and sociology. This seminar will explore those questions from the perspectives of contemporary philosophy and Eastern philosophical traditions, focusing on the teacher's own idea of self: Self-as-We, and exploring its applications to numerous topics.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can obtain up-to-date knowledge of philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind and action, phenomenology, and analytic Asian philosophy, and also acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction to philosophy of self: Self as a philosophical question (I) 2 Introduction to philosophy of self: Self as a philosophical question (II) 3 From East Asian True Self to Self-as-We 4 Self-as-We (I): Somatic Agent, Entrustment and Distribution of Agency, Self as Multi-agent System 5 Self-as-We (II): Self as Humanosphere, Self-as-We vs. Self-as-I, Autoheteronomy, un-self-containedness of Agency and We-modes 7 Ethic of Self-as-We (I): Open Self vs. Closed Self 8 Ethics of Self-as-We (II): Fellowship 9 Self-as-We and Dialogical Life 10 Logic of Self-as-We 11 Self-as-We and Incapabilities of Humans 12 Self-as-We and Freedom from Rule 13 Summary</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Report 50% and Performances in classes 50%											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to attend each class after having read all the materials for discussions.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系10

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		カルフォルニア州立大学 ノースリッジ校哲学科 教授 八木沢 敬			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Metaphysics of Fiction and Semantics of Names									
【授業の概要・目的】											
<p>Fictional characters are fiction, that is, not real; so fictional characters do not exist. Fictional characters are created by their authors, and creation means bringing into existence; so fictional characters exist. A contradiction! How should we resolve this contradiction? We will follow the lead of William G. Lycan in his important paper, “ Metaphysics and the Paronymy of Names, ” to explore a particular line of attempt at resolution of the contradiction. The basic idea, which can be traced back to Aristotle, is that proper names are systematically ambiguous in a controlled way. We will discuss the metaphysical nature of fictional characters and the semantics of proper names.</p>											
【到達目標】											
<p>We aim to obtain deep and accurate mastery of the contemporary analytic philosophical method by studying four important publications on the metaphysics of fiction and on semantics of proper names. We strive to cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.</p>											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<p>We plan to do our reading according to the following schedule. Additional readings may be announced and handed out as necessary during the semester.</p> <p>Day 1: Introduction Day 2: Van Inwagen Day 3: Van Inwagen Day 4: Yagisawa Day 5: Yagisawa. Day 6: Kripke Day 7: Kripke Days 8 - 15: Lycan</p> <p>See 教科書 below</p>											
【履修要件】											
<p>Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.</p>											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ) (2)

[成績評価の方法・観点]

Participation in class discussion and a term paper.

[教科書]

- [1] Van Inwagen, Peter, 1977, "Creatures of Fiction," American Philosophical Quarterly, pp. 299 - 308.
- [2] Yagisawa, Takashi, 2001, "Against Creationism in Fiction," Philosophical Perspectives, pp. 153 - 72.
- [3] Kripke, Saul A., 1972/80 Naming and Necessity, Addendum (a), pp. 156 - 58.
- [4] Lycan, William G., 2018, "Metaphysics and the Paronymy of Names," American Philosophical Quarterly, pp. 405 - 19.

[1]-[4] will be distributed by the instructor free of charge. Additional reading material may be distributed as well.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Read the text, and be prepared to ask questions and express opinions during class discussion.

Here are three useful links:

James Pryor 's Guidelines on Reading and Writing Philosophy:

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici 's Sample Philosophy Paper:

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/

(その他(オフィスアワー等))

You are encouraged to ask questions inside and outside the classroom, in person or via email (takashi.yagisawa@csun.edu). Office hours are held by appointment; email me to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系11

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		20世紀英米哲学購読									
【授業の概要・目的】											
<p>哲学は、議論の積み重ねである。よって哲学に取り組むにあたって最も重要なのは、哲学文献において展開されている議論を明確に把握・再構成し、その成否を客観的に評価するスキルである。また哲学的なエッセイを書くためには、自らそうした議論を論理的に構成していかなければならない（これはもちろん哲学に限らず、学術全般に必要な能力である）。こうした能力は、単に教えられるものではなく、実際に論文と格闘し、レジュメをまとめ、自身の文章を書くことによって初めて培われる。本授業は、こうした練習を通じて、哲学的な議論のスキルを磨く場を提供する。</p> <p>本授業は3つのパートからなる。まず初めに哲学的議論とはどういうものか、また哲学的なエッセイとはどのように書くべきか、という基本的事項を解説する。次に英語で書かれた哲学の入門書を読むことで、哲学的議論の実際例を確認し、それをまとめる方法を練習する。最後に、20世紀哲学の古典論文を読むことで、実際に哲学の1次文献を読解するスキルを身につける。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - 現代英米哲学における基本的・古典的な考え方を理解する - 英語で書かれた哲学論文の内容を理解し、その議論構造を評価できるようになる - 哲学的な議論を含むエッセイを書けるようになる 											
【授業計画と内容】											
<p>第1部（1-3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> - オリエンテーション - 哲学的議論の読み方・立て方 - エッセイの書き方 <p>第2部（4-7回）</p> <ul style="list-style-type: none"> - Blackburn, The Big Questions: Philosophy から複数トピックを選び、読解練習を行う <p>第3部（8-15回）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 英書購読。扱う文献はPeirce, James, Dewey, Lewis などの初期プラグマティズムおよびCarnap, Schlick, Reichenbachなど論理実証主義者の論文から、学生の関心を考慮しつつ決定する。 											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習 I) (2)

[成績評価の方法・観点]

- 授業毎のレジюме・小レポート提出 (30%)
- 授業での発表・議論への参加 (20%)
- 期末レポート (50%)

[教科書]

Simon Blackburn 『The Big Questions: Philosophy』 (Quercus Publishing)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、指定された英語課題論文(3-10頁ほど)を読み込み、授業までにレジюмеを作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系12

科目ナンバリング		U-LET01 35144 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習II) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫 文学研究科 准教授 大塚 淳 文学研究科 特定講師 五十嵐 涼介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		哲学演習II									
【授業の概要・目的】											
適宜個人指導を交えつつ、卒論のテーマの選び方・書き方等に関する指導を行なう。哲学専修卒業予定者は哲学演習III（後期開講）とあわせ、必ず履修すること。											
【到達目標】											
哲学の論文の書き方をマスターすることができる。そのことで、物事を哲学的に考えること、即ち議論の筋道を立てつつ、他者にも理解可能な仕方で、様々な事柄を理解、説明することが可能となる。											
【授業計画と内容】											
1) 論文の書き方I (テーマの選び方・卒論執筆のスケジュール・研究倫理) 2) 論文の書き方II (問い-答え構造・概念の提示の仕方・議論の進め方・犯してはならない議論の過ち) 3) 論文の書き方III (引用の仕方、先行文献の扱い方) (この後、各自の中間発表等にもとづいた具体的な論文指導を行うため、毎回のテーマは設定せず、複数週にわたり一体的な学修を行う) 4) ~ 14) 卒論の中間発表等にもとづいた、個人指導も含めた具体的論文執筆指導 15) フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート (50%) + 平常点評価 (出席状況、授業内での発表・発言) (50%)											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 哲学(演習II)(2)へ続く -----											

哲学(演習II)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

論文の書き方のレクチャーを受けた後、各自、卒論のテーマ、具体的な参照文献等の選定、議論展開の見通し等を検討し、授業内での発表・個別指導に備えること。また発表を行い、個別指導を受けた後は、それにもとづいて最終レポートを執筆すること。この最終レポートは、その時点での卒論の草稿・中間稿に相当する。またこのレポートは、後期に開講される「哲学演習III」における発表、個別指導の資料として用いられる。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系13

科目ナンバリング		U-LET01 35147 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習Ⅲ) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫 文学研究科 准教授 大塚 淳 文学研究科 特定准教授 大西 琢朗 文学研究科 特定講師 五十嵐 涼介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		哲学演習Ⅲ									
【授業の概要・目的】											
哲学演習Ⅱ（前期開講）を踏まえ、引き続き卒論の執筆指導を行なう。哲学専修卒業予定者は哲学演習Ⅱ（前期開講）とあわせ、必ず履修すること。											
【到達目標】											
前期開講の哲学演習Ⅱとあわせて受講することで、哲学の論文の書き方をマスターすることができる。そのことで、物事を哲学的に考えること、即ち議論の筋道を立てつつ、他者にも理解可能な仕方で、様々な事柄を理解、説明することが可能となる。											
【授業計画と内容】											
1) 哲学論文の書き方（論文のフォーマット） 以降は前期に引き続き、参加者による「哲学演習Ⅱ」の最終レポートや授業中における卒論中間発表等を踏まえた個別指導を交えつつ、卒論執筆に関する具体的な指導を行なうため、複数回にまたがる一体的な学修を行う 2) ~ 14) 前期レポートや卒論中間発表にもとづいた、個別指導をも交えた具体的な論文執筆指導 15) 卒業論文の提出に当たっての最終的な諸注意											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
最終レポート（50%）+ 平常点評価（出席状況・授業中での発表・発言）（50%）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中、適宜指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系14

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		統計学の哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>「データを証拠に変える装置」としての統計学は、今日の科学において特権的な役割を担っている。しかしそれだけでなく、帰納推論への形式的アプローチとして見た場合、統計学はヒューム以来の哲学的問題に対する様々な示唆を含んでいる。本授業では、現代統計学を支える数理的枠組みを概観した後、ベイズ統計や古典検定理論を始めとした種々の統計学的手法と、そのもとにある哲学的思想を明らかにする。とりわけ、それらの統計的手法と、現代認識論における内在主義と外在主義とをそれぞれ比較し結びつけることで、統計学と哲学的認識論の関係性を浮かび上がらせる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - ベイズ統計・検定理論など、現代統計学の基本的なアイデアを理解する - 正当化の概念や内在主義・外在主義など、現代認識論の基本的なアイデアを理解する - 現代統計学のもとにある哲学的思想や問題を理解する - 哲学的問題に対する現代統計学の含意を理解する 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. なぜ哲学 / 統計学は統計学 / 哲学の問題になるのか (序章) 3. 確率モデルと統計モデル 4. 意味論・認識論入門 5. 主観的確率解釈 6. ベイズ統計の基礎 7. ベイズ統計の認識論的問題 8. 頻度的確率解釈 9. 古典統計の基礎 10. 古典統計の認識論的問題 11. モデル適合と予測 12. モデル選択の基礎 13. AICと認識論的プラグマティズム 14. まとめ 15. フィードバック (授業なし) 											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

- 授業コメント 20%
- 小課題2回 20%
- 期末レポート 60%

[教科書]

大塚淳 『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- 復習：前回授業範囲でわからなかったところ、気になったところをリストアップする
- 予習：毎回、指定された教科書の範囲を読み、質問や気になったところをリストアップする
- 毎週授業日前日までに、コメントシートに質問・コメントを書き込む

（その他（オフィスアワー等））

- オフィスアワー：火2限
- 授業サイト：<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系15

科目ナンバリング		U-LET02 25200 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古代哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋古代哲学史講義									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、古代ギリシアにおける哲学の誕生と発展を概観します。古代ギリシア哲学は、たんに哲学の起源としての歴史的意味をもつだけではありません。それは、基礎的な諸問題に関する徹底的な思考の範を示すことによって、その後の西洋思想史および諸学問の形成に甚大な影響を与え、また現代においても大きな影響力をもち続けています。</p> <p>「西洋哲学史講義I」では、古代ギリシアを代表する哲学者のひとりプラトンの哲学を概観します。プラトンの哲学の中核には、諸事物の「本質」あるいは「形相」をそれ自体で把握するための方法、すなわち哲学的問答法が存在します。そこで、これを全体の枠組みとしてプラトン哲学を理解するように取り組んでいきます。まず諸事物の「形相」を措定するに至った経緯（『パイドン』のソクラテス哲学的自伝）から語りおこし、次に、哲学的問答法の初期段階として、諸事物のうちにある「形相」を定義しようとする試みを確認し、さらに哲学的問答法の背景をなす「想起説」と『国家』における三つの比喻を説明していきます。講義の終盤では「形相」を通じて専門的知識を確立する「総合と分割の方法」を丁寧に検討したいと思います。この他に「意志の弱さの問題」や「プラトニック・ラブ」などのプラトン哲学における興味深いトピックを解説します。</p>											
【到達目標】											
<p>古代ギリシア哲学の代表的な哲学者の見解を、その哲学者の問題意識を正しく理解した上で、説明できるようになる。</p> <p>古代ギリシア哲学が現代にどのような影響を与えているのか考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のように講義を進めていく予定です。講義はこちらで説明を行うだけでなく、短時間ですが受講者に哲学者の見解を考察して意見交換してもらう時間も設けます。受講者の理解度を見ながら、必要に応じて講義内容の調整や変更を行うこともあります。</p>											
<p>第1回 古代ギリシア哲学史への案内 第2回 プラトンの生涯と著作 第3回 プラトンの対話篇の読み方 第4回 「ソクラテス哲学的自伝」 自然学的原因探求 第5回 「ソクラテス哲学的自伝」 : 形相原因説 第6回 ソクラテスの定義探究 : 探究の背景と構造 第7回 ソクラテスの定義探究 : エレンコスの方法 第8回 意志の弱さの問題 第9回 想起説 第10回 『国家』 : 正義と魂の三区分別 第11回 『国家』 : 太陽・線分・洞窟の比喻 第12回 プラトニック・ラブ 第13回 総合と分割の方法 : 定義の獲得</p>											
----- 系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)

第14回 総合と分割の方法 : 科学的分析と真実在
第15回 最善の宇宙

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験75点 + 授業中に課す小レポート1回25点

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

藤澤令夫 『プラトンの哲学(岩波新書)』(岩波書店、1997年) ISBN:4-00-430537-3 (藤澤先生のプラトン哲学の概説書であり、プラトン哲学を学ぶに当たって非常に参考になります。ただし藤澤先生のプラトン解釈は20世紀後半に学会を風靡した「発展主義解釈」の立場に立ち、私が講義で説明する「新統一主義解釈」の立場とは大きく異なります。)

Hugh H. Benson 『A Companion to Plato』(Malden: Blackwell Publishing Ltd, 2006年) ISBN:978-1-4051-1521-6 (pbk)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業に使用する参考資料を直前に配布します。授業後にきちんと復習しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系16

科目ナンバリング		U-LET02 25202 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古代哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋古代哲学史講義 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、古代ギリシアにおける哲学の誕生と発展を概観します。古代ギリシア哲学は、たんに哲学の起源としての歴史的意味をもつだけではありません。それは、基礎的な諸問題に関する徹底的な思考の範を示すことによって、その後の西洋思想史および諸学問の形成に甚大な影響を与え、また現代においても大きな影響力をもち続けています。</p> <p>「西洋古代哲学史講義II」では、古代ギリシアを代表する哲学者のひとりアリストテレスの哲学を概観します。最初にアリストテレス哲学の基本概念である「形相」と「素材」および「四原因説」について確認をし、現代に伝わる著作の順序にしたがって、アリストテレスの論理学、カテゴリー論、自然学、形而上学、魂論、倫理学、政治学を順に見ていきます。</p>											
【到達目標】											
<p>古代ギリシア哲学の代表的な哲学者の見解を、その哲学者の問題意識を正しく理解した上で、説明できるようになる。</p> <p>古代ギリシア哲学が現代にどのような影響を与えているのか考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のように講義を進めていく予定です。講義はこちらで説明を行うだけでなく、短時間ですが受講者に哲学者の見解を考察して意見交換してもらう時間も設けます。受講者の理解度を見ながら、必要に応じて講義内容の調整や変更を行うこともあります。</p>											
<p>第1回 古代ギリシア哲学史への案内 第2回 アリストテレスの生涯と著作 第3回 自然本性の説明 : 形相と素材 第4回 自然本性の説明 : 四原因説 第5回 論理と知識 : 本質と付帯的属性 第6回 論理と知識 : 科学的知識 第7回 カテゴリー 第8回 運動変化と無限と時間 第9回 あるものであるかぎりのあるものの考察 : 形而上学の問題 第10回 あるものであるかぎりのあるものの考察 : 第一の実在 第11回 生物と魂 第12回 倫理学 : 幸福と人間特有の成果 第13回 倫理学 : 性格の徳と思考の徳 第14回 政治学 第15回 フィードバック</p>											
----- 系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)

【履修要件】

前期に西洋古代哲学史講義Iを履修しておくことが望まれます。

【成績評価の方法・観点】

定期試験75点 + 授業中に課す小レポート1回25点

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Christopher Shields. 『Aristotle. Second edition.』 (London and New York: Routledge, 2014.) ISBN:978-0-415-62249-3

内山勝利 『哲学の歴史1』 (中央公論新社) ISBN:4124035187

【授業外学修(予習・復習)等】

授業に使用する参考資料を直前に配布します。授業後にきちんと復習しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系17

科目ナンバリング		U-LET02 35231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西洋古代の「快樂」をめぐる議論									
【授業の概要・目的】											
<p>ミシェル・フーコーは『性の歴史』のなかで、古代の倫理学の特徴を、道徳的規範に従って、自己を倫理的な主体として形成する実践と捉えた。そこで彼が着目したのが、「快樂」（とりわけ性欲・愛欲）である。古代哲学における生の理想は、快樂を活用すること、あるいは快樂をコントロールし抑制することを通して、自己を確立し自由を目指すことであった。</p> <p>フーコーが着目したように、快樂は西洋古代哲学においていかに生きるのかを考えるうえで重要なテーマであり、ヘレニズム期には様々な快樂主義者たち（そしてそれに反対する反快樂主義）が活躍した。本講義では、西洋古代哲学の展開（ヘレニズム・ローマ期）のなかで、快樂の問題がどのように取り扱われてきたか検討する。またフーコーの解釈も適宜参照しながら議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代哲学における快樂の問題群について理解を深める。 古代哲学史における快樂主義の展開について理解を深める。 古代の快樂をめぐるフーコーの議論を考察することにより、現代哲学への継承について説明ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画で講義を進めるが、進み具合に応じて、受講生の理解を得たうえでプランを変更することがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション：快樂とは 第2回 フーコーについて概説 第3回 プラトン1：快樂主義への批判 第4回 プラトン2：『ピレボス』の快樂論 第5回 アリストテレス1：妨げられない自然的性向の活動 第6回 アリストテレス2：活動に付随する目的としての快樂 第7回 中間のまとめ 第8回 ヘレニズム期の快樂主義者たち1：エピクロス 第9回 ヘレニズム期の快樂主義者たち2：エピクロス派 第10回 ヘレニズム期の快樂主義者たち3：キュレネ派 第11回 ヘレニズム期の反-快樂主義：ストア派 第12回 ヘレニズム期の反-快樂主義：プラトン主義・アリストテレス主義 第13回 古代末期哲学とキリスト教哲学への影響 第14回 フーコーの解釈 第15回 まとめ・フィードバック</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への取り組み(30%)、コメントシート(20%)、レポート(50%)により評価する。
レポートは、古代の快楽をめぐる議論とその発展、関連する哲学的問題を正しく理解して考察ができているかを評価する。授業で扱った内容を把握したうえで、独自の議論ができているものについては高い点を与える。

【教科書】

授業中に指示する
コピーを配布する予定です。

【参考書等】

(参考書)
使用するテキストと合わせて授業のイントロダクション時に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回指示されたテキストを読んで、与えられる課題について考えてくること。

(その他(オフィスアワー等))

積極的な質問と活発な議論を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系18

科目ナンバリング		U-LET02 35231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		中央大学経済学部 教授 濱岡 剛			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アリストテレスにおける形相-素材（質料）理論									
【授業の概要・目的】											
<p>現行のアリストテレス著作集の中で動物学著作は多くスペースを占めている。彼の動物論が、哲学者の余技とか彼の科学論の単なる応用というようなものではなく、彼の存在論に深く関わり、それを理解する上できわめて重要なものであることは、今日アリストテレス研究者のだれもが認めるところである。本講義では、彼の哲学的議論の基本的枠組となっている形相-素材（質料）理論の多面性を、動物学著作、特に『動物の諸部分について』における体の作りに関する議論、『動物の発生について』における動物発生に関する議論などを中心に確認していく。生命現象を説明するに当たって、形相-素材という対概念は「銅像」のような単純な人工物の事例からでは汲み取れない豊かな内実をもっている（それは逆に、明解さを欠くことにつながるおそれもある）。以上の考察を踏まえて、形而上学理論として形相-素材理論を検討する。また、英米の形而上学における近年のアリストテレス主義のリバイバルも念頭に置きながら検討を進めたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アリストテレスの形相-素材（質料）理論について多面的に論じることができる ・アリストテレスの動物学の根底にある存在論的枠組を理解し、動物のあり方についての哲学的考察を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
1日目											
<ol style="list-style-type: none"> 1 アリストテレス著作集における動物学 2 四原因論（『自然学』『形而上学』） 3 『動物誌』の位置づけをめぐる問題 											
2日目											
<ol style="list-style-type: none"> 4 魂と身体/形相と素材（『魂について』） 5 体の作りを説明する（1）：目的と形相（『動物の諸部分について』） 6 体の作りを説明する（2）：素材（質料）（『動物の諸部分について』） 											
3日目											
<ol style="list-style-type: none"> 7 ピュシスの多義性が示す形相-素材の多面性 8 栄養摂取能力 9 中間まとめ・議論 											
4日目											
<ol style="list-style-type: none"> 10 動物発生を説明する（『動物の発生について』第1巻）：前成説と後成説 11 動物発生を説明する（『動物の発生について』第2巻） 12 子が親に似ることを説明する（『動物の発生について』第2、4巻） 											
5日目											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義) (2)

- 13 形相-素材と活動実現態-可能態
- 14 形而上学における形相-素材理論
- 15 まとめ・議論

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

各日の最後に提出してもらおうリアクション・ペーパー（25%）と、レポート（75%）の合計により総合的に評価します。レポートはメールで提出してもらおう予定です（期限は10日程度を考えています）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

アリストテレス 『新版 アリストテレス全集 10（動物論三篇）』（岩波書店、2016年）ISBN:978-4-00-092780-2

アリストテレス 『新版 アリストテレス全集 11（動物の発生について）』（岩波書店、2020年）ISBN:978-4-00-09781-9

山口義久 『アリストテレス入門』（筑摩書房、2001年）ISBN:978-4480059017

授業で取り上げる主要なテキストについては、上記の翻訳から該当箇所をコピーして配布する予定です。

【授業外学修（予習・復習）等】

アリストテレス哲学（特に自然学、形而上学）についてこれまで勉強してこなかった人は、入門書などで基礎知識を得た上で参加してください（その説明と講義での説明との異同を考えてみるのもいいでしょう）。

初回に関連箇所のコピーを配布する予定なので、次の回からは取り上げるテキストに目を通した上で参加してください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は基本的に講義形式で行いますが、内容や資料に関して積極的な質問を歓迎します。不明な点があれば、いつでもメールで問い合わせてください（hamaoka@tamacc.chuo-u.ac.jp）。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系19

科目ナンバリング		U-LET02 35231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プロティノス「グノーシス派論駁」を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>古代末期の新プラトン主義哲学者プロティノスは、第33論考「グノーシス派論駁」(II,9)のなかで、当時彼の教室にも通っていたとされるグノーシス派への批判的議論を展開する。グノーシス主義はユダヤ・キリスト教的伝統に、プラトン・ピュタゴラス主義的要素を加え、ローマでも活動していた。同じくローマを拠点としていたプロティノスは、プラトン主義の立場から、世界の構成や人間のあり方をめぐるグノーシス主義の見解に批判を加えている。</p> <p>本講義の目的は、プロティノスがグノーシス主義の立場をどのような哲学的問題と捉えて批判しているのか、テキストを読みながら検討することにある。日本語訳を基本テキストとしつつ、古典ギリシア語文法を学習している学生には原典テキストを、それ以外の学生には現代西欧語訳を適宜参照してもらいながら読み進める。</p> <p>古代末期におけるギリシア哲学と宗教思想の対話・対立とはいかなるものであったのか、その現代的な意義も視野に入れて考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代哲学史研究の手法を習得する。 古代末期の新プラトン主義とグノーシス主義を理解する。 古代ギリシア思想と宗教思想の対立について説明ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画通り進めるが、進捗状況に応じて、履修者の了解を得たうえで計画を変更することがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 プロティノス哲学概説 第3回 グノーシス主義が移設 第4回から第13回 プロティノス「グノーシス派論駁」(全18章)を読む 第14回 古代末期哲学と宗教思想について 第15回 まとめ・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

議論への積極的な参加（20%）、課題（個別報告など）への取り組み（30%）、学期末レポート（50%）を総合的に評価する。
レポートおよび個別報告については到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

授業中に指示する
教員が邦訳・原典・書外国語訳の資料をコピーして配布し、それを解説する仕方で授業を進める。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
授業初回に、テキストや注釈について詳しく解説します。

【授業外学修（予習・復習）等】

示される課題や、指定されたテキストを読み、理解を深めて授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

積極的な質問と活発な議論を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系20

科目ナンバリング		U-LET02 35231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシア哲学を代表するプラトン（前424/423-前347）の『クラテュロス』は、「名前の正しさを主題とする対話篇であり、言語哲学の先駆けともなる著作です。この著作にはソクラテスとヘルモゲネスとクラテュロスという3人の人物が登場します。ヘルモゲネスは、名前が「規約」によって成立すると主張し、それに対してクラテュロスは、それぞれの事物の名前が「自然本性」的に決まっていると主張します。二人の調停を依頼されたソクラテスは、改めて名前の正しさを考察し、この問題に関する一定の解決策を導き出します。ソクラテスが展開する議論は複雑であり、最終的にソクラテスがどんな立場をとるのかは明らかではなく、ソクラテスが規約説をとるのか、自然本性説をとるのか、それとも第三の立場をとるのかをめぐって、学者たちは議論を続けています。</p> <p>本講義では、この対話篇の主要問題を改めて考察し直していきます。基本的にはオーソドックスな研究手法をとり、『クラテュロス』のテキストを詳細に分析することおよび従来の諸解釈を整理し批判的に検討することを通じて、正しい解釈を見極めることを目指します。しかし本講義の特色は、ソクラテスの形而上学・哲学的方法論に焦点を当てながら、この問題に取り組むことにあります。ソクラテスは、名前の正しさに関して、自分の形而上学・哲学的方法論に依拠して議論していますが、私見では、このソクラテスの形而上学・哲学的方法論が正しく理解されていないために、主要問題も十分に解明されないままであるように思われます。本講義では、講師のこれまでのプラトンの形而上学・哲学的方法論の研究にもとづきつつ、その観点からこの対話篇のソクラテスの立場についても解明しようと試みます。</p>											
【到達目標】											
西洋の学問の体系化に深刻な影響を与えたプラトンの形而上学・哲学的方法論を基本から考え直すことを通じて、基礎的な形而上学・哲学的方法論のあり方を理解し、自分でも検討できるようになること。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に従って講義を進めます。ただし受講者の理解の程度を考慮して、必要に応じた変更を加えながら話を進めたいと思います。											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『クラテュロス』の概要(1)：ヘルモゲネスとの対話</p> <p>第3回 『クラテュロス』の概要(2)：語源の分析</p> <p>第4回 『クラテュロス』の概要(3)：クラテュロスとの対話</p> <p>第5回 従来の解釈の検討(1)：自然本性説</p> <p>第6回 従来の解釈の検討(2)：規約説</p> <p>第7回 従来の解釈の検討(3)：第三の立場</p> <p>第8回 名前制定における「形相」の役割(1)：形相と意味</p> <p>第9回 名前制定における「形相」の役割(2)：形相と事物</p> <p>第10回 「模倣」による名前の説明(1)：語源説明と模倣</p> <p>第11回 「模倣」による名前の説明(2)：名前の定義と模倣</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

- 第12回 名前制定の技術
第13回 クラテュロス説批判がもつ意味
第14回 『クラテュロス』におけるプラトンの形而上学
第15回 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートによって評価します。期末レポートでは、講義に関連するかぎりでの、自分に関心のある問題を取りあげて、5,000字程度で論じてもらいます。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Francesco Ademollo 『The Cratylus of Plato: A Commentary』 (Cambridge University Press, 2011年)
ISBN:9781108458276

【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で参考書目を指示し、必要な資料を配付しますので、必要に応じて予習をして講義に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系21

科目ナンバリング		U-LET02 35240 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		古代哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討し、理解を深める。											
[到達目標]											
従来に関連する研究を踏まえた上で、哲学的に重要な問題を明晰に考察する能力と、建設的に討論する力を養う。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方について説明をおこない、各回の発表者を決定する。 第2回～第29回 西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。話題の選択は自由であるが、発表者には授業参加者が共有できるような明晰な議論が求められる。なお卒業論文提出予定者は、この授業で必ず論文の構想を発表すること。 第30回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（発表と議論への積極的な貢献の両方にもとづいて評価する）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 特になし											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表者は、発表する週の月曜日までに参加者に発表要旨を配布すること。参加者はその発表要旨を事前に読んでおくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系22

科目ナンバリング		U-LET02 35241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『饗宴』を読む(3)									
[授業の概要・目的]											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『饗宴』の原典を精読します。悲劇詩人アガトンがコンテストで優勝した記念のパーティで、ソクラテスや喜劇詩人アリストパネスを含む登場人物たちが、「恋」(エロース)を主題とするスピーチを即興で作り、この神をたたえます。文学作品として非常に完成度が高いだけでなく、「本性において驚くべき美しさ」を例として、プラトンの形而上学において「真実在」と呼ばれるもののあり方が最も詳しく描写されるという点で、哲学的にも非常に重要な対話篇です。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p> <p>今期は209e5-最後までを読み進めます。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
[授業計画と内容]											
<p>最初の回で『饗宴』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回~第14回 『饗宴』 209e5-223d12講読・検討 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
<p>古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

[教科書]

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus II (Oxford Classical Text).』 (Oxford: Oxford University Press, 1901.)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

[参考書等]

(参考書)

Kenneth Dover. 『/Plato: Symposium/ (Cambridge Greek and Latin Classics).』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1980.)

C. J. Rowe. 『/Plato: Symposium/.』 (Warminster: Aris & Phillips Ltd, 1998.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

[授業外学修(予習・復習)等]

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系23

科目ナンバリング		U-LET02 35241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『メノン』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『メノン』の原典を精読します。この著作ではソクラテスとその対話相手メノンとの間で「徳とは何であるのか」「徳は教えられるのか」という問題が考察されます。比較的短い著作ですが、プラトン哲学にとって重要なトピック(例えば、定義を発見するための手続きの説明、探究の不可能性を導く「メノンのパラドクス」、幾何学問題の解答発見にもとづく「想起説」の証明、幾何学にヒントをえた「仮説の方法」など)が盛りだくさんになっています。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『メノン』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回~第14回 『メノン』70a1-100c2講読・検討 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
<p>古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus III (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1903.)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

R. S. Bluck. 『/Plato ' s Meno/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1961.)
R. W. Sharples. 『/Plato: Meno/. 』 (Warminster: Aris&Phillips, 1985.)
Dominic Scott. 『/Plato ' s Meno/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2006.)
必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系24

科目ナンバリング		U-LET03 15204 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋中世哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世哲学史講義 I									
【授業の概要・目的】											
西洋中世哲学の歴史の大まかな流れについての知識を得るとともに、主要な哲学者の教説について理解することを目的とする。中世哲学は古代哲学やキリスト教と深く連関しているので、それらとの関係についての歴史的な理解を深めることも目標とされる。											
【到達目標】											
古代末期から十二世紀までの西洋哲学史の大まかな流れを理解し、説明できるようになる。この時期の主要な思想家の中心思想を理解し、説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第 1回:イントロダクション：中世哲学史の時代区分と学ぶ意義 第 2回:アウグスティヌス(1) 生涯と主要著作、魂・認識論 第 3回:アウグスティヌス(2) 神 第 4回:アウグスティヌス(3) 倫理・政治思想 第 5回:ボエティウス(1) 生涯と主要著作、分有論 第 6回:ボエティウス(2) 普遍の問題 第 7回:エリウゲナ(1) 生涯と主要著作、『神の予定について』 第 8回:エリウゲナ(2) 『ペリフェセオン』 第 9回:アンセルムス(1) 生涯と主要著作、倫理思想 第 10回:アンセルムス(2) 神の存在論的証明 第 11回:十二世紀の思想概観 第 12回:アベラール(1) 生涯と主要著作、倫理思想 第 13回:アベラール(2) 普遍論争 第 14回:シャルトル学派 第 15回:フィードバック：期末試験や授業内容についての質問受付											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験により評価する。											
-----系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)

[教科書]

ほぼ毎回プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を読んでおく。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系25

科目ナンバリング		U-LET03 15206 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋中世哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世哲学史講義 II									
【授業の概要・目的】											
前期「西洋中世哲学史講義 I」の続き。西洋中世哲学の歴史の大まかな流れについての知識を得るとともに、十三世紀以降の主要な思想家の思想について理解することを目的とする。											
【到達目標】											
十三世紀のアリストテレス導入から十四世紀までの西洋哲学史の大まかな流れを理解し、説明できるようになる。 この時期の主要な思想家の中心思想を理解し、説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション：十三世紀の思想的傾向性と歴史的背景 第2回：アルベルトゥス・マグヌス 第3回：トマス・アキナス(1)生涯と主要著作、存在論 第4回：トマス・アキナス(2)神の存在証明 第5回：トマス・アキナス(3)認識論 第6回：トマス・アキナス(4)倫理学・政治思想 第7回：ボナヴェントゥラ 第8回：「ラテン・アヴェロエス主義」 第9回：14世紀の思想的傾向性と歴史的背景 第10回：エックハルト 第11回：ドゥンス・スコトゥス(1)生涯と主要著作、形而上学 第12回：ドゥンス・スコトゥス(2)認識論、倫理学 第13回：オッカム(1)生涯と主要著作、論理学と形而上学 第14回：オッカム(2)認識論、倫理学 第15回：フィードバック：期末試験や授業内容についての質問受付											
【履修要件】											
西洋中世哲学史Iを前提として説明も多いので、西洋中世哲学史Iを先に履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験による。											
【教科書】											
ほぼ毎回プリントを配布する。											
----- 系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系26

科目ナンバリング		U-LET03 35234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		南山大学人文学部 教授 松根 伸治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世の良心論									
【授業の概要・目的】											
<p>良心と呼ばれるものは、私の内部にありながら何らかの意味で私自身とは区別される面や私を越える性質をもつ。それは行動をうながしたり禁じたりするとともに、すでに行なったことを「あれでよかった」とか「あれはまずかった」とか判断する機能を果たすものであり、基準や規則の特徴をそなえている。しかし、私たちはこの基準に常にスムーズに従うわけではなく、迷いや葛藤を経験し、良心の痛みを感じることも多い。</p> <p>日本語で「良心」と訳される西洋語conscienceやGewissenの由来は、ラテン語conscientia（コンスキエンティア；原義は「共に知る」）に求められる。この概念の来歴を知るためにローマの古典と新約聖書における「良心」の用法を概観し、アウグスティヌスによる叙述を検討したうえで、スコラ哲学における良心と良知の議論を詳しくとりあげ、その特徴を考察したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世の良心論に関して、思想史的背景と重要な論点を理解している。 ・行為の善悪を判断する心のはたらきについて、哲学史的理解にもとづき自分なりの主張ができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2回：キケロの良心論 第3回：セネカの良心論 第4回：新約聖書における良心 第5回：アウグスティヌス（1）『告白』 第6回：アウグスティヌス（2）その他の著作 第7回：中間まとめ：意識と良心 第8回：ヒエロニムス『エゼキエル書註解』 第9回：12世紀の良心論 第10回：トマス・アキナス（1）基本概念 第11回：トマス・アキナス（2）良知と自然法 第12回：トマス・アキナス（3）良心の過誤 第13回：スコラ哲学における論争点の整理 第14回：スコラ哲学における良心論の特徴 第15回：まとめと補遺</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業参加度（20％）とレポート（80％）による評価。
レポートは講義内容の中からテーマを選んで論述するもので（2,000字～4,000字）、そのテーマに関する理解の正確さを重視して評価する。

[教科書]

使用しない
テキストの抜粋（日本語訳）を中心としたレジユメを配付する。

[参考書等]

（参考書）

T. C. Potts 『Conscience in medieval philosophy』（Cambridge University Press, 1980）（中世哲学における良心の議論についての簡潔な解説と重要なテキストの英訳。）

R. Sorabji 『Moral conscience through the ages』（Oxford University Press, 2014）（古代から現代までの西洋思想における良心論を総覧する。）

金子武蔵編 『良心：道德意識の研究（日本倫理学会論集12）』（以文社、1977年）（おもに西洋近代の良心論に関する論文集。巻末の「良心論の史料と文献」も有益。）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は必要なし。配布するレジユメを読み、各自の問題意識から考察を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系27

科目ナンバリング		U-LET03 35234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスのアナロギア論									
【授業の概要・目的】											
トマス・アキナスがアナロギアを論じているテキストを詳細に検討することで、トマスのアナロギア論の変遷や、トマスの体系でアナロギアが果たしている役割を明らかにする。また、トマスのアナロギア論の哲学的源泉と哲学・哲学史的重要性について考察を深める。											
【到達目標】											
トマス・アキナスのアナロギア論について基本的な理解ができるようになる。またアナロギア論の歴史的背景について、ある程度理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1-2回 イン트로ダクション トマスの主要な主張とアナロギア論の歴史的源泉・背景											
第3-4回 『命題集註解』におけるアナロギア											
第5-6回 『真理論』におけるアナロギア											
第7-9回 『神学大全』におけるアナロギア											
第10回 『神名論註解』におけるアナロギア											
第11-12回 『形而上学註解』におけるアナロギア											
第13回 その他の作品におけるアナロギア											
第14回 まとめ：歴史的源泉とトマスのアナロギア論の変遷											
第15回 フィードバック：授業内容に対する質問受付											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートによって評価する。

[教科書]

原典資料（翻訳）を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

（事前に配布する）講義で扱うトマスなどのテキスト（翻訳）について、事前に読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系28

科目ナンバリング		U-LET03 35234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの<モドゥス(modus)>研究(4):意味論的側面(続)									
【授業の概要・目的】											
トマス・アキナスが言葉の意味表示を論じる際に用いている<モドゥス>というタームの用法を考察し、トマスの体系で<モドゥス>が果たしている役割を明らかにする。 また、<モドゥス>概念の哲学・哲学史的重要性について考察を深める。											
【到達目標】											
トマス・アキナスの思想で重要な役割を果たしている諸概念 存在(esse)、様態(modus)、 理性・理拠(ratio)、意味表示(significatio)、分有(participatio) と概念間の関係について、基 本的な理解ができるようになる。 また<モドゥス>の概念にいくつかの歴史的源泉があることを理解する。											
【授業計画と内容】											
第1-2回：イントロダクション トマス・アキナスにおけるモドゥス(modus)の用例 西洋哲学史における<モドゥス>の重要性 トマスの<モドゥス>の存在論・倫理的・意味論的側面(前年度講義内容の復習)											
第3-6回 モディズム(様態論)の伝統とトマス											
第7-13回 モドゥスとアナロギア											
第14回 まとめ：トマス・アキナスの<モドゥス>の意味論的側面 歴史的源泉 存在論的側面との連関											
第15回 フィードバック：授業内容に対する質問受付											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートによって評価する。											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に原典資料（翻訳）を配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に配布した原典資料を読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系29

科目ナンバリング		U-LET03 35242 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中世哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行う。発表及び発表内容についての議論を通じて、中世哲学史のさまざまな時代・領域の論点についての知識を深め、哲学・哲学史的分析力を高めることを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世哲学の諸問題について広く学び、歴史的連関と哲学的重要性について説明できるようになる。 ・自身の哲学的関心を原典テキストに基づいて明快に論じることができるようになる。 ・他者の批判的吟味を理解し、それを自分の議論展開や論文作成に活かすことができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。</p> <p>第1回 打ち合わせ、発表順の決定 第2-14回 各自の研究発表と質疑応答 第15回 まとめ、質問受付</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。発表の内容、討論への参加などにより評価するが、最低1回の発表を行うことが前提となる。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業の特性上、発表担当者は授業外にその準備をすることが必要である。また、その他の出席者も担当者の予告した発表内容について、あらかじめ予習することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
中世哲学史を専攻している学生は必修とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系30

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナス『対異教徒大全』精読Ⅰ									
[授業の概要・目的]											
トマス・アキナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味が理解できるようになる。 トマス・アキナスの哲学思想を原典に即して理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
本年度は昨年度に引き続き、第2巻第92章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「分離実体」に関する諸問題となる。 (1回) イントロダクション (2~14回) 『対異教徒大全』第2巻92章から95章の精読 (15回) まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系31

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 II									
[授業の概要・目的]											
前期の「トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 I」の続き。トマス・アキナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味が理解できるようになる。 トマス・アキナスの哲学思想を原典に即して理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、第2巻第96章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「分離実体」に関する諸問題となる。 (1回)イントロダクション (2~14回)『対異教徒大全』第2巻96章から101章の精読 (15回)まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系32

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アベラールの『哲学者、ユダヤ人、キリスト教徒の対話』を読む									
[授業の概要・目的]											
アベラールの Collationes (『哲学者、ユダヤ人、キリスト教徒の対話』)の読解を通して、自然法や最高善、徳についてのアベラールの基本的な考え方を理解する。											
[到達目標]											
自然法や最高善、徳についてのアベラールの基本的な考え方を理解する。 ラテン語で書かれたテキストを読むことができるようになる。											
[授業計画と内容]											
アベラールの Collationes (『哲学者、ユダヤ人、キリスト教徒の対話』)のラテン語テキストを丁寧に読む。アベラールが、信仰や自然法、最高善、徳について論じたテキストを読むことで、各問題について、アベラールの基本的な考え方を理解する。											
第1回:イントロダクション:文献案内とテキストのコピー配布 第2-14回:テキストの読解:Collationes 第15回:フィードバック:まとめ、質問受付											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
Peter Abelard 『Collationes』 (Oxford University Press, 2001) (ラテン語テキストと英訳。作品についての解説もある。)											
[参考書等]											
(参考書) Peter Abelard 『Ethical Writings』 (Hackett, 1995) (比較的安価で入手が容易な英訳)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で読む箇所の訳読ができるように予習する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系33

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの『ニコマコス倫理学註解』を読む									
[授業の概要・目的]											
トマス・アキナス『ニコマコス倫理学註解』の第四巻を読み、トマス・アキナスによるアリストテレスの徳論の解釈を考察する。今年度は金銭に関わる徳・悪徳の議論の部分を読む。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ラテン語で書かれたスコラ哲学のテキストを読むことができるようになる。 ・スコラ哲学（註解）特有の表現や術語に慣れる。 ・議論の構造を理解しながら、読むことができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
トマス・アキナスの『ニコマコス倫理学註解』第四巻を丁寧に読む。今年度は金銭に関わる徳・悪徳の議論の部分を読む。											
(第1回)イントロダクション：文献案内、テキストのコピーの配布											
(第2-14回)テキストの精読											
(第15回)フィードバック：まとめ、質問受付											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
Thomas Aquinas 『Sententia Libri Ethicorum』 (Opera Omnia Iussu Leonis) (初回にテキストのコピーを配布する予定。)											
[参考書等]											
(参考書)											
Thomas Aquinas 『Commentary on Aristotle's Nicomachean Ethics』 (Dumb Ox Books, 1993)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で読む箇所について訳読ができるように予習をすること。 ギリシア語の該当部分についても目を通しておくことが望ましい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系34

科目ナンバリング		U-LET04 25208 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋近世哲学史)(講義) History of Western Philosophy Lectures				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋近世・近代哲学史概説(近世)									
【授業の概要・目的】											
デカルトから前批判期のカントまでの近世哲学の歴史を検討し、その特徴を明らかにする。											
【到達目標】											
哲学史を理解し知識を身に付ける。 哲学的な問いとはどのようなものであるのかを理解し、そうした問いについて哲学的に考察する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス											
第2回 デカルトの形而上学 「われ思う、ゆえにわれあり」											
第3回 デカルトの形而上学 神の存在証明											
第4回 デカルトの自然学											
第5回 デカルトと心身問題											
第6回 デカルト以降の心身問題：機会原因論											
第7回 スピノザ『エチカ』 方法と一元論											
第8回 スピノザ『エチカ』 精神と心身問題											
第9回 スピノザ『エチカ』 感情論											
第10回 スピノザ『エチカ』 自由と倫理											
第11回 ライプニッツ 方法と論理学											
第12回 ライプニッツ 形而上学											
第13回 ライプニッツ 弁神論											
第14回 ライプニッツ・ヴォルフ学派と前批判期カント											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間レポートと定期試験(筆記)により評価する。											
----- 系共通科目(西洋近世哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋近世哲学史)(講義)(2)

[教科書]

レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

各自の関心に応じて講義内容を踏まえて自主的に学習し深めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系35

科目ナンバリング		U-LET04 25210 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋近世哲学史)(講義) History of Western Philosophy Lectures				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋近世・近代哲学史概説(近世)									
【授業の概要・目的】											
カントの批判哲学および初期ドイツ観念論の歴史を辿り、その特徴を論ずる。											
【到達目標】											
哲学史を理解し知識を身に付ける。 哲学的な問いとはどのようなものであるのかを理解し、そうした問いについて哲学的に考察する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス											
第2回 カントの理論哲学 前批判期のカントと「アприオリな総合判断」について											
第3回 カントの理論哲学 感性論と悟性論											
第4回 カントの理論哲学 弁証論											
第5回 カントの道徳哲学 定言命法											
第6回 カントの道徳哲学 実践理性のアンチノミー											
第7回 カントの道徳哲学 道徳と宗教											
第8回 カントの美学											
第9回 カントと自然科学 カテゴリーと自然											
第10回 カントと自然科学 機械論と有機体											
第11回 カントとフィヒテの間 ラインホルト、エーネジデムス											
第12回 カントとフィヒテの間 ヤコービ											
第13回 批判哲学から知識学へ(フィヒテ) 三つの根本命題											
第14回 批判哲学から知識学へ(フィヒテ) 理論的部門と構想力											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間レポートおよび定期試験(筆記)。											
-----系共通科目(西洋近世哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(西洋近世哲学史)(講義)(2)

[教科書]

レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自の関心に応じて講義内容を踏まえて自主的に学習し深めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系36

科目ナンバリング		U-LET04 35236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代哲学古典講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「精神章」Bである。精神章Bでは、古代の「法状態」における人倫の解体を経て、中世の封建社会からアンシャンレジームを経てフランス革命までの西欧史が概念的に再構成される。今期は、1. 「自分から疎外された精神 陶冶」、I 「疎外された精神の世界」を中心として扱う。ヘーゲルの理解する封建社会においては、個人が社会から切り離され、そこから疎外されると同時に、その疎外構造の中で、国家権力と富（経済）と自己意識と関わり合いながら反転していく帰趨が描かれる。</p>											
【到達目標】											
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および精神章の構造と課題 第3回 自然からの形成 = 陶冶と疎外 第4回 現実性の国と『ラモーの甥』 第5回 優良と劣悪 第6回 国家権力と富 第7回 自己意識と「国家権力と富」との関係 第8回 判断から推理へ（精神の構造） 第9回 奉仕のヒロイズム 第10回 高潔な意識と下賤な意識 第11回 ことば 第12回 へつらいのヒロイズム 第13回 高潔な意識と下賤な意識の反転 / 国家権力と富の反転 第14回 「引き裂かれ」のことば 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

櫻山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

精神章B・Iについては以下も参照のこと

デイドロ『ラモーの甥』岩波文庫、1964年

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系37

科目ナンバリング		U-LET04 35236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代哲学古典講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「精神章」Bである。精神章Bでは、古代の「法状態」における人倫の解体を経て、中世の封建社会からアンシャンレジームを経てフランス革命までの西欧史が概念的に再構成される。今期は、I. 「自分から疎外された精神 陶冶」、2 「信仰と純粹理知」を中心として、II. 「啓蒙」へと進んでいく。ここで描かれる信仰と合理的志向#8212#8212これが啓蒙を生み出す#8212#8212の相克がフランス革命を帰結していく。</p>											
【到達目標】											
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および精神章の構造と課題 第3回 純粹意識の現実性 第4回 信仰 第5回 純粹理知 第6回 信仰の構造 第7回 教団 第8回 純粹理知の構造 第9回 啓蒙とは 第10回 啓蒙の信仰との戦い 第11回 誠実さ 第12回 目的の追求 第13回 宗教の効用 第14回 意志 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

櫻山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系38

科目ナンバリング		U-LET04 35245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋哲学史古典精読									
【授業の概要・目的】											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> 、精神章C. 「自分自身を確信した精神」、b. 「ずらかし」を精読する。この箇所ではヘーゲルは、前節で示されたカント道徳論の要請論にたいする根本的な批判を行い、同時代の精神としての良心へと展開していく。この箇所の読解を通じて、ヘーゲルのカント批判と同時代観について検討する。											
【到達目標】											
哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身に付ける。 ヘーゲルを中心とした哲学史について理解する。 古典的テキストの現代的意義について考察することにより、哲学的思考の訓練を行う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 『精神現象学』の成立と研究史について担当者より概説する。授業の進め方と準備・発表の方法を確認し、出席者の担当部分を決定する。 第2回~第14回 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> の講読 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> を精読し、内容について討論する。学生の習熟度や毎回の予定を示すことはできないが、おおむね下記のPHB版で1回2頁程度を目処として進行する。第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。この回を補充に充てることもある。											
【履修要件】											
ドイツ語文法をひとつおりのり学習し終えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点にて評価を行う。											
【教科書】											
G. W. F. Hegel 『Phänomenologie des Geistes』 (Felix Meiner) ISBN:978-3-7873-0769-2 (Herausgegeben von Heinrich Clairmont und Hans Friedrich Wessels, Philosophische Bibliothek 414. 1987. Neuausgabe. Mit einer Einleitung von Wolfgang Bonsiepen)											
----- 西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)へ続く -----											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講読予定の箇所(2頁程度)について必ず予習してのぞむこと。(授業ではドイツ語の文法上の説明及び内容理解について問うのでそのつもりで準備すること) 関連箇所について既存のコメンタールなどを参照しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系39

科目ナンバリング		U-LET04 35245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋哲学史古典精読									
[授業の概要・目的]											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> 、精神章C. 「自分自身を確信した精神」、a. 「道徳的世界観」を精読する。この箇所は、ヘーゲルがカント道徳論、とくにその要請論を再構成している箇所である。この箇所の検討を通じて、ヘーゲルのカント道徳論への評価を明らかにする。											
[到達目標]											
哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身に付ける。 ヘーゲルを中心とした哲学史について理解する。 古典的テキストの現代的意義について考察することにより、哲学的思考の訓練を行う。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 『精神現象学』の成立と研究史について担当者より概説する。授業の進め方と準備・発表の方法を確認し、出席者の担当部分を決定する。 第2回~第14回 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> の講読 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> を精読し、内容について討論する。学生の習熟度や毎回の予定を示すことはできないが、おおむね下記のPHB版で1回2頁程度を目処として進行する。 第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。											
[履修要件]											
ドイツ語文法を一通り学習し終えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点にて評価する。											
[教科書]											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> (Felix Meiner) ISBN:978-3-7873-0769-2 Herausgegeben von Heinrich Clairmont und Hans Friedrich Wessels, Philosophische Bibliothek 414. 1987. Neuauflage. Mit einer Einleitung von Wolfgang Bonsiepen											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
講読予定の箇所(2頁程度)について必ず予習してのぞむこと。(授業ではドイツ語の文法上の説明及び内容理解について問うのでそのつもりで準備すること) 関連箇所について既存のコメンタールなどを参照しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系40

科目ナンバリング		U-LET05 25302 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本哲学史講義 1									
【授業の概要・目的】											
日本哲学史を 西田幾多郎、近代日本哲学の発展から京都学派の哲学への二部に分けて日本哲学の形成過程を概観し、さらに、これまで論じられてきた主要問題を通して日本哲学のあり方、意義について検討する。このようにして日本哲学史についての理解を深めることが、授業の目的である。											
【到達目標】											
日本哲学における近代初頭から京都学派(第二次世界大戦まで)の主要テーマ、主要問題を理解し、さらにそれを自ら批評することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題に基づき、授業を進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「日本哲学」の現状 2 西田幾多郎の哲学 1 3 西田幾多郎の哲学 2 4 西田幾多郎の哲学 3 5 西田幾多郎の哲学 4 6 明治期から西田幾多郎までの日本哲学史概要 7 明治期から西田幾多郎までの日本哲学史概要 8 井上哲次郎の現象即實在論 9 清沢満之の仏教的哲学 10 平塚らいてうのフェミニズム 11 京都学派の哲学－概要 12 三木清の哲学 13 戸坂潤の哲学 14 中井正一の哲学 15 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%と前期末のレポート試験50%による。											
----- 系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で配付する資料、および授業中紹介する図書を参考に、学んだ内容について理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系41

科目ナンバリング		U-LET05 25304 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本哲学史講義 2									
【授業の概要・目的】											
<p>京都学派とその周辺の哲学者の思想を、いくつかのテーマを追う形で考察することが、この授業の目的である。さらに、講義で考察する日本哲学の問題が、私たち各自の経験においてどのような意義をもつのか、その経験とどのように結びつき得るのかについても検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>テーマについて理解を深め、さらにそれを自ら批評することを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような日本哲学史上の主要問題を課題とし、授業を進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 翻訳と言語：翻訳から見る哲学と近代日本の問題 3 翻訳と言語：西田幾多郎の翻訳論 4 翻訳と言語：和辻哲郎の「日本語と哲学の問題」 5 芸術の時間論：九鬼周造－1 6 芸術の時間論：九鬼周造－2 7 芸術と実存：九鬼周造－3 8 実存協同：田辺元－1 9 実存協同：田辺元－2 10 自他論：西田幾多郎と田辺元－1 11 自他論：西田幾多郎と田辺元－2 12 風土：和辻哲郎－1 13 表現：木村素衛－1 14 表現：木村素衛－2 15 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%と後期末のレポート試験50%による。											
----- 系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で紹介する参考書を手がかりとし、学んだ内容について理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系42

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		和辻哲郎の『風土』再考									
【授業の概要・目的】											
和辻哲郎の『風土』は、学術的研究として批判を受けながらも、研究対象として今日もさらに新たな考察を生み出している。授業では、先行研究に基づき、和辻自身の「風土」の概念を確認するとともに、自然、歴史性、災害、芸術という観点から「風土」の可能性を検討する。											
【到達目標】											
和辻の『風土』に関する先行研究の主張を理解し、和辻のこの著作に関する方法論を評価しつつ批判し、その可能性を見いだすことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2 『風土』の概説 3 和辻のフッサール受容と批判ー 4 和辻のフッサール受容と批判ー 5 オギュスタン・ベルクの風土批判ー 6 オギュスタン・ベルクの風土批判ー 7 和辻のハイデガー受容と批判ー歴史性の問題ー 8 和辻のハイデガー受容と批判ー歴史性の問題ー 9 自然か風土か デーヴィッド・ジョンソンの見解 10 自然か風土か デーヴィッド・ジョンソンの見解 11 風土としての芸術 12 風土としての芸術 13 風土と災害 14 風土と災害 15 風土の展望とフィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%と期末のレポート試験50%による。											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系43

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「私と汝」の諸問題									
【授業の概要・目的】											
西田幾多郎は1932年に論文「私と汝」を発表した。この論文により、それまでの観念論的傾向の強い哲学が、具体的な人間性と現実的社会性を獲得したとも言える。講義では、この転機とも言える思索の思想的、歴史的背景を探るとともに、現実の社会における自他論の意義について、考察する。「田辺元は、私と汝」の意義を重視せず批判的に捉え、社会存在の論理を構築した。両者の立場の違いを比較することも、講義での考察の重要な一部となる。											
【到達目標】											
西田の論文「私と汝」の意義を評価し、この自他論に対する田辺の批判的立場を参照することで、両者の根本的思想の違いを理解する。さらに西田の「私と汝」の思想背景や欠落点なども探る。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題を通して考察を深めてゆく。 1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2 「私と汝」の概説 3 「私と汝」の思想背景ー 3 「私と汝」の思想背景ー 4 田辺元の「私と汝」批判ー 5 田辺元の「私と汝」批判ー 6 田辺哲学における自他論ー 7 田辺哲学における自他論ー 8 西田と田辺の自他論比較ー 9 西田と田辺の自他論比較ー 10 ジェシカ・ベンジャミンの自他論ー 11 ジェシカ・ベンジャミンの自他論ー 12 西田の「私と汝」の対等性 13 西田の「私と汝」の社会性 14 総論 15 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%と後期末のレポート試験50%による。

[教科書]

使用しない
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系44

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学文学学術院文化構想学部 小林 信之 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「形なきもの」をめぐる省察									
【授業の概要・目的】											
<p>ハイデガーは、形相 質料、形式 素材の関係が、西欧形而上学の根底にあって支配力をおよぼしつづける思考様式であることを洞察した。だとすれば、かれの存在の思想は「形」との格闘であったということもできる。他方、西田幾多郎は「形なきものの形を見、声なきものの声を聞く」と語った。ここでもまた同様に、西欧哲学と対峙しつつ「形」をめぐるくりひろげられた思考の跡をうかがうことができる。</p> <p>この講義は、形と形なきものへの問いに収斂する思想を、日本と西欧の幾人かの哲学者に尋ねて、そこからひろく、美、像、感情、詩といったテーマ系に展開することを試みるものである。具体的には、美における否定性（無関心性ともののはれ）、像と構想力をめぐる諸問題、ポイエーシスとプラクシス等が主題化される。</p>											
【到達目標】											
<p>講義は、主として日本における文化形成の原理を、西欧哲学の光源から照らしたことで深く省察することをめざしている。したがってなにか実利的な到達目標が設定されているわけではなく、ただ哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせるための訓練の場と考えてほしい。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおよそ以下のような内容を順次あつかう予定である（変更の可能性あり）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス： 趣旨説明と全体の展望 2. 美における否定性（1）： カント『判断力批判』の美の分析論から（現象における形としての美と超感性的なもの。美と倫理） 3. 美における否定性（2）： 無関心性にかんする諸解釈（ショーペンハウアー、ニーチェ、ハイデガー、デリダ） 4. 美における否定性（3）： 日本近代における受容（大西克礼のもののあはれ論、田邊元の目的論的判断力の解釈ほか） 5. 美における否定性（4）： 経験の現在性（西田幾多郎ほか） 6. 像をめぐる諸問題（1）： カントの構想力論とハイデガーによる解釈 7. 像をめぐる諸問題（2）： 三木清の構想力論 8. 像をめぐる諸問題（3）： 影像論 9. あはれと悲哀（1）： 情態性とエポケーについて 10. あはれと悲哀（2）： 不安と世界の非情性 11. あはれと悲哀（3）： もののあはれの現象学 12. 詩作について（1）： ポイエーシスとプラクシス 13. 詩作について（2）： カント「自然の技術」について 14. 詩作について（3）： 九鬼周造の詩論 15. 総括とフィードバック 											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートまたは試験。講義内での質疑、議論への参加も評価にくわえる。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系45

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学東洋文化研究所東アジア研究部門 中島 隆博 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本の近代思想を読み直す 哲学									
【授業の概要・目的】											
日本の近代思想を、哲学者の言説をたどりながら、明治から平成に至るまで通観します。具体的には、中島隆博『日本の近代思想を読み直す 哲学』（東京大学出版会、2023年）、とりわけその「資料編」を一緒に読みながら、日本近代哲学の可能性と限界を考えてみたいと思います。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本近代哲学を通観して（ある程度）理解できるようになるはずです。 ・西洋哲学研究だけでなく中国哲学研究やインド哲学研究への目配りができるようになるはずです。 ・戦後の哲学や女性哲学者の議論にも触れることができます。 											
【授業計画と内容】											
第1回 日本哲学の系譜学											
第2回 二つの啓蒙――福沢諭吉と中江兆民 霊魂不滅論争											
第3回 東京学派の哲学											
第4回 近代日本における中国哲学 近代日本におけるインド哲学											
第5回 京都学派の礎――西田幾多郎											
第6回 帝国日本を支える論理――田辺元											
第7回 フィロロジ―の行方――和辻哲郎 偶然性と未来への志向――九鬼周造											
第8回 ディアスポラの哲学――三木清 マルクス主義哲学――戸坂潤											
第9回 東北大学で展開した哲学											
第10回 戦後民主主義――丸山眞男											
第11回 戦後マルクス主義哲学――梅本克己 経験と思想――森有正											
第12回 神秘について――井筒俊彦 立ち現われ一元論――大森荘蔵											
第13回 共同主観性――廣松渉 あわいの哲学――坂部恵											
第14回 装飾的思考――北川東子 「自分」という謎――池田晶子											
第15回 まとめ											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[履修要件]

中島隆博『日本の近代思想を読み直す 哲学』（東京大学出版会、2023年）を通読しておいてください。

[成績評価の方法・観点]

・平常点とレポートで評価します。議論への積極的な取り組み50%、レポート50%といった配分です。

[教科書]

中島隆博『本の近代思想を読み直す 哲学』（東京大学出版会、2023年）（早ければ2月に出版されますが、遅くとも授業開始前には出版されます）

[参考書等]

（参考書）

その他の文献については授業中に紹介しますが、教科書に詳細な参考文献表をつけていますので、ご関心のある方はそれらにも目を通してみてください。

[授業外学修（予習・復習）等]

集中講義なので、第1回授業開始前に、全体を最後まで通読しておくことをお願いします。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系46

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代哲学古典講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「精神章」Bである。精神章Bでは、古代の「法状態」における人倫の解体を経て、中世の封建社会からアンシャンレジームを経てフランス革命までの西欧史が概念的に再構成される。今期は、1. 「自分から疎外された精神 陶冶」、I 「疎外された精神の世界」を中心として扱う。ヘーゲルの理解する封建社会においては、個人が社会から切り離され、そこから疎外されると同時に、その疎外構造の中で、国家権力と富（経済）と自己意識と関わり合いながら反転していく帰趨が描かれる。</p>											
【到達目標】											
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および精神章の構造と課題 第3回 自然からの形成 = 陶冶と疎外 第4回 現実性の国と『ラモーの甥』 第5回 優良と劣悪 第6回 国家権力と富 第7回 自己意識と「国家権力と富」との関係 第8回 判断から推理へ（精神の構造） 第9回 奉仕のヒロイズム 第10回 高潔な意識と下賤な意識 第11回 ことば 第12回 へつらいのヒロイズム 第13回 高潔な意識と下賤な意識の反転 / 国家権力と富の反転 第14回 「引き裂かれ」のことば 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

櫻山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

精神章B・Iについては以下も参照のこと

デイドロ『ラモーの甥』岩波文庫、1964年

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系47

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代哲学古典講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「精神章」Bである。精神章Bでは、古代の「法状態」における人倫の解体を経て、中世の封建社会からアンシャンレジームを経てフランス革命までの西欧史が概念的に再構成される。今期は、I. 「自分から疎外された精神 陶冶」、2 「信仰と純粹理知」を中心として、II. 「啓蒙」へと進んでいく。ここで描かれる信仰と合理的志向#8212#8212これが啓蒙を生み出す#8212#8212の相克がフランス革命を帰結していく。</p>											
【到達目標】											
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および精神章の構造と課題 第3回 純粹意識の現実性 第4回 信仰 第5回 純粹理知 第6回 信仰の構造 第7回 教団 第8回 純粹理知の構造 第9回 啓蒙とは 第10回 啓蒙の信仰との戦い 第11回 誠実さ 第12回 目的の追求 第13回 宗教の効用 第14回 意志 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

櫻山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25341 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学文学部 准教授 景山 洋平			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		存在の問いの人間性とその歴史的布置：前期ハイデガーにおける言説実践の研究									
[授業の概要・目的]											
<p>本演習では、Martin HeideggerのSein und Zeitおよび全集60巻Phaenomenologie des religioesen Lebens、全集19巻Platon:Sophistesの必要箇所を精読すると共に、当時の新約聖書研究（プルトマンなど）やプラトン解釈（マールブルク学派など）の文献を考察する。Sein und Zeitの実存論的分析において現存在の本来性を「証し」する良心現象が「呼ぶ者」と「呼ばれる者」の関係により記述されるように、ハイデガーの現象学的存在論はある特定の対話構造に貫かれている。これは現象学を構成するロゴス概念が相互共同的な語りとされることと符合する。Sein und Zeitにおいて、いわば対話を通して、「問う者」としての現存在自身がおのれを見えるようにし、おのれを示すのである。しかるに、『存在と時間』に先だつ諸講義を検討すると、ハイデガーが新約聖書のパウロ書簡やアウグスティヌスの『告白』、そしてプラトンの対話篇がもつ言説実践としての性格に着目していたこと、しかもその際に同時代の聖書学やギリシア哲学研究を意識していたことが分かる。ここから、西洋哲学における言説実践の歴史的系譜が、「存在の問い」を担う人間性（現存在）が実存論的分析を通して語り出される際の<古層>となったことが予想される。この点を考察することは、現象学的存在論における人間概念の歴史的位位置と含蓄の理解につながるだろう。本演習では、こうした見込みの元に、参加者とともSein und Zeitの新たな解釈に取り組みたい。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1．演習での訳読作業により、現象学の古典的著作を原書で読解するための語学力を身につける。 2．現象学のテキストの精密な読解と、これを各自の研究に活用するための方法を身につける。 3．ハイデガー哲学の根本問題とその哲学的意義を把握できるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>毎回一名から数名の訳読と報告を行い、それにつづき教員が訳読とテキストの哲学的意義へのコメントを行い、その後は全員で討議する。以下に各回の講読予定を示すが、授業の進度はそのつど前後しうる。毎回2～3頁ほど講読する。</p> <p>第一回 インTRODクション 第二回～三回 Sein und Zeit, 34節「語り」概念を中心に 第四回 Sein und Zeit, 7節(B)「ロゴス」概念を中心に 第五回～六回 Sein und Zeit, 56～57節「良心」の呼び声の構造を中心に 第七回～九回 Phaenomenologie des religioesen Lebens およびプルトマンなど同時代の新約聖書およびアウグスティヌスの研究文献 第十回～十三回 Platon:Sophistes およびマールブルク学派やシュテンツェルなど当時のプラトン研究文献 第十四回：講読箇所に関する全体的考察 第十五回 フィードバック</p>											
----- 日本哲学史(演習)(2)へ続く -----											

日本哲学史(演習)(2)

【履修要件】

第二外国語としてドイツ語を履修したことは絶対条件でない。だが、毎回ドイツ語のテキストを講読するので、ドイツ語初心者はできるかぎり早めに最低限の語学力を身につけるよう努めてほしい。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への参加の質など 70%）と学期末のレポート（30%）で評価する

【教科書】

授業で講読箇所をコピーして配布する。ただし、Martin Heidegger, Sein und Zeit, Max Niemeyerは比較的廉価なので、できれば各自購入してほしい。

【参考書等】

（参考書）

景山洋平『「問い」から始まる哲学入門』（2021）ISBN:978-4334045708（第一章で、ハイデガーのロゴス概念から導かれる人間概念の概要を論じています。参照していただくと、授業の理解が遥かに容易になります。）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前には講読箇所を丁寧に読解し、語学上の事項と内容に関して検討することが必要。また各自の研究上の関心と関係づけて考えたい者は、授業中に提起する問いを準備してほしい。授業後には、講読した箇所の内容をあらためて咀嚼し、各自の研究に活かしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系49

科目ナンバリング		U-LET05 25343 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		上原 麻有子 WIRTZ, Fernando Gustavo	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		日本哲学の立場から見た現代日本の社会政治問題/ Socio-political Problems in Contemporary Japan from the Perspective of Japanese philosophy									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、日本哲学の立場から現代日本におけるさまざまな社会問題について考えます。この授業で、フェミニズム、人種差別、イデオロギーなどのトピックについて議論します。現代社会がいかにマイノリティに対して多くのステレオタイプや抑圧的な構造を構築しているかを学びます。</p> <p>In this class we will reflect about different social problems in contemporary Japan from the perspective of Japanese philosophy. In this class we will discuss topics such as feminism, racism and ideology. We will learn how our contemporary society reproduces many stereotypes and oppressive structures towards minorities.</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、以下のことを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> -哲学の普遍性について考える。 -異なる著者の議論を再構築する。 -日本の伝統的な哲学を批判的に評価する。 <p>In this class, students will learn to</p> <ul style="list-style-type: none"> -critically reflect on the universality of philosophy -reconstruct the arguments of the different authors -evaluate critically the traditional Japanese thought 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画は以下の通りであるが、ゲストスピーカーの先生方による授業も予定されている。以下の課題の順序や細部が多少変更されることもある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 多文化主義 (西田幾多郎) 第3回 多文化主義 (西田幾多郎) 第4回 フェミニズム (山川菊栄) (担当者: 有坂陽子) 第5回 フェミニズム (山川菊栄) (担当者: 有坂陽子) 第6回 レイシズム (人種差別) (担当者: 有坂陽子) 第7回 レイシズム (人種差別) (担当者: 有坂陽子)</p>											
----- 日本哲学史(基礎演習) (2)へ続く -----											

日本哲学史(基礎演習)(2)

- 第8回 技術の哲学 (三木清)
第9回 技術の哲学 (三木清)
第10回 身体の問題 (西田幾多郎)
第11回 身体の問題 (西田幾多郎)
第12回 デジタル時代の政治 (戸坂潤)
第13回 デジタル時代の政治 (戸坂潤)
第14回 デジタル時代の政治 (戸坂潤)
第15回 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(発表内容、発言等の授業への積極的参加)により評価する。

【教科書】

使用しない
資料等は授業中に配布する、またはPANDAに掲載する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

予習: 授業で紹介する参考文献を適宜読み、ディスカッションに参加できるよう準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系50

科目ナンバリング		U-LET05 25343 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 藤貫 裕			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		九鬼周造の時間論と偶然論（講読）									
【授業の概要・目的】											
<p>本基礎演習では、近代日本の哲学者九鬼周造(1888-1941)の論文集『人間と実存』（1939）に収録された二つの論文「形而上学的時間」（1931）と「驚きの情と偶然性」（1939）を講読する。九鬼をはじめとする日本の哲学者（特に西田幾多郎や田辺元といった京都学派の哲学者）の文献読解における困難の一つとして、論述の射程の広さと密度の濃さが挙げられる。例えば今回取り上げる九鬼の二論文では、身近な出来事（例 山の中で蛇を見かけることや四季の移り変わり）から形而上学的な話題（例 世界全体の偶然性や時間的回帰）までが、古今東西の哲学思想を縦横に参照しながら、整然とかつ凝縮された仕方で論じられており、読解は一筋縄にはいかない。そこで本演習では、参加者同士で議論しながらそれらの論述を丁寧に読みほぐすことで、日本哲学史研究全般にも通じる精読の「基礎体力」をつけるとともに、読解の「こつ」を掴むことが目指される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 九鬼周造の偶然論と時間論および背景思想に関する基礎的な知識を得る。 2. 資料作成やディスカッションを通じて各自の理解を深めるとともに、日本哲学史の文献を読み解く上で重要な視点や技能を身に付ける。 											
【授業計画と内容】											
<p>毎回一名が講読範囲に関する報告（要約と問題提起）を行った後、講師を含む参加者全員でコメントやディスカッションを行う。講読範囲は授業の進捗によって前後しうるが、原則として各回に一節（数頁程度/区切りは論文の節立てに従う）ずつ取り扱う予定である。各回の予定は以下の通り。</p>											
<p>第一回 イン트로ダクション 九鬼周造とテキスト紹介・担当者決め 第二回 「形而上学的時間」（一） 時間の無限性 第三回 「形而上学的時間」（二） 業報輪廻と万物再生 第四回 「形而上学的時間」（三） 現象学的時間と形而上学的時間（1） 第五回 「形而上学的時間」（四） 現象学的時間と形而上学的時間（2） 第六回 「形而上学的時間」（五） 形而上学的時間における宿命性と意志 第七回 これまでの補足と振り返り（時間論） 第八回 「驚きの情と偶然性」（一） 偶然性の意味 第九回 「驚きの情と偶然性」（二） 偶然と驚き 第十回 「驚きの情と偶然性」（三） 哲学史と心理学における驚き 第十一回 「驚きの情と偶然性」（四） 現実世界の偶然性と驚き 第十二回 「驚きの情と偶然性」（五） 包越としての原始偶然と驚き 第十三回 これまでの補足と振り返り（偶然論） 第十四回 総まとめ（全体） 第十五回 フィードバック</p>											
----- 日本哲学史(基礎演習) (2)へ続く -----											

日本哲学史(基礎演習) (2)

【履修要件】

特になし。九鬼周造や日本哲学史に興味のある学生の受講を広く歓迎する。

【成績評価の方法・観点】

平常点...70% (発表内容やディスカッションにおける参加状況他)
学期末レポート...30%

【教科書】

九鬼周造 『人間と実存』 (岩波文庫、2016年) ISBN:9784003314654

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者はレジュメ(要約と問題提起)を作成する。その他の参加者は、各授業の前に講読範囲に目を通し、ディスカッションに向けた準備を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系51

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		系共通科目(倫理学)(講義A) Ethics (Lectures A)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		倫理学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、現代社会における倫理的問題について哲学的に考える仕方を受講者に身につけてもらうことである。本講義では、哲学的に考えるために重要な概念や理論をある程度は紹介しているが、それは知識を身につけるためではなく、倫理的な問題を哲学的に考える仕方を学ぶためである。本講義は『実践・倫理学』を主たるテキストとして、死刑や安楽死といった問題を取り上げて、講義とディスカッションを行う。</p>											
【到達目標】											
<p>規範倫理学における諸理論や重要な諸概念について基本的な知識を習得する。また、それを基に、現代社会の問題について批判的に検討する力を身に付ける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一回 倫理学について 第二回 死刑の是非(1)賛成論 第三回 死刑の是非(2)反対論 第四回 嘘をつくこと 第五回 自殺と安楽死(1)賛成論 第六回 自殺と安楽死(2)反対論 第七回 喫煙 第八回 ベジタリアニズム(1)賛成論 第九回 ベジタリアニズム(2)反対論 第十回 善いことをする義務(1)許容と義務 第十一回 善いことをする義務(2)超義務 第十二回 善い行いをする動機 第十三回 津波てんでんこ 第十四回 法と道徳 第十五回 全体のまとめとディスカッション</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中のグループディスカッション参加と課題回答(7割)と期末レポート(3割)。											
【教科書】											
<p>児玉聡 『実践・倫理学』(勁草書房, 2020) ISBN:9784326154630 (毎回、講義で扱う章を事前に読んでくることが求められる。) 指定した教科書について、授業中に指示した章を読んでくること。また、授業でわからないことに</p>											
----- 系共通科目(倫理学)(講義A)(2)へ続く -----											

系共通科目(倫理学)(講義A)(2)

については授業中、あるいはPandAなどを利用して積極的に質問することを期待する。

[参考書等]

(参考書)

赤林朗・児玉聡 『入門・倫理学』 (勁草書房, 2018) ISBN:4326102659 (倫理学の全体像を知りたい受講生に勧める。)

[授業外学修(予習・復習)等]

前の週に指定した文献を読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系52

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		系共通科目(倫理学)(講義B) Ethics (Lectures B)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		倫理学概論									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は、倫理学という学問分野について、その基本的な知見を獲得することである。とくに、西洋倫理学の基本文献について詳しく知ることを目的とする。											
【到達目標】											
倫理学という学問の基本的な知見を獲得し、倫理的な課題に関して自分の頭で考えることができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>第一回 導入</p> <p>第二回 プラトン『ゴルギアス』(1)利己主義の主張</p> <p>第三回 プラトン『ゴルギアス』(2)利己主義と正義</p> <p>第四回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(1)快樂説</p> <p>第五回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(2)友情</p> <p>第六回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(3)正義</p> <p>第七回 ミル『功利主義論』(1)功利主義と快樂説</p> <p>第八回 ミル『功利主義論』(2)功利主義の動機と証明</p> <p>第九回 ミル『功利主義論』(3)功利主義と正義</p> <p>第十回 カント『人倫の形而上学の基礎付け』(1)導入</p> <p>第十一回 カント『人倫の形而上学の基礎付け』(2)完全義務の事例</p> <p>第十二回 カント『人倫の形而上学の基礎付け』(3)不完全義務の事例</p> <p>第十三回 ミル『自由論』(1)言論の自由</p> <p>第十四回 ミル『自由論』(2)行為の自由</p> <p>第十五回 全体のまとめとディスカッション</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中のグループディスカッション参加と課題回答(7割)と期末レポート(3割)。											
【教科書】											
<p>プラトン『ゴルギアス』(岩波書店, 1967) ISBN:4003360125 (他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)</p> <p>アリストテレス『ニコマコス倫理学』(岩波書店, 1971) ISBN:4003360419 (他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)</p> <p>カント『プロレゴメナ・人倫の形而上学の基礎づけ』(中央公論新社) ISBN:4121600762 (野田又夫訳がよいと思うが、他の翻訳を参照してもよい。)</p>											
----- 系共通科目(倫理学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(倫理学)(講義B)(2)

ミル 『自由論』 (岩波文庫, 2020) ISBN:4003900022 (他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)

ミル 『功利主義』 (岩波文庫, 2021) ISBN:4003900049 (他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)

指定したテキストについて、授業中に指示した章を読んでもらうこと。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

前の週に指定した文献を読んでもらうこと。授業でわからないことについては授業中、あるいはPandAなどを利用して積極的に質問することを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系53

科目ナンバリング		U-LET06 35431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀のオックスフォードの倫理学									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、20世紀のオックスフォードの倫理学を、哲学者の人物像や人間関係に焦点を当てながら読み解くことである。本講義を通じて、現代のとくに英語圏の倫理学に対する一つの眺望が得られるだろう。											
[到達目標]											
20世紀のオックスフォードの倫理学の内的発展を理解し、パーフィットやシンガーといったより最近の思想家だけでなく、オックスフォード哲学に影響を与えたウィトゲンシュタインの思想についても説明できるようになること。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 第2回-第5回 D. パーフィット 第6回-第9回 P. シンガー 第10回-第14回 L. ウィトゲンシュタイン 第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
各回に提示する課題(7割)と期末レポート(3割)。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 児玉聡 『オックスフォード哲学者奇行』(明石書店, 2022) ISBN:4750354813 ヴェド・メータ 『ハエとハエとり壺 現代イギリスの哲学者と歴史家』(みすず書房, 1970)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
前の週に指定した文献を読んでくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系54

科目ナンバリング		U-LET06 35431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		加藤尚武の人と思想									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、伝記の哲学的な重要性に着目しつつ、加藤尚武を例に取り、彼の思想を読み解くことである。本講義を通じて、現代日本の哲学・倫理学に対する一つの視座が得られるだろう。											
[到達目標]											
哲学理解における伝記・自伝の重要性を理解し、加藤尚武の哲学・倫理学の概要を説明できるようになること。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回-第4回 哲学と伝記 第5回-第7回 戦中、戦後、60年安保 第9回-第11回 山形大・東北大時代とヘーゲル 第12回-第14回 千葉大時代と生命倫理 第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業中の報告または課題回答(7割)と期末レポート(3割)。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 加藤尚武 『加藤尚武著作集』(未来社)(全15巻) 加藤尚文、加藤尚武 『トポスとしての家 回答せよ 昭和』(三一書房, 1986)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
前の週に指定した文献を読んでくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系55

科目ナンバリング		U-LET06 35431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 Campbell, Michael			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		The Philosophy of Peter Winch									
[授業の概要・目的]											
<p>Peter Winch (1926 - 1997) was one of the most important British philosophers of the post-War period. He was known for his contributions to the philosophy of social science, Wittgenstein scholarship, ethics, political philosophy, and the philosophy of religion. His work includes <i>On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy</i> (Routledge, 1958), <i>Simone Weil: The Just Balance</i> (Cambridge University Press, 1989) and numerous articles, the most important of which were reprinted in his collections <i>Ethics and Action</i> (Routledge, 1972) and <i>Trying to Make Sense</i> (Basil Blackwell, 1987).</p> <p>In this course students will be introduced to Peter Winch's work through considering a range of his most famous articles. Topics covered include the justification of political authority; the nature of doubt and certainty; and what it means to understand another person or culture.</p> <p>Through participating in this course, students will get an insight into the thought of one of the leading philosophers in the 20th Century, as well as an improved understanding of issues in classical and contemporary philosophy.</p>											
[到達目標]											
<p>To introduce students to the work of one of the 20th Century 's most important philosophers.</p> <p>To familiarise students with some of the aims, methods and problems of both classical and contemporary political philosophy.</p> <p>To develop a deepened understanding of certain perennial philosophical questions concerning skepticism, justification and understanding.</p> <p>To develop students' ability to reason critically, to construct and critique arguments and to write philosophical essays in English.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Weeks 1-2: Introduction Course requirements and historical background - the Swansea School, overview of British post-War moral philosophy.</p> <p>Weeks 3 - 6: Understanding and Explanation What is it to understand social phenomena? What kinds of generalisations can the social sciences aim at? How do the generalisations of sociology and anthropology relate to everyday understanding of other people?</p> <p>Weeks 7-10: Doubt and Certainty</p>											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

Is philosophical skepticism about our understanding of the lives of others justified? What constitutes a philosophical refutation of skepticism? How do skeptical problems relate to our understanding of practical difficulties we may encounter in our ordinary lives?

Weeks 11-14: Political Authority

How does political authority structure daily life, and how does it relate to other sources of authority? What justifies political authority?

Week 15: Recap

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Students will be evaluated by a midterm paper (40%) and a final paper (60%), which will be graded out of 100. Papers must be written in English and be approximately 1000 words long.

【教科書】

Students will be distributed copies of Winch's relevant papers, as well as relevant secondary literature. Important background reading is Peter Winch's *On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy* (ISBN: 978-0415423588), and students may if they wish consider purchasing their own copy of this book. It is also available in Japanese translation.

【参考書等】

(参考書)

Peter Winch 『Ethics and Action』 (Routledge, 2022) ISBN:9780367507541

Peter Winch 『On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy』 (Routledge, 2008) ISBN: 9780415423588

Peter Winch 『Trying to Make Sense』 (Basil Blackwell, 1987) ISBN:9780631153368

【授業外学修(予習・復習)等】

Students will be provided with texts in English to read in preparation for the class. Periodically there will be optional short quizzes or writing exercises to test students comprehension of the material.

(その他(オフィスアワー等))

Communication will be via email and Panda

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系56

科目ナンバリング		U-LET06 35440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		倫理学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
倫理学に関する論文執筆とプレゼンテーションの能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジュメを提出し、当日は発表スライドを用いて報告すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。なお、報告者は必ず報告の一週間前に完全原稿を配布すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告と討論への参加によって評価する。但し報告しなかった3回生については平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前配布レジュメを熟読のこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系57

科目ナンバリング		U-LET06 35440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		応用倫理学演習									
[授業の概要・目的]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のための能力を養う。											
[授業計画と内容]											
生命倫理・環境倫理・情報倫理・ビジネス倫理・工学倫理など、広く応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジュメを提出し、当日は発表スライドを用いて報告すること。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告の評価と出席などの平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系58

科目ナンバリング		U-LET06 35443 SJ34											
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学 美術学部 講師				永守 伸年	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		カント『判断力批判』の研究											
【授業の概要・目的】													
カントの『判断力批判』("Kritik der Urteilkraft")のドイツ語テキストを精読する。本年度は「第二序論」の第5節から読み進めていく。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、『判断力批判』を美学と倫理学の両面から考察することが本授業の目的である。													
【到達目標】													
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『判断力批判』の方法と構造を理解する。 ・『判断力批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 													
【授業計画と内容】													
<p>第1回～第2回 イン트로ダクション カントの批判哲学の基本的な成り立ちを説明した上で、『判断力批判』の位置を解説する。また、使用するテキストや参照する先行研究を含め、精読の手続きと方法を参加者に周知する。</p> <p>第3回～第14回 『判断力批判』精読 毎回ドイツ語テキストの訳読担当者を決め、担当者はグーグルドキュメントの共有ファイルに翻訳と分析を記す(ドイツ語未習者は英語訳のテキストを用いても構わない)。授業中はその内容を参加者全員で詳細に吟味し、議論する。</p> <p>第15回 フィードバック 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
平常点(100%)													
【教科書】													
授業中に指示する													
----- 倫理学(演習)(2)へ続く -----													

倫理学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系59

科目ナンバリング		U-LET06 35443 SJ34											
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学 美術学部 講師				永守 伸年	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		カント『判断力批判』の研究											
[授業の概要・目的]													
カントの『判断力批判』("Kritik der Urteilskraft")のドイツ語テキストを精読する。本年度は「第二序論」の第5節から読み進めていく。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、『判断力批判』を美学と倫理学の両面から考察することが本授業の目的である。													
[到達目標]													
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『判断力批判』の方法と構造を理解する。 ・『判断力批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 													
[授業計画と内容]													
<p>第1回～第2回 イン트로ダクション カントの批判哲学の基本的な成り立ちを説明した上で、『判断力批判』の位置を解説する。また、使用するテキストや参照する先行研究を含め、精読の手続きと方法を参加者に周知する。</p> <p>第3回～第14回 『判断力批判』精読 毎回ドイツ語テキストの訳読担当者を決め、担当者はグーグルドキュメントの共有ファイルに翻訳と分析を記す(ドイツ語未習者は英語訳のテキストを用いても構わない)。授業中はその内容を参加者全員で詳細に吟味し、議論する。</p> <p>第15回 フィードバック 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。</p>													
[履修要件]													
特になし													
[成績評価の方法・観点]													
平常点(100%)													
[教科書]													
授業中に指示する													
[参考書等]													
(参考書) 授業中に紹介する													
[授業外学修(予習・復習)等]													
精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

哲学基礎文化学系60

科目ナンバリング		U-LET07 25502 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(宗教学A)(講義) Philosophy of Religion A (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		宗教哲学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教と哲学は、人間存在の根本に関わる問いを共有しながらも、歴史的に緊張をはらんだ複雑な関係を結んできた。その全体を視野に入れて思索しようとする宗教哲学という営みは、多面的な姿ととりながら歴史的に進展し、現代でも大きな思想的可能性を秘めている。この授業では、その今日までの変遷を通時的に追うことによって、宗教哲学という複雑な構成体について、受講者が一通りの見取図を得られるようにすることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教と哲学の関係とその変遷を、両者が切れ結ぶ根本の問いにまで遡ってとらえる態度を身につける。それによって、宗教のもつ広大な意味世界への関心を養うとともに、哲学の概念的思考を生きた問題につなげられるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマについて授業を行っていく（細部は変更の可能性あり）。</p> <p>第1回 宗教と哲学：根本の問いから考える。</p> <p>第2回 ミュートスからロゴスへ：哲学の誕生</p> <p>第3回 ソクラテス、プラトン、アリストテレス：哲学における神</p> <p>第4回 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教：啓示と信仰の神</p> <p>第5回 ヘブライズムとヘレニズムの出会い：キリスト教神学の成立</p> <p>第6回 中世における神学と哲学：スコラ哲学と神秘主義</p> <p>第7回 近世形而上学：デカルトと哲学的神学の流れ</p> <p>第8回 宗教哲学の成立と展開(1)：カントとシュライアマハー</p> <p>第9回 宗教哲学の成立と展開(2)：ヘーゲルとキルケゴール</p> <p>第10回 「神の死」とニヒリズム：ニーチェ</p> <p>第11回 哲学と宗教の「解体」的反復：ハイデガー</p> <p>第12回 日本の宗教哲学と仏教的伝統(1)：西田幾多郎</p> <p>第13回 日本の宗教哲学と仏教的伝統(2)：九鬼周造</p> <p>第14回 アウシュヴィッツ以降の宗教哲学：レヴィナス</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>											
----- 系共通科目(宗教学A)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(宗教学A)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末の定期試験（筆記）による。試験は小論文形式をとり、課題は1か月前に告知する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前日までにはPandAに授業レジュメを掲示するので、あらかじめ目を通しておくこと。授業後は分からなかった点を自分で調べるなどして理解に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の宗教学B（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系61

科目ナンバリング		U-LET07 25503 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(宗教学B)(講義) Philosophy of Religion B (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		宗教学と宗教学 基本文献解題									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教学とは、哲学の一形態であると同時に、宗教学研究のさまざまな道の一つでもある。この両面性とそれによる独自の意義が理解できるように、この授業では、宗教学と宗教学の歴史的関係を明らかにした上で、基本となる文献を幅広く選び、それぞれについて読解の手がかりとなるような解題を行っていく。それを通して、この分野における過去の重要な思索を自ら追思索し、宗教学という事象を視野に入れた哲学的・学問的思索の一端に触れることが、この授業の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教学と宗教学がどのような問いを開拓し、それをどのように思索してきたかを理解するとともに、思想的な文献に触れることを通して自ら思索する方法を学び、研究のための基礎力を身につけられるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマについて授業を行っていく（細部は変更の可能性あり）。</p> <p>第1回 宗教学と宗教学(1)：歴史的位置づけ 第2回 宗教学と宗教学(2)：さまざまなアプローチ 第3回 宗教学と宗教学(3)：現代的課題 第4回 パスカル『パンセ』：考える葦と隠れたる神 第5回 ヒューム『宗教の自然史』：経験主義的宗教論の嚆矢 第6回 カント『単なる理性の限界内の宗教』：根源悪論と宗教学 第7回 ニーチェ『道徳の系譜学』：ラディカルな宗教批判 第8回 ジェームズ『宗教的経験の諸相』：宗教心理学の方法 第9回 西田幾多郎『善の研究』：日本の宗教学の出発点 第10回 モース『贈与論』：宗教社会学の豊饒な可能性 第11回 ハイデガー『存在と時間』：「現存在」と「死への存在」 第12回 ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』：静的宗教と動的宗教 第13回 エリアーデ『聖と俗』：宗教現象学の射程 第14回 ヨナス『アウシュヴィッツ以後の神概念』：神概念の解体的変容 第15回 フィードバック</p> <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(宗教学B)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(宗教学B)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末の定期試験（筆記）による。試験は小論文形式をとり、課題は1か月前に告知する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前日までにはPandAに授業レジュメを掲示するので、あらかじめ目を通しておくこと。授業後は分からなかった点を自分で調べるなどして理解に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、前期の宗教学A（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系62

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		告白・反省・自伝 - 「自己を語る」ことの宗教哲学									
[授業の概要・目的]											
<p>哲学と宗教において、歴史的に、「自己」を原理的・究極的に問うためのさまざまな仕方が展開されてきた。だが、「自己」が問題であるかぎりには、生身の一個人が自らを語る営為やその表現様式から切り離すことはできない。そのような見地から、思想史上「自己を語る」という主題が前景化したトポスをいくつか取り上げ、各々の系譜を整理しつつ、たがいに重ね合わせて考察してみたい。具体的に取り上げるのは、アウグスティヌスを源流とする「告白」、デカルトやカントを範型とする「反省」、文学ジャンルでありつつデリダらによって独自に概念化された「自伝」(auto-biographie)である。このような整理と考察を通して、哲学と宗教を形づくってきたさまざまな言説の布置を再配置し、今日における「宗教哲学」という思考実践の糧となるように語り直していくことが、この講義の目指すところである。</p>											
[到達目標]											
<p>1. 「宗教哲学」と呼ばれる学的形態を学ぶ上で土台となるような哲学・宗教思想についての歴史的知識を身につける。</p> <p>2. 個々の主題や思想家、思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと関連づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようにする。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸項目について、一項目あたり2～3回程度の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマ自体も変更の可能性がある。)</p> <p>1.1. 「私自身が私にとって大きな謎となってしまった」(アウグスティヌス)：「告白」とは何を することか。 1.2. 「告白」という主題の現代的諸変奏：ハイデガー、リクール、フーコー 2.1. 「哲学の開始そのものであるような働きの誕生」(ナベール)：「反省」の深化と反転 2.2. 「反省」の直接経験の諸相：カントとフランス反省哲学の系譜 3.1. 「ありそうにもないもの、それはこの世では名前である」(デリダ)：「自伝」〔=自己の-生を- 記すこと(auto-biographie)〕というアポリア 3.2. 「自伝」のアポリアと生/死の交錯：デリダと宗教哲学</p> <p>フィードバックの仕方については、授業中に告知する。</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究(3)									
【授業の概要・目的】											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から、「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けついでいけるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、二年前から各年度の後期の特殊講義として進めてきたものであり、今期の授業はその続きであるが、来年度以降もさらに何年かの間、同様の仕方で続けていく予定である。今年度は1930年代後半のアリストテレスへの取り組みから考察を始め、前期西谷の到達点としての「根源的主体性」の立場が、戦時中の歴史哲学や戦後のニヒリズム論によってどのように変容/変質していったかを追跡していきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり1～3回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性がある。)</p> <p>1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために</p> <p>2. 昨年度の授業の要約</p> <p>3. 真に「現(Da)」なる処 - 『アリストテレス論攷』の意義</p> <p>4. 『根源的主体性の哲学』 前期西谷宗教哲学の到達点</p> <p>5. 「近代の超克」の光と影 西谷の歴史哲学的考察</p> <p>6. 「虚無」と「無」の交錯 『ニヒリズム』と『神と絶対無』</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系64

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		災厄のレクチャー：防御反応としての理論									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、災厄（人災および天災）を被る側の視点に立って、そうした出来事を受け止める中で生じてきたいくつかの神学的／哲学的／宗教的解釈を考察する。古典的には「悪の問題（The Problem of Evil）」と呼ばれてきた主題系の一部と重なるものである。直接扱うわけではないが、その現代的バージョンの背後には「アウシュヴィッツ」の出来事が伏在している。</p> <p>この授業で具体的に取り上げる解釈体系は、大別すると、「（反）神義論」・「ユダヤ的ヒューマニズム」・「呪術」の3つとなる。これらの筋立て自体、災厄に対する心理的な防衛装置として機能しているというのが、講義担当者によるさしあたりの仮説である。神学的な問いかけから宗教哲学的、さらには宗教学的な問題圏へと移行していくことで、この問題の広範な射程と現代的意義を検討してゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．現代の宗教哲学における基本トピックを理解する。 2．神学・哲学・宗教学が交差する場で悪の問題を深く考察することができる。 3．複数の立場に関する学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回は導入に当てる。第2回から本格的な議論に入ってゆくが、講義の性質上、各トピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．導入的概説【1週】 2．神義論とその批判～ライプニッツからヴィーゼルへ【4週】 3．「人間」への回帰～ユダヤ的ヒューマニズムの可能性【4週】 4．宗教と呪術～歴史的概観【2週】 5．呪術の役割と意義【3週】 6．フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

『3STEPシリーズ 宗教学』(昭和堂, 2023年)(本授業の副教材として利用する)

『Encountering Evil: Live Options in Theodicy』(John Knox Press, 2001) ISBN:978-0664222512

[授業外学修(予習・復習)等]

それぞれのトピックで扱う議論については、初回授業時に主要参考文献を紹介しておくので、予習として少しでも目を通しておくことで授業の理解が深まるだろう。授業後は、その回の講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系65

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ミシェル・アンリの哲学思想：社会批判と共同性									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、独創的な「生の現象学」を打ち立てた哲学者ミシェル・アンリ（1922-2002）の思想を扱う。アンリの著作群はすでにその初期から、あるタイプの宗教思想を考えるうえで有効な補助となる図式を提供してくれるものであり、今年度の講義はそのことを証するための予備的考察を意図している。ともすると概念的な思弁のようにも見えるこの思想は、実際には、いくつかの具体的な実践形態へと開かれていることを強調したい。</p> <p>まずは、アンリが使用する基本タームを実際のテキストに沿って説明していく。ここでは「生」「内在」「超越」「脱立」「自己触発」「情感性」といった諸概念が俎上に載せられるだろう。続いて、アンリの重視する「生」概念が個性性と強く結びついている点を確認した上で、それがいかにして社会理論へと展開していくのかを示す。</p> <p>最後に、1980年代末に構想されていたとおぼしきアンリの共同体論を取り上げ、生の現象学の射程を拡張的な形で追理解する。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ミシェル・アンリの哲学思想を正確に理解し、その特性を把握する。 2．現代フランス現象学と社会理論との関係を踏まえて、前者を後者に応用して思索することができる。 3．複数の相互に関連する哲学的諸概念の学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回は導入に当てる。第2回から徐々に議論の核心へと近づいてゆくが、講義の性質上、各トピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション【1週】 2．アンリ現象学の捉え直し（1）：現象論と超越のシステム【1週】 3．アンリ現象学の捉え直し（2）：内在・自己触発・情感性【2週】 4．アンリ現象学の捉え直し（3）：生における矛盾と統一【1週】 5．「野蛮」をめぐる：技術の問いと資本主義【3週】 6．「他者」理解をめぐる：シェーラーからアンリへ【3週】 7．「自己触発」をめぐる：新たな考察の糸口【3週】 8．フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

川瀬・米虫・村松・伊原木編 『ミシェル・アンリ読本』(法政大学出版局, 2022年) ISBN:978-4588151279

川瀬雅也 『生の現象学とは何か: ミシェル・アンリと木村敏のクロスオーバー』(法政大学出版局, 2019年) ISBN:978-4588151002

【授業外学修(予習・復習)等】

初回授業時に必要な基本文献を紹介するので、その中から各人の関心に基づいてテキストを選び、少しでも目を通しておくと授業の理解が深まるだろう。授業後は、その講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系66

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学人文科学研究科 准教授 西村 明			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗教学的慰霊論の検討									
【授業の概要・目的】											
<p>慰霊・追悼と言えは靖国問題に焦点化されがちである。しかし、宗教学的な視点から見れば、そうした国家と宗教をめぐる政治的論点ばかりではなく、生者にとって死者がどのような存在であるのか、死者をめぐる記憶が生者の現在や未来にどのように関わるのかという問いも欠かせない。こうした問いの解明のためには、諸宗教におけるそれぞれの教義に照らして導かれるような意味づけにとどまらず、特定の宗教伝統には必ずしも位置付けられないような局所的・個人的創意など、多様な言説や諸実践を視野に入れる必要がある。この講義では、戦後日本における具体的な慰霊の諸事例を踏まえながら、上記の問いに迫ってみたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代日本における慰霊の概要と死者儀礼をめぐる基礎的研究について理解できる ・慰霊をめぐる諸事例を踏まえて、そこから宗教学的論点を抽出し、考察できる。 ・比較やより広い歴史的文脈に事例を位置付けることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンスという名の宗教学入門 第2回 死者をめぐる記憶と儀礼 第3回 シズメとフルイ 第4回 近現代日本の戦争死者慰霊 第5回 長崎における原爆慰霊の展開 第6回 永井隆の浦上燔祭説 第7回 死してなお動員中の学徒たち 第8回 無縁空間の可能性 第9回 遺骨収集と宗教界 第10回 遺族・戦友にとっての遺骨収集・戦地慰霊 第11回 サードパーティーの慰霊論 第12回 記憶の洋上モード 第13回 戦争体験と宗教体験 第14回 ヴァナキュラー宗教としての慰霊 第15回 総括とディスカッション</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

・議論への積極的な取り組み50%、レポート50%。

[教科書]

講義で取り上げる内容に関連したプリントを事前に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
その他の文献については授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

集中講義なので、事前にテキストを通読しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系67

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Stanislas Breton, "L'Ecole de Kyoto" および関連文献を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>スタニスラス・ブルトン(1912-2005)は、20世紀後半のフランスのユニークなカトリック哲学者であり、早くから現象学等の現代哲学を縦横に活用する一方で、新プラトン主義やキリスト教神秘主義の思想を深くとらえ直して独自の形而上学を展開した。アルチュセールの友人としても知られ、その招聘で一時パリの高等師範学校でも教えた。20世紀終盤における「フランス現象学の神学的転回」の源泉となった思想家でもある。</p> <p>授業で扱うのは、このブルトンが1974年来日し、京都で西谷啓治らが主催する「自然とは何か」と題されたシンポジウムに参加した際の印象を元にした論考「京都学派」(1995)である。「無(rien)」の問題を自らの形而上学に深く組みこむブルトンが、京都での経験と西谷から受けた印象を織り交ぜて自らの「京都学派」像を描いていくこのテキストは、そこに含まれる誤解や一面的な見解も含めて、独自の思索が躍動する間文化的な哲学的対話の貴重なドキュメントとなっている。</p> <p>この演習では、ブルトン自身の思想が分かる他の文献や、このシンポジウムの議論を踏まえて西谷が著した論考「自然について」などの関連文献も参照しつつ、テキストを共に精読していきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1. 演習での作業を通して、哲学・宗教哲学のテキストを読みこなすための基本的な語学力・読解力を身につける。</p> <p>2. 演習での発表準備、および教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテキストの精密な読解方法、およびそれを自らの思索に活用するための基本的な方法態度を身につける。</p> <p>3. ブルトンのテキストを他の諸文献と交差させつつ読み進めることによって、哲学・宗教哲学の著作に対する複眼的な読解の手法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 - 第2回 導入 テキストを読み進める上で必要な導入的説明を教員が行う。3回目以降の担当者を決める。</p> <p>第3回 14回 ブルトンのテキストを精読していく。必要に応じて、関連文献から抜粋した箇所も合わせて読んでいく。各回の担当者は、担当箇所の訳出と内容要約に加え、疑問点の提示や問題提起などを含めた報告を行い、それを受けて教員がコメントと解説を行う。</p> <p>第15回 著作全体を振り返り、教員との質疑応答や出席者間での討議を行う。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[履修要件]

受講の絶対要件として特定の科目の履修や予備知識を求めることはないが、演習なので、継続的に出席し、授業に主体的かつ積極的に関わることを求めたい。

フランス語を中級まで履修済みであることが望ましいが、それを絶対条件にはしない。内容への強い関心を前提として、さまざまな形で参加を認める用意はあるので、必要に応じて相談してもらいたい。

[成績評価の方法・観点]

平常点(担当箇所の発表、および質疑や議論への参加)による。

[教科書]

Stanislas Breton 『L'autre et l'ailleurs』 (Descartes & Cie, 1995) ISBN:2-910301-26-5 (テキストは適宜コピーを用意する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前にはテキストを時間をかけて精読し、内容的・語学的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との連関で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意しておくこと。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけていってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系68

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Paul Ricœur, La symbolique du mal, Première partie: Les symboles primaires を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ポール・リクール『悪のシンボリズム』は、1960年に『有限性と罪責性』の第2分冊として刊行され、リクールを解釈学的哲学への転じさせた記念碑的著作である。同時にこの著作は、その大部分が聖書や諸文明の神話から渉猟した悪の象徴的・神話的表現の意味解釈に充てられており、リクールが自らの哲学的立場を更新するにあたって、従来の哲学の境界を踏み越え、宗教的表現の生成現場へと深く沈潜したことが見て取れる。</p> <p>本演習では、この著作の第一部「一次的象徴：穢れ・罪・負い目」を材料とし、昨年度後期までに読んだ「罪」までの内容を踏まえて、「負い目」の章を精読していく。リクール解釈学の原点における哲学と宗教の交差の有りようを検討することによって、宗教哲学の諸可能性を探究するための材料としたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1．演習での訳読作業を通して、フランス語の哲学・宗教哲学のテクストを読みこなすための基本的な語学力を身につける。</p> <p>2．演習での教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテクストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p> <p>3．リクールの重要著作の一つを教師の指導と解説の下で精読することによって、リクール思想の根本問題とその哲学的・宗教哲学的意義を把握できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回-第2回 導入 テクストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。3回目以降の担当者を決める。</p> <p>第3回 第15回 リクール『悪のシンボリズム』第1部の「負い目」の章から重要箇所を抜粋し、1回当たり2頁程度のペースで精読していく。担当者の訳出や内容要約に教員が詳細なコメントを加えた後、それを元に出席者間でさまざまな角度からの検討や考察を行っていく。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者は、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)に基づき評価する。

[教科書]

Paul Ricœur, 『Philosophie de la volonté, t. 2. Finitude et Culpabilité 』 (Points, 2009) ISBN:(ISBN-10) 2757813293 (使用範囲をコピーして配布するが、可能ならば事前に購入しておくこと。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意してくる。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと前期の復習 2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22) 3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-59) 4. 「悪の現実性の演繹・その5」(60-63/18) 5. 「悪の現実性の演繹・その6」(63/19-66/4) 6. 「神の自由・その1」(66/5-70/29) 7. 「神の自由・その2」(70/30-/75/10) 8. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その1」(75/11-79/17) 9. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その2」(79/18-82/8) 10. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(82/8-84/31) 11. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(84/32-87) 12. 辻村公一「無底ーシェリング『自由論』に於ける」 13. 園田坦「無底・意志・自然ーJ.ペーメの意志-形而上学について」 14. 総括と総合討論 15. フィードバック 											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)

辻村公一 『ドイツ観念論断想』 (創文社)

園田坦 『無底と意志-形而上学-ヤーコブ・ベーム研究』 (創文社) ISBN:978-4-423-17158-5

[参考書等]

(参考書)

シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)

F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系70

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Georges Bataille, Théorie de la religionを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、昨年度に続き、ジョルジュ・バタイユの宗教論『宗教の理論』（1974）を扱う。本書は、バタイユが1948年に（ヴァール主宰の）哲学コレージュで行った講演「宗教史概略」をもとに執筆した作品である。ほぼ完成していたにもかかわらず、生前に出版されることはなかった。「宗教」の理論と銘打ってはいるが、代表作『呪われた部分』とほぼ同時期に書かれていることもあり、バタイユの濃密な哲学的思索が展開されている。本書を宗教哲学的な視野のもとで読み進めつつ、参加者による思索と議論をより重視した演習としたい。本年度は、第一部II「人間性と俗なる世界の形成」から再読する。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2. 哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3. 宗教的な諸事象を哲学的な思考にもとづいて把握できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 本演習で扱う著作およびその著者について知っておくべき最低限の事柄を説明する。</p> <p>第2～14回 『宗教の理論』を途中から読み進めてゆく。進度は出席者の語学力に合わせて調整する。</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
訳読・議論への参加度（40％）と学期末のレポート（60％）により評価する。											
【教科書】											
Georges Bataille 『Œuvres complètes Tome VII』（Gallimard, 1976）ISBN:2-07-027882-4											
【参考書等】											
<p>（参考書） ジョルジュ・バタイユ（湯浅博雄訳）『宗教の理論』（ちくま学芸文庫, 2002年）ISBN:4-480-08697-8</p>											
----- 宗教学(演習) (2)へ続く -----											

宗教学(演習) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

初回授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系71

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Max Scheler, Tod und Fortlebenを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、マックス・シェーラーの遺稿「Tod und Fortleben」を読み進めてゆく。主著『倫理学における形式主義と実質的価値倫理学』とほぼ同時期に執筆されたと考えられている本論考は、死や死後生に対する宗教哲学的アプローチの模範的な実例として、今でもなお精読に値するといえよう。訳読と解釈を通じ、参加者一人一人が自身の思索を深めていくことが期待される。本年度は、全体の後半部分に当たる「Das Fortleben」の箇所を読む予定である。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ドイツ語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2．哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3．シェーラーの現象学理論を踏まえつつ、死後生に関わる宗教哲学的課題に取り組むことで、その意義を把握できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1～2回 イン트로ダクション 本演習で扱うテキストおよびその著者シェーラーについて知っておくべき最低限の事柄を紹介する。あわせて、テキスト前半部分の内容についても解説を行う。</p> <p>第3～14回 「Tod und Fortleben」を全集版で1回に1～1.5頁のペースで読み進めてゆく。</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
訳読・議論への参加度（40％）と学期末のレポート（60％）により評価する。											
【教科書】											
Max Scheler 『Schriften aus dem Nachlass, Band 1: Zur Ethik und Erkenntnislehre』（Bouvier, 1954） ISBN:3-416-01992-X（Gesammelte Werke, Bd. 10.）											
【参考書等】											
（参考書） マックス・シェーラー（小倉貞秀訳）『シェーラー著作集 6』（白水社, 1977年）ISBN:4-560-											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

02538-X

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

初回の授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。テキストの途中から読んでいくこととなりますが、独立して読むことのできるパートとなっているため、昨年度の授業に出ていない方の参加も歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系72

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学（基礎演習） Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		宗教哲学基礎演習A									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教哲学の諸問題を考えるための基本となる文献を選び、宗教学専修の大学院生にも協力を仰ぎながら、それらを共に読み進み、問題を掘り起こし、議論を行う場となる授業である。授業への能動的な参加を通して、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。宗教学専修の学部生の必修授業であるが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教哲学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、宗教哲学・宗教学に関する自らの研究課題を発見し、それを掘り下げていくための基本的能力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>「宗教哲学」という分野の思索様式には、どうしても概説的紹介には馴染まない面がある。宗教の問いと哲学の問いがその源泉において交差連関し、しかもそれが人間が生きていくこと自体にまつわる問題と直結するという点、このことを見据えた学問的研究がいかなる形をとりうるかということは、その「実例」となる仕事の熟読を通して学んでいくしかない。</p> <p>今期の授業では、京大宗教学専修の長い歴史の一端に触れてもらうという意味も込めて、これまでの専修担当教員や専修出身者の論考の内、専門的な議論に終始せずに広い視座で具体的な問題にも触れているものを数点取り上げ、毎回1点ずつ読んでいきたい。なお、実際に何を読むかは、履修者の関心によって調整することもありうるので、シラバスにはあらかじめ記さないことにする。</p> <p>各回2,3人の担当者を決め、授業の前半は、担当者の内容要約および考察の発表に充てる。授業の後半では、教員の司会進行の下、発表内容をめぐって、チューターの大学院生たちも交えて、質疑応答と議論を行っていく。隔週授業のため、全7回として各回のテーマを記しておく。（詳細は変更の可能性あり）</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 論考1についての発表と議論 3. 論考2についての発表と議論 4. 論考3についての発表と議論 5. 論考4についての発表と議論 6. 論考5についての発表と議論 7. 総括 											
* フィードバックの方法は授業中に指示する。											
----- 宗教学（基礎演習）(2)へ続く -----											

宗教学（基礎演習）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（発表・討論への参加、場合によっては小レポート等）による。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、とにかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、教員の説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の「宗教哲学基礎演習B」と狙いを共有し、密接な関連をもつものである。宗教学専修の学部生は、必修授業となるので、必修単位数を満たすように計画的に履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系73

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学（基礎演習） Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		宗教学基礎演習B									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教学の基本文献を教師とチューター役の大学院生の解説を手がかりに読み進めていくことで、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。4回生以上の宗教学専修在籍者にとっては、卒論の中間発表の場ともなる。</p> <p>宗教学専修の学部生を主たる対象とするが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、卒業論文の作成に向けての準備態勢が整えられるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>宗教学の基本文献といえる著作や論文を選んで各回の授業に割り振り、事前に出席者に読んできてもらう。そして、毎回チューター役の大学院生の解説を踏まえて、教員の司会進行の下で、質疑応答と議論を行っていく（その際、履修者には特定質問者の役割を少なくとも1回は担当してもらう）。また、卒論の中間発表の際には、論述の仕方や文献の扱い方なども指導し、論文の書き方を学ぶ機会とする。</p> <p>隔週の授業のため、全7回として各回のテーマを記しておく。なお、どのような文献を取り上げるかは、前期の「宗教学基礎演習A」の様子を見て決めることにする。それによって、各回で取り上げる文献の種類も、以下の記したものと異なる可能性もある。</p>											
<p>第1回 オリエンテーション・卒業論文の中間発表 第2回 宗教学の基本文献(近代フランス)の読解・解説・考察 第3回 宗教学の基本文献(近代ドイツ)の読解・解説・考察 第4回 宗教学の基本文献(近現代英米)の読解・解説・考察 第5回 宗教学の基本文献(現代フランス)の読解・解説・考察 第6回 宗教学の基本文献(現代ドイツ)の読解・解説・考察 第7回 宗教学の基本文献(京都学派の哲学)の読解・解説・考察</p>											
----- 宗教学（基礎演習）(2)へ続く -----											

宗教学（基礎演習）（2）

* フィードバックの方法は授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

特定質問をはじめとする平常点、および学期末のレポートによる。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、とにかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、チューターの説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、前期の「宗教哲学基礎演習A」と狙いを共有し、密接な関連をもつものである。宗教学専修の学部生は、必要単位数を勘案しつつどちらも出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系74

科目ナンバリング		U-LET07 25551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 根無 一行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Gayatri Chakravorty Spivak, “ Can the Subaltern Speak?” (1988) を読む 1									
【授業の概要・目的】											
<p>エドワード・サイードらとともにポストコロニアル批評の代表者とされるGayatri Chakravorty Spivak (1942-)の主論文“ Can the Subaltern Speak?” (1988)を読む。デリダ『グラマトロジーについて』(1967)の英訳(1976)とそれに付した長大な序文によって世に知られることになったスピヴァクは本論文において、ポスト構造主義の哲学者たちによる主権的主体の脱中心化の言説になお残る西洋的知の覇権を炙り出し、自らを脱主体化する知識人たちが抑圧された者たちに自己を表象させようとするその仲介作業が暗黙裡に前提しているのは、「透明な場所への自分たちの位置づけである。スピヴァクは政治経済的観点からの「表象」概念の検討を通して、そのような立ち位置から被抑圧者たちを主体と見なすその身振り自体がグローバルサウスのサブアルタン(最貧層の被抑圧者(女性))の声を抹消していると批判していく。宗教哲学が特定の場所と時代を出自とする営みである以上、西洋的知の継承者でもある自分自身の立場性に極めて自覚的なスピヴァクのこうした議論は「現代日本(あるいは京都(大学))」で「宗教哲学」に携わる者に重層的で広い射程を持った問いを突きつけるだろう。私たちは何をどう考えていくべきなのか、本書を読みながらその手がかりを得たい。40頁ほどの小論だが、密度の濃い難解かつ悪文のテキストなので、受講者による活発な議論が期待される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。 2. 宗教哲学に隣接するテキストを宗教哲学の思索に活用していくことができるようになる。 3. 自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>* フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											

宗教学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%、学期末レポート50%
(受講者数によってはこの限りではない)

【教科書】

授業中にテキスト (G. C. Spivak, "Can the Subaltern Speak?" in C. Nelson and L. Grossberg (ed.), *Marxism and the Interpretation of Culture*, University of Illinois Press, 1988.) のコピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)

以下を(邦訳でよいので)読んでおくこと。

Michel Foucault, *Les intellectuels et le pouvoir*, (entretien avec Gilles Deleuze [1972]), in *Dits et écrits*, 1954-1988, t. II, Gallimard, 1994. 邦訳「知識人と権力」蓮實重彦訳、小林康夫他編『フーコー・コレクション』4(権力・監禁)筑摩書房(ちくま学芸文庫)2006年。

その他は授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

訳読中心の授業であり、担当者を特に決めずにランダムにあてていくため、全員予習をして来ること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系75

科目ナンバリング		U-LET07 25551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 根無 一行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Gayatri Chakravorty Spivak, “ Can the Subaltern Speak?” (1988) を読む 2									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に引き続き、エドワード・サイードらとともにポストコロニアル批評の代表者とされるGayatri Chakravorty Spivak (1942-) の主論文 “ Can the Subaltern Speak?” (1988) を読む。デリダ『グラマトロジーについて』(1967)の英訳(1976)とそれに付した長大な序文によって世に知られることになったスピヴァクは本論文において、ポスト構造主義の哲学者たちによる主権的主体の脱中心化の言説になお残る西洋的知の覇権を炙り出していこうとする。スピヴァクによれば、自らを脱主体化する知識人たちが抑圧された者たちに自己を表象させようとするその仲介作業が暗黙裡に前提しているのは、「透明」な場所への自分たちの位置づけである。スピヴァクは政治経済的角度からの「表象」概念の検討を通して、そのような立ち位置から被抑圧者たちを主体と見なすその身振り自体がグローバルサウスのサブアルタン(最貧層の被抑圧者(女性))の声を抹消していると批判していく。宗教哲学が特定の場所と時代を出自とする営みである以上、西洋的知の継承者でもある自分自身の立場性に極めて自覚的なスピヴァクのこうした議論は「現代日本(あるいは京都(大学))」で「宗教哲学」に携わる者に重層的で広い射程を持った問いを突きつけるだろう。私たちは何をどう考えていくべきなのか、本書を読みながらその手がかりを得たい。40頁ほどの小論だが、密度の濃い難解かつ悪文のテキストなので、受講者による活発な議論が期待される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。 2. 宗教哲学に隣接するテキストを宗教哲学の思索に活用していくことができるようになる。 3. 自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>* フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											

宗教学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%、学期末レポート50%
(受講者数によってはこの限りではない)

【教科書】

授業中にテキスト (G. C. Spivak, "Can the Subaltern Speak?" in C. Nelson and L. Grossberg (ed.), *Marxism and the Interpretation of Culture*, University of Illinois Press, 1988.) のコピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)

以下を(邦訳でよいので)読んでおくこと。

Michel Foucault, *Les intellectuels et le pouvoir*, (entretien avec Gilles Deleuze [1972]), in *Dits et écrits*, 1954-1988, t. II, Gallimard, 1994. 邦訳「知識人と権力」蓮實重彦訳、小林康夫他編『フーコー・コレクション』4(権力・監禁)筑摩書房(ちくま学芸文庫)2006年。

その他は授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

訳読中心の授業であり、担当者を特に決めずにランダムにあてていくため、全員予習をして来ること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系76

科目ナンバリング		U-LET08 35602 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教学A(講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は、キリスト教の思想的源泉の一つである聖書を基本的な文献として分析しつつ、そこに記述された多様な諸問題を論じることを目的とする。聖書は我々から遥かに隔たった古代に成立したテキストであり、その理解のためには当時の歴史、慣習、思想など様々な事柄を学ぶ必要がある。この講義では、それらの事柄に触れつつ、教理や文化などと関連させながら、いくつかの主題が後の時代に及ぼした影響を分析する。尚、前期は基本的にユダヤ教の聖書を用いる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な文化、思想の中で暗示され、また基礎となっている聖書中の物語や背景などを読み取ることができる。 ・ キリスト教思想における諸問題を、聖書の記述に即して分析することができる。 ・ 聖書の成立や正典史などの分析を通して、文献を批判的に扱うことを学ぶことができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ユダヤ教の聖書と正典の成立 3. ユダヤ教の聖書の歴史的背景 4. 世界と人間の創造 5. ノアの方舟 6. アブラハムとその子孫たち 7. ヨセフとエジプトへの移住 8. 出エジプト 9. イスラエル王国の成立とダビデ 10. ソロモンと王国の分裂 11. 預言者の活躍 12. バビロン捕囚 13. 知恵文学 14. マカバイ戦争とローマの介入 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる(3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う)。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

(その他(オフィスアワー等))

・講義はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。
・質問は、基本的にメール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系77

科目ナンバリング		U-LET08 35604 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教学B (講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は、キリスト教の思想的源泉の一つである聖書を基本的な文献として分析しつつ、そこに記述された多様な諸問題を論じることを目的とする。聖書は我々から遥かに隔たった古代に成立したテキストであり、その理解のためには当時の歴史、慣習、思想など様々な事柄を学ぶ必要がある。この講義では、それらの事柄に触れつつ、教理や文化などと関連させながら、いくつかの主題が後の時代に及ぼした影響を分析する。尚、後期は基本的に新約聖書を用いる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な文化、思想の中で暗示され、また基礎となっている聖書中の物語や背景などを読み取ることができる。 ・ キリスト教思想における諸問題を、聖書の記述に即して分析することができる。 ・ 聖書の成立や正典史などの分析を通して、文献を批判的に扱うことを学ぶことができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 新約聖書と正典の成立 3. 新約聖書の歴史的背景 4. イエスの誕生 5. 洗礼者ヨハネ 6. イエスの奇跡 7. 山上の説教 8. 十字架と復活 9. 使徒たちの活動 10.パウロの回心 11. パウロ書簡 12. 牧会書簡 13. 公同書簡 14. 黙示録 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる(3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う)。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

(その他(オフィスアワー等))

・講義はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。
・質問は、基本的にメール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 渡部 和隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本のキリスト教思想 無教会キリスト教を中心に									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、日本のキリスト教思想の代表のひとつである無教会キリスト教について提示することにある。無教会キリスト教は明治期に内村鑑三によって始められたキリスト教の信仰と運動であり、しばしば日本に独自のキリスト教とされるが、同時に極めて近代的な要素も併せ持っている複雑なキリスト教思想である。内村の死後、無教会キリスト教は矢内原忠雄や塚本虎二といった弟子たちによって継承され、さまざまな展開を見せながら今日に至っている。本講義では、内村鑑三の聖書解釈と弟子の塚本虎二の聖書解釈とを通して、無教会キリスト教における知と信とのダイナミズムを分析する。											
【到達目標】											
主として無教会キリスト教に関する基本的な知識を身につけ、当時の主要な文献を分析しながら、内村鑑三の聖書解釈と塚本虎二の聖書解釈とのそれぞれの特徴を思想的に位置づけ、吟味することができる。											
【授業計画と内容】											
本年度のテーマは、聖書解釈である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．無教会史の概観 3．内村鑑三の聖書解釈(1)コヘレトの言葉の解釈を通して 4．内村鑑三の聖書解釈(2)コヘレトの言葉の解釈を通して 5．内村鑑三の聖書解釈(3)ヨブ記の解釈を通して 6．内村鑑三の聖書解釈(4)ヨブ記の解釈を通して 7．内村鑑三の聖書解釈(5)ヨブ記の解釈を通して 8．内村鑑三の聖書解釈(6)ヨブ記の解釈を通して 9．内村鑑三の聖書解釈(7)ヨブ記の解釈を通して 10．塚本虎二の聖書解釈(1)聖書の読み方について 11．塚本虎二の聖書解釈(2)聖書の読み方について 12．塚本虎二の聖書解釈(3)主の祈りの研究 13．塚本虎二の聖書解釈(4)主の祈りの研究 14．塚本虎二の聖書解釈(5)主の祈りの研究 15．まとめ 											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

キリスト教に関する基本的な知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点とレポートとによる。
平常点評価は授業への参加状況、小テスト、授業内での発言によって行う。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

(その他(オフィスアワー等))

- ・講義はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。
- ・質問は、基本的にメール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 津田 謙治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「初期キリスト教教理史II/E」									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、カルケドン公会議（451年）までの初期キリスト教の中で形づくられた教理の発展の歴史を、個々の主題に沿って提示することにある。教理とは、教会の中で唱えられたキリスト教の教えであるが、最初期のキリスト教の時代から教説の正統性をめぐって様々な問題が生じ（例えば、キリスト論や救済論の問題など）、その都度それらに対処することによって教理が形成されてきた。本講義では、キリスト教と諸哲学およびローマ帝国との間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>主として5世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度後期のテーマは、前期に引き続き、「初期キリスト教教理史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．ドナティスト論争の位置付け 3．終末論における緊張 4．2世紀における終末概念 5．終末論の教義的発展 6．オリゲネスとアポカタスタシス 7．肉体の復活 8．再臨と審判 9．永遠の生 10．殉教者 11．聖徒 12．巡礼 13．ニカイア以前のマリア論 14．ネストリオス論争とマリア論 15．まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。

レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 下 ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

- ・ 講義はハイブリッド形式になることがある。
- ・ 受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
- ・ 質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		告白・反省・自伝 - 「自己を語る」ことの宗教哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>哲学と宗教において、歴史的に、「自己」を原理的・究極的な仕方で問うためのさまざまな仕方が展開されてきた。だが、「自己」が問題であるかぎりには、生身の一個人が自らを語る営為やその表現様式から切り離すことはできない。そのような見地から、思想史上「自己を語る」という主題が前景化したトポスをいくつか取り上げ、各々の系譜を整理しつつ、たがいに重ね合わせて考察してみたい。具体的に取り上げるのは、アウグスティヌスを源流とする「告白」、デカルトやカントを範型とする「反省」、文学ジャンルでありつつデリダらによって独自に概念化された「自伝」(auto-bio-graphie)である。このような整理と考察を通して、哲学と宗教を形づくってきたさまざまな言説の布置を再配置し、今日における「宗教哲学」という思考実践の糧となるように語り直していくことが、この講義の目指すところである。</p>											
【到達目標】											
<p>1. 「宗教哲学」と呼ばれる学的形態を学ぶ上で土台となるような哲学・宗教思想についての歴史的知識を身につける。</p> <p>2. 個々の主題や思想家、思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと関連づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸項目について、一項目あたり2～3回程度の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマ自体も変更の可能性もある。)</p> <p>1.1. 「私自身が私にとって大きな謎となってしまった」(アウグスティヌス)：「告白」とは何を することか。 1.2. 「告白」という主題の現代的諸変奏：ハイデガー、リクール、フーコー 2.1. 「哲学の開始そのものであるような働きの誕生」(ナベール)：「反省」の深化と反転 2.2. 「反省」の直接経験の諸相：フランス反省哲学の系譜 3.1. 「ありそうにもないもの、それはこの世では名前である」(デリダ)：「自伝」〔=自己の-生を- 記すこと(auto-bio-graphie)〕というアポリア 3.2. 「自伝」のアポリアと生/死の交錯：デリダと宗教哲学</p> <p>フィードバックの仕方については、授業中に告知する。</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系81

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究(3)									
【授業の概要・目的】											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から、「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けついでいけるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、二年前から各年度の後期の特殊講義として進めてきたものであり、今期の授業はその続きであるが、来年度以降もさらに何年かの間、同様の仕方で続けていく予定である。今年度は1930年代後半のアリストテレスへの取り組みから考察を始め、前期西谷の到達点としての「根源的主体性」の立場が、戦時中の歴史哲学や戦後のニヒリズム論によってどのように変容/変質していったかを追跡していきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり1～3回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性がある。)</p> <p>1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために</p> <p>2. 昨年度の授業の要約</p> <p>3. 真に「現(Da)」なる処 - 『アリストテレス論攷』の意義</p> <p>4. 『根源的主体性の哲学』 前期西谷宗教哲学の到達点</p> <p>5. 「近代の超克」の光と影 西谷の歴史哲学的考察</p> <p>6. 「虚無」と「無」の交錯 『ニヒリズム』と『神と絶対無』</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系82

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 谷塚 巖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		キルケゴールの宗教思想とレトリック									
【授業の概要・目的】											
この講義では、キルケゴールの宗教思想（倫理思想を含む）を、1960年代以降に新たな展開を見せた現代レトリック論とのかかわりから捉え直すことを試みます。その際、特にキルケゴールが著述家として公的に活動を開始した1840年代前半から、『哲学的断片への結びとしての非学問的あとがき』が出版された1846年までの諸著作に注目し、キルケゴールが問おうとしていた問題について考察します。											
【到達目標】											
受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。 ・キルケゴールが問題にしようとしたことについて理解し、説明することができる。 ・レトリックの観点からキルケゴールの方法論について考察することができる。											
【授業計画と内容】											
以下のテーマを中心にしながら進めていく予定であるが、受講者の関心によっては適宜、順序や内容などを変更する場合もある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1キルケゴールの思想的出発点と著述活動 2キルケゴール研究の動向と方法論 3キルケゴールとレトリック 現代レトリック論をめぐって 4後期啓蒙主義とレッシング問題 5キルケゴールにおけるレッシング問題の受容 6キリストとの同時性（同時代性）とは何か？ 7キルケゴールとレトリック メタファー 8キルケゴールの自由論とその哲学的文脈 9「責め」の概念について 10「悔い」の概念について 11キルケゴールのアンティゴネ論 12キルケゴールとレトリック イロニー 13テクストの「仮名性」と「自己化」 14『死に至る病』について 15『キリスト教の修練』について 											
【履修要件】											
特になし											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)と学期末のレポート(80点)により評価する。
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価を行なう。

[教科書]

教科書は使用しない。別途、資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・予習：特になし。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献等を用いて授業内容の理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

基本的に講義形式で行なう。授業終了時には毎回コメントシートを提出してもらい、翌週以降の授業内で紹介・議論する。質問については授業内もしくはメールなどで受け付け、翌週以降の授業内で回答する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		西南学院大学国際文化学部 山田 順 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		都市ローマにおける初期キリスト教考古学・図像学研究とその可能性									
【授業の概要・目的】											
<p>キリスト教二千年の歴史のなかで、コンスタンティヌス帝によるキリスト教寛容令（313年）の発令は大きな転換点であった。数世紀のあいだ迫害されてきた宗教が、突如、帝国当局によって保護され、国教化の道を歩み始めたからである。この転換点を含む紀元1世紀から7世紀頃までの初期キリスト教の痕跡を、発掘調査や出土資料から明らかにするのが、初期キリスト教考古学である。キリスト教に特化したこの考古学は、壁画や彫刻などの美術図像作品を分析・研究するキリスト教図像学を内包している。これら初期キリスト教考古学と図像学は、都市ローマとその周辺部に数多く存在する地下共同墓地（カタコンベ）の調査研究を通して形成され、発展してきた。本講義は、都市ローマの地下共同墓地に関する発掘調査・図像研究、および、初期のキリスト教礼拝施設の発掘調査を具体的事例研究として提示しながら、キリスト教考古学・図像学の概要を学び、そこから、初期キリスト教一般信徒の実像を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>考古学・図像学における基礎知識と具体的研究手法を身につけることができる。第一次的文献史料や文化財資料の扱い方を学び、それを通して、当時の人々の生活や思想を分析・考察することが出来るようになる。とりわけ、キリスト教美術・図像学の学びでは、個別の具体的壁画や石棺彫刻といった文化財の観察・分析手法を学び、そのような図像資料（図像言語）を通して、識字率の低い古代末期から初期中世の一般庶民の姿を考察していく、そのような学問研究の魅力と可能性について理解できるようになる。これらの学びを通して、今後、本講義履修者が美術作品に向き合う機会に、ここで学んだ図像分析や図像解釈を用いた観察を試みながら、そこから自主的・継続的に学ぶことが出来るようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本講義は基本的に以下の講義計画に基づいて集中講義形式で行う。尚、現時点では集中講義は9月初めの5日間を予定しているが、正式な日程が決まり次第、KULASISを通じて連絡をする。</p>											
<p>【第1回】オリエンテーション：初期キリスト教考古学の概要とその学問的位置づけ 【第2回】「初期キリスト教考古学の形成と展開」文献史料の種類と価値 【第3回】「初期キリスト教考古学の形成と展開」発掘調査研究と出土資料 【第4回】「初期キリスト教考古学の形成と展開」図像学的研究と出土資料 【第5回】「地下共同墓地の調査研究」文献史料の種類とその価値 【第6回】「地下共同墓地の調査研究」発掘調査研究の具体例：墓類型と埋葬法 【第7回】「地下共同墓地の調査研究」美術図像研究の具体例：壁画・モザイク 【第8回】「地下共同墓地の調査研究」美術図像研究の具体例：彫刻・工芸 【第9回】「初期礼拝施設の発掘調査」：ローマ・サンジョヴァンニ・調査概要 【第10回】「初期礼拝施設の発掘調査」：ローマ・サンジョヴァンニ・地誌学的研究 【第11回】「初期礼拝施設の発掘調査」：ローマ・サンジョヴァンニ・図像学的研究 【第12回】「初期礼拝施設の発掘調査」：ローマ・サンジョヴァンニ・建築学的研究 【第13回】「初期キリスト教美術」の発生と展開：異教美術のなかのキリスト教美術</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

- 【第14回】「初期キリスト教美術」の発生と展開 :キリスト教建築の発生と多様性
- 【第15回】まとめと総括、レポート等に関する解説

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・平常点（授業への取り組み・発言など）・・・10点
- ・レポート・・・90点
- ・3回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

宮本久雄（編）『古代キリスト教の女性 その霊性伝承と多様性』（教友社 2022年）ISBN:978-90799-81-4

保坂高殿『多文化空間のなかの古代教会 異教世界とキリスト教2』（教文館 2005年）ISBN:978-476426588

Fabrizio Bisconti 『Temi di iconografia paleocristiana』（Pontificio Istituto di Archeologia Sacra, 2000）ISBN:9788885991446

V. Fiochi Nicolai, F. Bisconti, D. Mazzoleni 『The Christian Catacombs of Rome. History, Decoration, Inscriptions』（Schnell&Steiner, 1998）ISBN:3-7954-1194-7

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・授業中に取り上げる書物や論文などの詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

- ・初回の講義では細かい注意事項や運営方針などを伝えるので、必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系84

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学神学部 教授 浅野 淳博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		コロサイ書の緒論と講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、受講者がギリシャ語原典で新約聖書を読むことをとおして、文法への理解をさらに深めると同時に、直接的に著者の思いに近づく試みを始めることです。本講義はコロサイ書を扱います。</p> <p>The purpose of the lecture is that students will practice reading the text of New Testament in the original Greek language. The lecture covers Colossians.</p>											
【到達目標】											
<p>この講義を終えた際、受講者は以下のことを修得していることが期待されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習のギリシャ語文法を介して、原典を理解する。 2. ネストレ・アラント28版を用いて、本文批評を行う。 3. コロサイ書に特徴的な神学を理解する。 <p>At the end of the course, the students are expected;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to be able to utilize the knowledge of the grammar to make sense of the text. 2. to be able to use the apparatus of NA 28 for the textual analysis. 3. to have a better understanding of particular theological issues of Colossians 											
【授業計画と内容】											
<p>10/5 オリエンテーション、導入 Orientation</p> <p>10/12 本文批評 Textual Criticism</p> <p>10/19 コロサイ1.1-12 Col 1.1-12</p> <p>10/26 コロサイ1.13-23 Col 1.13-23</p> <p>11/2 キリスト賛歌 Christological Hymn</p> <p>11/9 コロサイ1.24-2.5 Col 1.24-2.5</p> <p>11/16 コロサイ2.6-15 Col 2.6-15</p> <p>11/30 参与論 Participational Christology</p> <p>12/7 コロサイ2.16-3.4 Col 2.16-3.4</p> <p>12/14 コロサイ3.5-17 Col 3.5-17</p> <p>12/21 家庭訓 Colossian Haustafeln</p> <p>12/28 コロサイ3.18-4.6 Col 3.18-4.6</p> <p>1/11 コロサイ4.7-18 Col 4.7-18</p> <p>1/18 終末論 Colossian Eschatology</p> <p>1/25 総括試験とフィードバック Examination</p>											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

【履修要件】

初級のギリシャ語を履修していることが望まれる。
Students are expected to have learnt the basic NT Greek Grammar.

【成績評価の方法・観点】

1. ギリシャ語の翻訳 Translation from Greek to Japanese
2. 演習内での貢献度 Contribution inside the class

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece (Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft, 28th edn, 2013).

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回のギリシャ語を翻訳してくる。
Translation of Greek to Japanese.

(その他(オフィスアワー等))

基本的にメールで対応するが、演習後にも対応可。
The lecturer can be reached by the email

quee0921@kwansei.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系85

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 平出 貴大 非常勤講師 波勢 邦生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		終末論									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、キリスト教神学の中心問題である終末論についての文献（英語）を精読することを通して、キリスト教独自の世界・歴史理解を学ぶことである。授業の前半では終末論についての歴史的概観（古代～現代）によって基本的知識を学び、後半では20世紀の神学者ブルトマンの終末論の解釈を取り上げる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・終末論について歴史的観点から説明することができる。 ・キリスト教思想における終末論の重要性を理解することができる。 ・演習における訳読作業を通して、英語の専門的なテキストを読みこなすことができる。 											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション（授業の概要、目的、進め方について）											
第2回～第8回（担当：波勢） 演習前半では、終末論を問うための概略的前提を据える。旧新約聖書から始め、古代、中世、近代までの終末論的運動を取り上げる。また20世紀米国で隆盛した終末論ディスペンセーションナリズム、また日本の終末論的運動として内村鑑三の再臨運動などを扱う。受講者には、宗教運動としての「終末論」の起源と構造を把握し、それらの運動への哲学的・批判的視点を獲得する努力が求められる。											
第9回～第15回（担当：平出） 演習の後半では、20世紀を代表する神学者の一人であるルドルフ・ブルトマンの終末論理解を取り上げる。先行する終末論解釈（カント、リッチュルの終末論の倫理化、ヴァイス、シュヴァイツァーの黙示文学的終末論の発見）に対して、ブルトマンは「終末論の現在化」を主張する。終末論は倫理の問題や（現代とは異なる）古代の世界観の問題ではなく、キリスト教信仰の現在の問題として理解されねばならない。ブルトマンのこの理解を彼の論文「ヨハネ福音書の終末論」（1928年）の読解を通して考えたい。この論文の背景には、新約聖書学の知識とハイデガーの哲学があり、受講者はこれらも併せて学ぶことが求められる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。毎回の訳読のほか、議論の参加度などから総合的に評価する。											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[教科書]

使用するテキストについては、コピーを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は、各人が毎回テキストを精読し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

演習に関わる質問は、各週の演習後か、メール(アドレスは授業にて指示)で行うこととする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ボンヘッファー関連のテキストをドイツ語で読む。									
【授業の概要・目的】											
<p>ボンヘッファー関連の主要なドイツ語テキストを読む。</p> <p>1906年生まれのドイツ人牧師・キリスト者ボンヘッファーは、当時のドイツの教会の多くがナチスに協力したのに対して、ヒトラーに激しく抵抗運動を展開した。彼は「汝殺すなかれ」を戒めとするキリスト者であり、かつ非暴力主義者ガンジーの影響も受けている。時代の流れに逆らい、反ナチス運動で逮捕されてからも獄中から多くの書簡を書き、その言葉の数々は現代の私たちにも、良心に生きるとはいかなることかを問い続けている。彼の書いたテキストを原典で読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>ボンヘッファーは、1945年4月9日独裁者ヒトラーの暗殺計画に加担した容疑でナチスにより処刑された。彼はヒトラーの危険を当初から見抜き、そのユダヤ人政策を批判し、最後には文字通り命を賭してナチスの暴走を止めようとしたのである。ナチス以降もしくはホロコースト以降のドイツで、ボンヘッファーにキリスト者として生きる1つのモデルが求められているのも事実である。どのような論理・倫理でもって、キリスト者・牧師でありながら、暴力や殺人をも許容するヒトラー暗殺・クーデター計画に乗り出したのか、この問題を究めるため、その決定的瞬間にまで至るプロセスをボンヘッファー本人のテキストに則して検討する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ボンヘッファーは現代的意味でもその存在が注目されているドイツの宗教者・神学者である。彼を理解するため、次のような進行を予定している。</p> <p>第1回～第3回 ボンヘッファーのおいたち 第4回～第6回 カール・バルトとの関係 第7回～第9回 ニーメラーと告白教会 第10回～第12回 ボンヘッファーと「信仰告白」 第13回～第15回 ボンヘッファーの現代的意義</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
主に発表に基づいて評価する。必要に応じて、試験・レポートを課す。											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[教科書]

こちらで準備(プリント教材)する。

[参考書等]

(参考書)

河崎 靖 『ボンヘッファーを読む』(現代書館)

河崎 靖 『神学と神話学』(現代書館)

[授業外学修(予習・復習)等]

こちらで用意するテキスト教材を、授業の前後(予習・復習)に確実に準備してもらおう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 津田 謙治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の基本的研究を読むII/A									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
今年度の前期では、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。											
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「教父」概念 3. 教会教父 4. 教父学 5. キリスト教文献の成立 6. 口伝 7. 使徒文献 8. 聖書正典の形成 9. 新約 10. 旧約 11. 福音 12. 文学的類型 13. ヤコブ原福音書 14. トマス福音書 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 津田 謙治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の基本的研究を読むII/B									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。											
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 使徒たちの手紙 3. ニコデモ福音書 4. 使徒行伝 5. 文学的類型 6. ペトロ行伝 7. パウロ行伝 8. 書簡 9. 文学的類型(書簡) 10. バルナバの手紙 11. 黙示録 12. 文学的類型(黙示録) 13. ヘルマスの牧者 14. シビュラの託宣 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----											

キリスト教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 津田 謙治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「初期キリスト教教理史II/D」									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、カルケドン公会議（451年）までの初期キリスト教の中で形づくられた教理の発展の歴史を、個々の主題に沿って提示することにある。教理とは、教会の中で唱えられたキリスト教の教えであるが、最初期のキリスト教の時代から教説の正統性をめぐって様々な問題が生じ（例えば、キリスト論や救済論の問題など）、その都度それらに対処することによって教理が形成されてきた。本講義では、キリスト教と諸哲学およびローマ帝国との間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>主として5世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期のテーマは、前年度の後期に引き続き、「初期キリスト教教理史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．贖罪概念の位置付け 3．救済論（5世紀における東方世界） 4．東方世界の教会論 5．ローマと東方世界の関係 6．西方における神秘的身体としての教会 7．アウグスティヌスにおける教会論 8．ローマの首位権 9．サクラメントの概要 10．4世紀の洗礼論 11．4世紀の堅信礼 12．4世紀以降の悔悛制度 13．聖餐における現臨 14．聖餐における犠牲 15．まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
----- キリスト教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。

レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

- ・ 講義はハイブリッド形式になることがある。
- ・ 受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
- ・ 質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系90

科目ナンバリング		U-LET09 25705 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		美学入門・分析篇									
【授業の概要・目的】											
本講義は、美学という学問の輪郭（美学においてどのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか）を示すことにある。今学期は「分析篇」とし、美学が扱う多くの問題のうちの代表的ないくつか（以下の「授業計画と内容」を参照）を取り上げ、20世紀後半以後の英語圏において主流となった「分析美学」の方法に主として依拠しつつ、これを考察する。											
【到達目標】											
美学という学問において、どのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか、を分析的に理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。											
1. 導入【1】											
2. 「分析美学」とは何か【1】											
3. 芸術は（いかにして）定義可能か【3】											
4. 「完全な贋作」の何が悪いのか【3】											
5. 芸術作品の解釈に際して作者の「意図」をどの程度・どのように考慮すべきか【3】											
6. 芸術作品の批評に用いられる言葉はどのような特徴を持つか【3】											
7. フィードバック【1】											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（毎回課す小レポート）60点と期末レポート40点に基づき評価する。詳細は初回授業時に説明する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 系共通科目(美学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(美学)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

ロバート・ステッカー (森功次訳) 『分析美学入門』 (勁草書房) ISBN:9784326800537

西村清和 (編・監訳) 『分析美学基本論文集』 (勁草書房) ISBN:9784326800568

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介した参考文献・芸術作品などを、自らの関心・問題意識に照らして調べること。授業中に紹介した考え方を、別の事例・現象に適用して考察すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系91

科目ナンバリング		U-LET09 25707 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 西 欣也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		美学入門									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は、美学という学問の全体像をつかむことを目的として、美学・芸術学における主要な概念とそれらにまつわる基本問題を論じるものである。毎回、特定の術語をテーマとして選び、その定義、美学史上における主な論点、そして特に現代から見た問題性を紹介する。概念の一般的な解説にとどまることなく、具体的な作品の分析を豊富にとり入れて検討することにより、作品世界に固有の逆説や多義性を切り捨てることなく、かつ一貫した視点から美や芸術について理論的に考察する力を身につけることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>美および芸術を論じるための基礎概念について、その定義と思想史上の位置付けを理解し、それらの概念を適切に用いて美や芸術の問題を考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし受講者の関心や講義の進みぐあいに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 芸術 第2回 美 第3回 自然 第4回 創造性 第5回 想像力 第6回 形式 第7回 様式 第8回 表象 第9回 解釈 第10回 文化 第11回 虚構 第12回 批評 第13回 贗作 第14回 新しさ 第15回 授業内容に対するフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(美学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(美学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回の授業内で課す小レポート）によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

佐々木健一 『美学辞典』（東京大学出版会）ISBN:4130802003

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

優れた作品に日常的に触れてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系92

科目ナンバリング		U-LET09 25708 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本・東洋美術史)(講義) Japanese Art History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		「醜」と「悪」の日本美術史									
【授業の概要・目的】											
<p>美しいものだけが美術だろうか。時には、醜いもの、汚いもの、道徳的でないものが主題となることもあったのではないか。このような観点から、日本美術における「醜」と「悪」の側面に目を向け、逆説的に日本美術の特質、独自性、そして欠点について考えることが本授業の目的である。</p> <p>また、作品の研究の歴史に触れ、論争の過程を知ること重要である。それにより、美術史とはどのような学問か、作品のどこを見ればよいのか、どのような問題意識を持ったらよいのかといった、日本美術史の学問的な基礎についても学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>既成の日本美術史の知識だけでなく、日本美術の様々な要素について学習し、日本美術とは何か、日本文化とは何かについて考える力を身に付ける。さらに、主要な作品に対する理解を深めることで、日本美術の歴史的展開について説明ができるようになることを目指す。また、美術作品の鑑賞方法について理解し、実作品を正しく見る能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
授業で取り上げる主な課題は以下の通りである。											
1回目	はじめに - 日本「醜」術史の構築 -										
2回目	縄文 - 恐れと祈り -										
3回目	古墳壁画 - プリミティヴ・アートの誕生 -										
4回目	奴隷労働と美術										
5回目	平安彫刻 - いびつさと美 -										
6回目	絵巻の中の「醜」と「悪」										
7回目	地獄の美術 - 嗜虐・諧謔 -										
8回目	禅画とニヒリズム										
9回目	茶の湯の美術 - 美の破壊 -										
10回目	変わり兜 - 価値の転倒 -										
11回目	近世初期風俗画 - 悪所を描く -										
12回目	浮世絵 - 悪人を描く -										
13回目	大正デカダンス										
14回目	現代アート - 反美術 -										
15回目	まとめ - 小テスト										
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業内（最終日）に行う小テストにより評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げる作品は、寺院や博物館で実際に見ることが出来るものが多いので、事前・事後にできるだけ実物を見てください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

哲学基礎文化学系93

科目ナンバリング		U-LET09 25709 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋美術史)(講義) European Art History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋美術史概論（16世紀のドイツ美術に注目して）									
【授業の概要・目的】											
美術史における諸問題の考察を通じて、研究の基礎となる方法論や思考法に親しむとともに、西洋美術に関する基礎知識を習得することを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様式分析、図像分析など美術史学の基礎的な方法論について、理解する。 ・ 16世紀のドイツ美術の展開について、基礎的な知識を習得する。 ・ 具体的な作品を美術史学の観点から分析しうる能力を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>本年度は、16世紀のドイツ美術について、他の地域の美術との関係、宗教、政治、社会、経済など様々な観点から論じる。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 西洋美術史における16世紀 第3回～第6回 デューラーと北方ルネサンス 第7回～第9回 アルトドルファーと風景の発見 第10回～第12回 グリュネヴァルトの独自様式 第12回～第14回 クラーナハとプロテスタント絵画の誕生 《期末試験》 第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明します）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（出席状況および小レポートなど、30点）と期末試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として、4回以上授業を欠席した者には、単位を認めない。 ・ 原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
-----系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習については、授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

受講に際して、西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。また、関連作品の展覧会等には自主的に足を運び、実作品を鑑賞する機会を持つことが好ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系94

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 呉 孟晋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近現代の中国における美術のながれ									
【授業の概要・目的】											
<p>中国における19世紀なかば以降の絵画の展開について概観する。「書画」という規範が存在していた中国絵画は、西洋美術との「出会い」によってどのように変容していったのか。また、いち早く近代化がすすんだ日本の状況をどのようにみていたのか。本講義では、清末中華民国期の書画をとおして、近代中国における「伝統」のあり方について考えてみたい。各回とも講義レジュメを配布し、それにもとづいて関連する作品を紹介する。受講者の関心にそって、適宜、討議も交えることで、中国絵画にたいする理解を深めてもらうことをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の中国で展開した絵画をはじめとする視覚芸術の様相について多面的な理解を深めることで、中国近現代史や日本美術史といった他分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．はじめに（講義のすすめ方など） 2．中国にとっての「近代」「現代」とは 3．明清時代における西洋絵画との接点 4．清末海上派（上海）の書画1 5．清末海上派の書画2 6．書画における日本との交流 7．呉昌碩について1 8．呉昌碩について2 9．齊白石について1 10．齊白石について2 11．京派（北京）の書画 12．嶺南画派（広東）について 13．高剣父について 14．民国期の書画理論 15．まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

陸偉榮 『中国近代美術史論』（明石書店,2010年）ISBN:978-4-7503-3288-8

『中国近代絵画と日本展図録』（京都国立博物館,2012年）

潘公凱著、楊冰・佐々木玄太郎監訳 『中国現代美術の道』（左右社,2020年）ISBN:978-4-86528-278-8

[授業外学修（予習・復習）等]

博物館や美術館などで美術作品に親しんでもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系95

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 呉 孟晋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近現代の中国における美術のなぐれ									
【授業の概要・目的】											
<p>前期からの継続として、中華民国期以降、現代にいたるまでの洋画や版画などの展開について概観する。アカデミズムとモダニズム、左翼芸術、社会主義リアリズムといった概念や理念から現代のインスタレーション（仮設展示）作品にいたるまで、台湾や中華世界での展開にも目を向けながら、「中国」と「モダン」の関係についても考えてみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の中国で展開した絵画をはじめとする視覚芸術の様相について多面的な理解を深めることで、中国近現代史や日本美術史といった他分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし前期からの講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．はじめに（講義のすすめ方など） 2．中国の洋画 3．徐悲鴻について 4．劉海粟について 5．民国期の洋画壇と美術教育 6．日本植民地期の台湾の美術 7．彫刻や工芸、デザインの展開 8．木刻画について 9．戦争絵画について 10．戦後台湾の抽象絵画 11．中国の社会主義リアリズム絵画 12．華僑・華人の絵画 13．中国の現代アート 14．最近の作品から 15．まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
前期と同じ。

[授業外学修（予習・復習）等]

博物館や美術館などで美術作品に親しんでもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		花の静物画の受容の諸相 17世紀のイタリアを中心にして									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本年度前期は、近世ヨーロッパ絵画における花の静物画の受容に注目して、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・花の静物画の受容の諸相について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパにおける花の静物画の絵画ジャンルとしての成立は17世紀初頭にさかのぼる。本年度前期は、花の静物画成立当初の受容の在り方について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イントロダクション 花の静物画の成立 第2～8回 花の静物画の受容の諸様態 フェデリーコ・ボッローメオの芸術観 第9～14回 花の静物画の受容の諸様態 ダニエル・セーヘルスとイエズス会 定期試験 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
【教科書】											
教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外学修の一環として、各自、授業中に指示する美術館や展覧会等を訪れて、芸術作品を直接鑑賞し、その造形的特徴を美術史的な観点から分析する能力を養うことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心をもち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系97

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗教改革と美術									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本年度後期は、宗教改革と美術、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・宗教改革と美術の関係について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>16世紀のドイツに端を発した宗教改革を機に、キリスト教における画像の使用について深淵な議論が交わされるようになった。そもそも、キリスト教は偶像崇拜を禁止しており、宗教実践における絵画や彫刻といったイメージの利用は、潜在的な問題をはらんでいたのである。本講義では、宗教実践における画像の使用に対するプロテスタントの批判とカトリック側の応答について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1～2回 イントロダクション キリスト教における画像の役割 第3～8回 プロテスタントによる批判とイコノクラスム 第9～14回 カトリックの内部刷新 トリエント公会議を中心に 定期試験 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
【教科書】											
教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業外学修の一環として、各自、授業中に指示する美術館や展覧会等を訪れて、芸術作品を直接鑑賞し、その造形的特徴を美術史的な観点から分析する能力を養うことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心をもち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲本 泰生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期は近年の東アジア仏教美術研究における、「尊格（特定の仏や菩薩など）」表象と「人物（君主、高僧など）」表象の重層性に関する論点を取り上げ、いくつかの事例検討を通して研究動向の把握と展望を行う。ただし担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．本講義の視点と問題意識【1～2週】 2．東アジア仏教美術における「釈迦」表象と人物表象の重層性【4～5週】 3．東アジア仏教美術における「弥勒」表象と人物表象の重層性【3～4週】 4．東アジア仏教美術における「観音」表象と人物表象の重層性【4～5週】 5．フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 必要な資料を配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

できれば仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲本 泰生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
【授業の概要・目的】											
東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。											
【到達目標】											
近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。											
【授業計画と内容】											
本年度後期は「仏法の東伝」「高僧の旅」などを主題に含む東アジア仏教美術の重要作品数例を取り上げ、その読解を通して、関連する論点についての研究動向の把握と展望を行う。ただし担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視点と問題意識【1～2週】 2. 東アジア仏教美術における「求法僧の旅」の表象（玄奘三蔵絵など）【4～5週】 3. 東アジア仏教美術における「伝法僧の旅」の表象（唐大和上東征伝など）【3～4週】 4. 東アジア仏教美術における「仏像東伝」の表象（釈迦堂縁起など）【4～5週】 5. フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
使用しない 必要な資料を配布する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

できれば仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

哲学基礎文化学系100

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 3回：小節線が可能にしたもの（2021年度後期の復習） 4回：音楽原理としての「ショック」と近代 5回：巨大音響建築に取り憑かれた世紀（ベルリオーズからマーラーに至る管弦楽曲） 6 - 8回：ホール建築とホール照明の歴史 9回：ハイデガーのGestell概念と「指揮者」への盲従 10回：足踏みする時間と第一次大戦後のストラヴィンスキーとテクノ 11 - 12回：「音楽の散文」と静止した時間とワーグナー 13 - 15回：反復の原理とラヴェル『ボレロ』とレヴィストロース											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 岡田暁生『西洋音楽史』（中公新書）											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系101

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識 2									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 2回：前期の要約 3 - 4回：「遅刻」としての自由 シンコペーションとレイドバックとジャズ 5回：身体をマシンにすれば自由になる モダンジャズとポリリズムについて 6回：音楽は「点」に分解できるか シュトックハウゼンと戦後セリー音楽 7 - 9回：すべては波動だ？ 電子音楽の原理 10 - 11回：電子音楽は「楽譜・解釈・作品」の概念をどう変えたか 12回：ジョン・ケージと非決定論と賭博 13回：「終わらない時間」をどう音楽化する？ サティからマックス・リヒターまで 14回：同上 アンビエント・ミュージックの功罪 15回：テレパシー音楽は「作品」たりうるか？ シュトックハウゼンの直観音楽とフルクサス											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
ネット動画などでとりあげられる音楽作品を自分自身で出来るだけ聴くこと

[参考書等]

(参考書)
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系102

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学美術学部 教授 加須屋 明子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代美術研究									
【授業の概要・目的】											
多様化する同時代における、現代美術の様々なありかたを考察する。具体的には、60年代以降のいわゆる現代美術の諸様相を検討しつつ、とりわけ近年顕著になった社会的関与芸術の成り立ち、それがどのように社会状況と関わりながら美術が変容してきたのかを考える。											
【到達目標】											
現代美術の成り立ちについて理解し、西欧諸国のみならず、旧東欧地域における美術の様相について基本的事項を知り、同時代の芸術表現について積極的に関わり、論述する姿勢を養う。											
【授業計画と内容】											
1 授業概要，ガイダンス【2週】 2 芸術と参加【6週】 シチュアシオニスト 視覚芸術探求グループ ジャン・ジャック・ルベル 3 60年代 = 米【6週】 オスカル・マソタ オスカル・ボニー 封鎖された画廊 見えない演劇 参加のアクション 4 まとめ【1週】											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
評価方法： レポート											
【教科書】											
使用しない 適宜、プリント資料等を配付する。											
【参考書等】											
(参考書) クレア・ビショップ 『人工地獄』(フィルムアート) 加須屋明子 『現代美術の場としてのポーランド』(創元社)											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

山本浩貴 『現代美術史』(中央公論新社)
アーサー・C. ダントー他 『アートとは何か: 芸術の存在論と目的論』(人文書院)

[授業外学修(予習・復習)等]

積極的な予習復習を歓迎します

(その他(オフィスアワー等))

質問等はメールで kasuya@kcuu.ac.jp まで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

哲学基礎文化学系103

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		静岡文化芸術大学デザイン学部 天内 大樹 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		建築美学 物質と空間									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は第一に、我々の生活環境を構成する物質を建築材料として分析し、それに付随する技術・社会制度・表現内容を紹介することで近現代の空間を分節する。第二に、我々が活動する空間を小規模な室から大規模なネットワークにいたる建築構成として総合し、それがもたらす作用を技術・社会制度・視覚効果の側面から解説することで近現代の空間を分類する。建築美学と題する著書は複数あるが、材料や設計の知識を前提として西洋の記念碑的建築を基盤に空間や現象の記述と考察を図る場合が多い。こうした解説に現代の議論を醸成して付け加えることを目的に、我々をとりまく建築・都市環境を言葉で分析・構成する。</p>											
【到達目標】											
<p>受講者は、第一に自らをとりまく物質を物質的・社会的・感性的観点から説明する視座を獲得する。第二に自らをとりまく空間を技術的・社会的・感性的観点から説明する視座を獲得する。上記二点から、自らの日常生活の背後に広がる近代性と思想の存在を理解し、表層と深層の両面から建築・都市空間を考察・議論する立場を形成する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>イントロダクション</p> <p>0. 建築美学のレビュー，レポート出題</p> <p>材料の分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 煉瓦1耐震・防災と近代日本 2. 煉瓦2建築保存と超高層 3. 鉄都市風景の変貌，プレハブ技術 4. ガラス1博覧会，透明性 5. ガラス2半透明，映像に彩られた都市風景 6. コンクリート1クラフト性，表現主義，郷土性 7. コンクリート2白の近代，リノベーション <p>空間の構成</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 室 nLDK, 排他と包容 9. 広場視覚的距離と囲繞，人間の集散 10. 道バロック都市，商店と共同体，ロードサイド 11. グリッド王城，植民地都市，都市拡張 12. クラスター複合施設，新都市，大学 13. 閉域公園，集合住宅，テーマパーク 14. 交通ゾーニング，ノード，観光地 											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート課題(100%)。
評価にあたっては、授業で獲得した語彙を実地に適用すること、それを用いて空間の背後に潜む思想性を指摘すること、その抽象化ゆえに他の空間との比較を成立させたことを重視する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

集中講義期間中の疲労を考慮すると、事前にある程度関心を高めておくことが望ましい。
建築・都市に関する展覧会、建築・都市に設置された案内板などに日頃から注意を払っておくこと
建築・都市空間の消費者としてではなく、企画・設計・施工する立場を理解できるよう、建築家の伝記、建築現場の描写などに触れておくことよい。ごく初歩的なレベルでいえば、鈴木 のりたけ『しごとば 東京スカイツリー』やデビッド・マコーレイなどの絵本(絵本だからと軽んじずに見てほしい)を眺めてもよいし、京都であれば大龍堂書店や大喜書店を訪れるのもよいだろう。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレス、連絡手段など初回授業で伝達する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系104

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
【授業の概要・目的】											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
【到達目標】											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
【授業計画と内容】											
<p>1. 現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2. 受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3. それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4. 講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) ロマン主義美学の基本形、2) 崇高、3) 芸術と真理、4) ロマン主義美術、5) 20世紀美術における反ロマン主義、6) デュシャン、7) 「作者の死」、8) 20世紀美術におけるロマン主義の残存、9) 「不可視なもの」の可視化、10) リオタールと前衛的崇高、11) 抽象の宗教性、12) 現代美学におけるロマン主義批判、13) バディウと「非美学」、14) 「試作品」としての芸術。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>											
【履修要件】											
後期の連続的な履修が望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。											
【教科書】											
使用しない 適宜、資料を配付する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系105

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
【授業の概要・目的】											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
【到達目標】											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
【授業計画と内容】											
<p>1．現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2．受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3．それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4．講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) ロマン主義と反ロマン主義、2) 狂気と創造性の歴史、3) 神的狂気、4) 「阿呆船」、5) 舞台に登場する道化、6) 「大いなる閉じ込め」、7) 天才と狂気、8) アル・プリュット、9) プリンツホルンと『精神病者の創造』、10) ヴェルフリ、11) 草間彌生と芸術の境界、12) 前衛/アウトサイダー、13) アートワールドにおける内外の問い直し、14) 「病を生きる」こと。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>											
【履修要件】											
前期の連続的な履修が望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。											
【教科書】											
使用しない 適宜、資料を配付する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系106

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
【授業の概要・目的】											
江戸時代の個性的な絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態との乖離について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
【到達目標】											
先行研究を踏まえて江戸時代絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
【授業計画と内容】											
前期は、岩佐又兵衛を取り上げ、伝記及び作品について考察する。内容は下記のとおりである。なお、講義の順序や進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
1 序論											
2 岩佐又兵衛の研究史 前近代											
3 岩佐又兵衛の研究史 近代～現代											
4 岩佐又兵衛の出自と生い立ち											
5 岩佐又兵衛の作品 風俗画 1											
6 岩佐又兵衛の作品 風俗画 2											
7 岩佐又兵衛の作品 風俗画 3											
8 岩佐又兵衛の作品 絵巻 1											
9 岩佐又兵衛の作品 絵巻 2											
10 岩佐又兵衛の作品 絵巻 3											
11 岩佐又兵衛の作品 伝統画題 1											
12 岩佐又兵衛の作品 伝統画題 2											
13 岩佐又兵衛の作品 伝統画題 3											
14 岩佐又兵衛と浮世絵											
15 まとめ											
フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

哲学基礎文化学系107

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
【授業の概要・目的】											
江戸時代の個性的な絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態との乖離について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
【到達目標】											
先行研究を踏まえて江戸時代絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
【授業計画と内容】											
後期は、いわゆる江戸洋風画の画家司馬江漢と亜欧堂田善を取り上げ、伝記及び作品について考察する。内容は下記のとおりである。なお、講義の順序や進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 2 初期洋風画 3 ヨーロッパ文化の流入 4 司馬江漢の伝記その1 5 司馬江漢の伝記その2 6 司馬江漢の伝記その3 7 司馬江漢の作品その1 8 司馬江漢の作品その2 9 亜欧堂田善の伝記その1 10 亜欧堂田善の伝記その2 11 亜欧堂田善の作品その1 12 亜欧堂田善の作品その2 13 亜欧堂田善の作品その3 14 洋風画から洋画へ 15 まとめ <p>フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「ダサイ」の美学									
【授業の概要・目的】											
<p>美的判断は、伝統的に狭義の美学（芸術哲学を除く、「美的なもの（the aesthetic）」についての哲学）の中心にあるトピックである。「美的判断とは何か」という問いにごく大雑把に答えるなら、「趣味（美的センス）という独特の能力を行使する必要のある判断である」と言ってもいいかもしれない。</p> <p>美的判断は基本的にはモノ（物体や出来事）に対する判断だが、美的センスの行使が必要であるという前提があることで、場合によっては、そのモノを選んだ人の能力に対する評価（たとえば「センスが良い／悪い」といった評価）を含意することがある。「...はおしゃれだ」や「...はダサイ」といった美的判断は、そのような能力についての暗黙のコメントを含むことが多い美的判断の典型だろう。</p> <p>この講義では、とくに「...はダサイ」という否定的な美的判断を取り上げ、それが人の美的センスの評価に結びつくことがよくあるという側面に注目しながら、その美的判断としての独特さとそれをめぐる諸問題（倫理的な問題も含む）について考えたい。</p> <p>授業の目的は、「何がダサイのか／ダサくないのか」を確定させることにあるわけでもなければ、「ダサくならないためにはどうすればよいか」という実践的な処方を提供することにあるわけでもない。また「...はダサイ」という美的判断が倫理的にアウトである／セーフであるというジャッジを下すことにあるわけでもない。</p> <p>むしろ授業の目的は、「...はダサイ」という美的判断の理由づけの構造（とその多様さ）を検討し、それを通してその種の判断を相対化できるようになる（そこから多少の距離を取れるようになる）ことにある。</p> <p>テーマ上、この講義はオフエンシブな内容を含みうる。下記の「授業計画と内容」の下部にある【注意点】をよく読んだ上で受講すること。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・狭義の美学の基本概念について初歩的な理解を得る。 ・素朴な美的相対主義や素朴な美的独断論のまどろみから抜け出す。 ・「...はダサイ」という判断についての反省を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンスと注意点</p> <p>第2回 「ダサイ」とされるものの事例と問題の設定</p> <p>第3回 美学の基本 : 美的判断・美的概念・美的性質</p> <p>第4回 美学の基本 : 美的相対主義（de gustibus non est disputandum）と趣味の良し悪し</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

第5回 「いき」と「野暮」についての古典的議論

第6回 ルッキズムと能力主義

第7回 スノップと美的な悪徳

第8～14回 各論者による「ダサイもの」の具体例とその理由づけ

第15回 フィードバック

前半は、授業全体の大まかな問題設定を確認したあと、議論の前提として美学（狭義）の基本的な考え方を示したうえで、いくつかの先行議論を紹介する。

後半は、各回ごとにゲスト講師を呼び、「ダサイもの」の具体例とそれをなぜ「ダサイ」と判断するのかについての理由をプレゼンしてもらう予定。一方向のレクチャーというよりも、受講者からのリアルタイムの反応をもとにしつつ、担当教員とゲストのやりとりで議論を深めることを考えている。

以上はあくまで予定であり、各回の内容や順序は変更される可能性がある。

【注意点】

・この授業では、個々のモノについて「ダサイ/ダサくない」の判定を下すことはないが、必然的に、個々のモノについて「ダサイ」と言われている（あるいは言われがちである）という事実を紹介することになる。また、扱い方に十分注意はするが、場合によっては揶揄に見えるような言説を取り上げることもありえる。それらの点で、そのモノを好んでいる人にとって（あるいはそうでない人にとっても）オフエンシブに感じるものが少なからずあるかもしれない。あらかじめ十分にご了承ください。

・「おしゃれだ」や「ダサイ」といった美的概念は、ファッション（装い）に対してもしばしば使われるが、ファッションに対する美的判断は場合によっては人の身体への評価を暗に含みうるため、その他の対象に対する判断よりも倫理的な懸念が大きい。この授業では、ファッションに対する美的判断をできるだけ具体例から除外する予定だが、部分的にそうした例も言及される可能性がある。あらかじめ十分にご了承ください。

・この授業は、内容・形式ともに実験的な側面がある。とくに「ダサイ」という美的概念については担当教員自身も十分に整理できていないわけではないため、授業がグダグダになる可能性が少なからずある。少なくとも、何か明確に確立した知識や研究を「勉強する」というタイプの授業ではない。あらかじめご了承ください。

・リアクションペーパーとそれへの応答は授業の最重要の部分として考えており、前回授業のリアクションペーパーの紹介とそれへの返答に少なからず授業時間を使うことになる。

【履修要件】

履修希望者多数の場合、教室の収容人数に従って人数制限をする可能性がある。人数制限をする場合は文学部の学部2～4回生を優先するが、場合によっては抽選を行う。

【成績評価の方法・観点】

平常点：50%

期末レポート：50%

美学美術史学(特殊講義)(3)

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「自分が「ダサい」と判断するものの具体例を挙げ、その判断の理由について、授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい(字数自由)」のような課題になる予定。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系109

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代美学研究・講読篇 コースマイアー『物』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、哲学的美学にかんする英語文献を講読し、それを通じて英語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について知見を深める。今学期は、昨年度後期に引き続き「本物(genuine)」「真正(authentic)」の人工物を経験することについて多角的に論じたコースマイアーの『物 - 過去に触れる中で - 』（2019年）を講読する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた美学の議論を正確に理解することができるようになる。 ・現代美学の諸課題へのアプローチ方法を学ぶ。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 テキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの講読 テキストを精読し、内容についても議論する。原則として毎回の授業で1人1回1段落程度は訳読を課す。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第15回 まとめ 講読の成果を総括・議論する。 基本的には輪読形式で進めるが、途中から担当者を決めて内容を要約して発表してもらうことも考えている（具体的な方法については受講者と協議して決定する）。</p>											
【履修要件】											
美学講義を履修済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（輪読における訳読状況、議論への参加度）60% + 期末レポート（テキスト未読箇所 of 翻訳または講読内容にかんする英文エッセイ、詳細は授業中に指示する）40%によって行う。 理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には単位認定を行わない。</p>											
【教科書】											
Carolyn Korsmeyer 『Things: In Touch with the Past』（OUP, 2019）ISBN:9780190904876（講読箇所のコピーを配布する）											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストのどの箇所を指定されても日本語訳できるように不明な単語・事項を調べておくことが最低条件。その上で、内容に基づいて有意義な議論ができるように「この問題を自分ならどう考えるか」「この問題は他のどの問題に適用できるか」を考えて授業に臨むこと。実際、テキストは文化財・文化遺産の保存・修復にかかわる実践的な内容を扱っており、さまざまな興味関心に応えてくれるはずである。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外の英語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系110

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山形 美有紀			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		初期ネーデルラント絵画とドイツ絵画の様式交流									
[授業の概要・目的]											
<p>本演習では、西洋美術史に関する英語文献を講読し、アカデミックな英語の読解力の習得を目指します。講読テキストは、15世紀ドイツの三連祭壇画を包括的に論じた以下の書籍です。 Lynn F. Jacobs, The Painted Triptychs of Fifteenth-Century Germany: Case Studies of Blurred Boundaries, Amsterdam University Press, 2022.</p> <p>本演習では、第3章「Regional Boundaries: Rogier van der Weyden's Columba Altarpiece and Cross-Influences Between the Netherlands and Cologne」を読み進めます。初期ネーデルラント絵画の代表作であるロヒール・ファン・デル・ウェイデン《コロンバ祭壇画》は、ケルンの画家シュテファン・ロホナーが手掛けた《三王礼拝祭壇画》から、さまざまなモチーフや構図を借用しています。両祭壇画の比較検討を通じて、初期ネーデルラント絵画とドイツ絵画の様式交流、三王礼拝をはじめとするキリスト教図像学、イメージと宗教的機能の複雑な関係性など、美術史研究の多様なアプローチに触れてもらいます。</p>											
[到達目標]											
<p>英語で執筆された西洋美術史の専門書を、正確に読解する力を養成します。 西洋美術全般、特にキリスト教美術を研究するうえで基礎となる方法論や図像学的知識を習得します。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション テキストのコピーを配布し、予習の進め方を説明します。テキストで言及される画家や作品について講義を行います。受講生の興味関心や学習状況を把握するためのアンケートを実施します。履修希望者は必ず、初回授業に出席してください。</p> <p>第2回-第14回 テキストの講読 テキストの第3章を輪読してもらいます。進捗状況は受講生の習熟度に応じて変動しますが、毎回2-3ページを目安に予習してもらいます。テキストで言及される画家や作品、専門用語の訳し方については、適宜、補足説明を行います。</p> <p>《期末試験》試験では第3章の英文和訳を課します。一部、授業中に読み残した箇所から出題する可能性があります。</p> <p>第15回 フィードバック 期末試験の模範解答を配布し、補足説明を行います。</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

【履修要件】

美術史学の予備知識の有無は問いませんが、毎回予習をしたうえで授業に臨んでください。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業中の英文和訳：約40%）および期末試験（既読箇所＋未読箇所の英文和訳：約60%）に基づいて評価します。原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。原則として、遅刻・早退も欠席扱いにします。

【教科書】

Lynn F. Jacobs 『The Painted Triptychs of Fifteenth-Century Germany: Case Studies of Blurred Boundaries』
(Amsterdam University Press, 2022) ISBN:9789048543557（初回授業で講読箇所のコピーを配布します。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習の進め方：構文と不明な単語を確認し、和訳を作成してください。テキストで言及される作品については、図版を丹念に観察しておきましょう。
復習と試験対策の進め方：授業中の解説に基づいて予習時の和訳を修正し、専門用語の定訳を暗記してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系111

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学史研究・講読編									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、哲学的美学にかんするドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について理解を深めることを目指す。今学期は、近代美学の実質的出発点であるカント『判断力批判』（1790年）に対する最初期の批判の一つである、ヘルダー『カリゴネー』を講読する。「カントとは別の仕方」で展開された美学的思考の跡をたどり、美学における「勝利者史観」を脱するための手がかりとしたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた哲学的美学の古典を的確に読解する能力を習得する。 ・美学史についての知見を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業は原典講読の演習であり、受講者の人数およびドイツ語読解能力によって進度は大きく異なるため、本シラバス執筆時点で毎回の予定を明確に示すことはできない。以下の計画は、あくまで目安として読んでほしい。また、多彩な話題が展開される書であるため、受講者の興味関心を勘案して講読箇所を決定することも考えている。</p> <p>第1回導入（講読予定のテキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する）</p> <p>第2回第一部「快適なもの美しいものについて」3「輪郭、色彩そして音の美しいものと快適なものについて」前半</p> <p>第3回同上後半</p> <p>第4回同4「生き生きとした形態の意義から美しさの概念へ」前半</p> <p>第5回同上後半</p> <p>第6回同5「名称の誤用について」i「快適」</p> <p>第7回同ii「美」</p> <p>第8回同iii「関心」</p> <p>第9回同iv「魅力、感動」</p> <p>第10回同v「概念、合目的性の形式、形式」</p> <p>第11回同vi「完全性」</p> <p>第12回同vii「概念なき必然的満足、普遍的規範、そして美しいものの共通感官」</p> <p>第13回同6「美しいものの規則について」</p> <p>第14回まとめと補足（きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回を講読に充てる）</p> <p>第15回フィードバック</p>											
【履修要件】											
ドイツ語の初級文法を習得しており、程度に差はあれ、辞書があればドイツ語の文章が読解できること。											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

美学講義を履修済みであることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回の訳読および議論への参加状況）60% + 期末レポート（独文エッセイ）40%によって評価する。

理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には、単位認定を行わない。

[教科書]

授業中に指示する

『カリゴネー』には、さまざまな版がある。一部（著作権の切れた古いもの、古いドイツ語に特有の亀甲文字で印刷されている）はオンラインで全文読むことができる（後掲の「関連URL情報」参照）。初回授業で解説した上で、どの版を用いるかを受講者と協議して決定する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連URL）

<https://books.google.co.jp/books?id=JmFKAAAACAAJ>(1800年刊の初版)

<https://books.google.co.jp/books?id=zCcpAAAAAYAAJ>(ズプハン版全集（現在でもヘルダー研究で規範的に用いられる）第22巻)

[授業外学修（予習・復習）等]

講読箇所を翻訳して授業に臨むこと。単に日本語に置き換えるだけでなく「なぜそう訳したのか」と問われて答えられるようにしておくこと。不明点はどこか（文法なのか語意なのか内容なのか）を可能な限り明確にし、授業中にその疑問を解消するよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系112

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画作品の解釈について									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関するドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で執筆された美術史に関する専門的な文献を読解する能力を習得する。 ・美術史学における基礎的な思考法についての知見を得る。 											
【授業計画と内容】											
<p>本年度は、昨年度に引き続き、Oskar Baetschmann, Einfuehrung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik(Darmstadt, 1986; 2001)の精読を通じて、「絵画作品の解釈」をめぐる諸問題について理解を深めることをめざす。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明するとともに、参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1回の授業につき1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。なお、各回のおおよその講読内容は次の通り。</p> <p>第2～5回 イメージはテキストか？ プッサン作《マナの収集》をめぐって 第6～8回 シャルル・ルブランとディズニー 第9～11回 イメージの多義性 デューラーの版画を題材にして 第12～14回 ヨハネス・イッテンの絵画解釈の試み 《期末試験》</p> <p>第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明します）</p>											
【履修要件】											
ドイツ語の初級文法を独学でもよいので習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（毎回の訳読および議論への参加状況）40% + 期末試験60%。 授業を4回以上欠席した場合には、原則として、単位認定を行わない。											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する
初回の授業時に、講読テキストを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業には十分な予習をもって臨むこと。また、テレビ、ラジオ、インターネット、映画などを通じて、ドイツ語に親しむよう心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業の前後、またはメールやPandAを用いたZOOM面談などにより、随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系113

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 天王寺谷 千裕			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		19世紀フランスの美術批評を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、西洋美術史に関するフランス語文献の講読をおこないます。講義を通じて、フランス語の実践的読解力を高めると同時に、西洋美術史の諸問題について考察することを目指します。</p> <p>講読する文献は以下です。 Théodore Duret, Les peintres français en 1867, Paris, Dentu, 1867. 19世紀に執筆された美術批評を精読し、当時の美術界の様相や構造、批評システムに関する知見を深めます。また、一次文献に触れることで、当該時期の批評にみられる独特な表現にも慣れていきましょう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。 ・ 19世紀フランスの美術システムについて知見を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス テキストの概要、参考文献、予習方法、評価方法などの授業の基本方針を説明します。テキストのコピーを配布するので、受講を希望する人は必ず初回に出席してください。</p> <p>第2～14回 指定書籍を受講者で一文ずつ輪読します。進み具合は受講者の習熟度により異なりますが、適宜、画像を使いながら作品解説を行うほか、文法事項や専門用語に関して説明を加えます。</p> <p>第15回 フィードバック（授業内で詳細をお伝えします。）</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中級以上のフランス語知識を身につけていることが望ましい。 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業での訳読および議論への参加度）50点、期末レポート（自分の専門分野に関わる論文の翻訳）50点</p> <p>原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。 遅刻・早退は欠席扱いとします。</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[教科書]

初回にテキストのコピーを配布します。

Théodore Duret, Les peintres français en 1867, Paris, Dentu, 1867.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

稲賀繁美「クールベの変貌1862-1918：批評家テオドール・デュレの見たクールベの半世紀」『外国語科研究紀要フランス語教室論文集』東京大学教養学部、1989年度、59-75頁。

その他、授業中に随時参考文献を紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

各授業内にて、次回の講読箇所をお伝えします。

授業参加の前に各自でテキストを精読し、単語や文法事項を調べ、適切な日本語訳文をつかった上で参加してください。

本文中で参照する固有名詞や図版に関しても事前に調べてください。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業中およびその前後、またはメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系114

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸学院大学人文学部 講師 倉持 充希			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画における感情表現									
【授業の概要・目的】											
<p>・本演習では、西洋美術に関するフランス語の専門書の精読を通じて、フランス語の読解力を高めると同時に、絵画における感情表現について考察することを目的とする。</p> <p>・具体的には、1667年にフランス王立絵画彫刻アカデミーで開催された講演のうち、ラファエロ作《悪魔を打ち倒す聖ミカエル》に関するシャルル・ル・ブランの講演録とプッサン作《盲人の治癒》に関するセバスティアン・ブールドンの講演録を精読し、身振りや表情による感情表現について考察する。加えて、物語画を分析する様々な論点や専門用語についても検討し、草創期の美術アカデミーにおいて物語画がいかに議論されたのかを学ぶ。</p> <p>Christian Michel and Jacqueline Lichtenstein (ed.) Les conférences au temps d'Henry Testelin, 1648-1681, Conférences de l'Académie royale de peinture et de sculpture, t. 1, 2 vols., Paris, 2006, vol. 1.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。 ・17世紀の物語画における身振りや表情による感情表現の手法について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション まず、講読テキストの概要について説明し、内容の理解を助ける参考文献や予習方法、評価方法を示す。テキストのコピーを配布し、全体的な解説も行うので、受講を希望する人は必ず初回に出席すること。あわせて、受講生の興味関心や専門分野、要望を知るためのアンケートも実施する。</p> <p>第2回～第15回 テキストの精読 授業の冒頭で、テキストの一部を翻訳する小テストを行う。その後、受講者で一文ずつ輪読する。受講者の習熟度によって進度は大きく異なるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね1～2ページ程度を読み進めることになる。必要に応じて、文法事項や専門用語、歴史的事象、研究史などに関して、補足説明をする。</p> <p>フィードバックについては、毎回の小テストを添削して返却することにし、学期末には特に実施しない。疑問点があれば、メールでも回答する。</p>											
【履修要件】											
フランス語の中級以上の知識を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回の小テスト（テキストの翻訳：50点）と、期末レポート（自分の専門分野に関わる論文の翻訳：50点）により評価する。</p> <p>いずれも、到達目標の達成度（文法理解に基づく適切な訳文・内容読解）に基づき評価する。</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

- ・小テストに際しては、予習ノートやテキストの書き込みなどを参照しても良い。
- ・原則として、4回以上欠席した場合は、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

初回に、講読テキストのコピーを配布する。

Christian Michel and Jacqueline Lichtenstein (ed.) Les conférences au temps d'Henry Testelin, 1648-1681, Conférences de l'Académie royale de peinture et de sculpture, t. 1, 2 vols., Paris, 2006, vol. 1.

[参考書等]

(参考書)

・初回に、以下の参考文献等を紹介し、講読テキストに関する予備知識をつける。

栗田秀法「王立絵画彫刻アカデミー」『西洋美術研究』2、1999年、53-71頁。

大野芳材「1667年の「コンフェランス」 宗教画事始（キリスト教と文化（4））」『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』12、2004年、129-146頁。

・その他、授業中に紹介し、適宜、必要箇所のコピーを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

・予習としては、各自テキストを精読し、不明な単語や文法事項を調べ、適切に翻訳できるように準備しておくこと。文中に登場する固有名詞、図像、参考図版についても、事前に調べておくこと。

・復習としては、授業中の発表と解説に基づき、自身の訳文の再検討を行うこと。専門用語の定訳などもまとめておくこと。

(その他（オフィスアワー等）)

・質問や相談は、授業前や授業中に、あるいはメールでも受け付ける。

・ラジオやオンライン教材、講演会などを活用し、実践的なフランス語運用能力を養う機会を積極的に設けて欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系115

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		肖像画の諸問題									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・美術史に関するイタリア語専門文献を的確に読解する能力を養う。 ・テキストの内容を吟味し、問題意識を持って批判的に専門文献を読む力を身につける。 ・西洋美術史の専門用語・基礎的知識を習得する。 											
【授業計画と内容】											
本年度は、Enrico Castelnuovo, <i>Ritratto e Societa in Italia</i> , curato da F. Crivello e M. Tomasi, Torino, 2015 などの講読を通じて、肖像画について多角的に理解することを目指す。											
第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。											
第2回～第14回 肖像画に関する諸論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。											
定期試験											
第15回 フィードバック（フードバックの方法は授業中に説明します）											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・初級のイタリア語を習得していること。 ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識を持ち、未知の用語は事前に調べるなどして、積極的に授業に参加してほしい。 											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、50%）と期末試験（50%）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を欠席した場合は、減点の対象となる可能性がある。 											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

- ・原則として、授業を4回以上欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

講読テキストは印刷して配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の準備として、各自テキストを精読し、不明な単語は調べておくこと。また、文法構造を正しく理解するよう努め、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系116

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 高井 たかね			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		美学美術史学(講読)									
【授業の概要・目的】											
<p>日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。今年度は明、高濂『遵生八牋』をテキストとし、居室環境について扱った起居安楽牋上、居室安処条を読む。授業では、出席者に訓読および現代語訳をしてもらい、語法の確認をしながら漢文読解の訓練をおこなう。各回の担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・漢文読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・具体的には、漢文の語法について基礎的理解を得る、また訓読、現代語訳のために必要な基本的な工具書を知り、それらを使いこなせるようになること。 ・文章の背景にある中国文化に対する理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 講義趣旨説明 明、高濂『遵生八牋』の概要説明。授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な工具書、参考図書を紹介。</p> <p>第2～13回 『遵生八牋』起居安楽牋上、居室安処条の精読。 進度は、はじめは1回に半葉程度になるかと思われるが、これを2, 3回続けたあとは毎回約1葉は進むようになる。</p> <p>第14回 総括 読解部分についてまとめ、疑問点を再考する。また、前回までの進み具合によっては引き続き会読をおこなうための予備日とする。</p> <p>第15回 見学 漢籍書庫の見学をおこなう予定。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価 授業時の訓読・現代語訳の発表、および議論への参加により評価する。</p>											
----- 美学美術史学(講読)(2)へ続く -----											

美学美術史学(講読)(2)

[教科書]

漢和辞典が必要。
テキスト、参考資料はコピーを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の精読箇所について、必ず予習が必要。漢和辞典等を使用して訓読、現代語訳しておく。

(その他(オフィスアワー等))

毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系117

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 健一			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		くずし字講読									
[授業の概要・目的]											
日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、くずし字で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。初め数回は基本的な変体仮名を学び、平安時代・鎌倉時代の絵巻物をテキストとして翻刻、訳註を作成する。授業の後半は参加者全員が、後半では担当者が発表する形式とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・絵巻物のテキストを理解するための基本的な方法を身につける。 ・絵巻物のテキストと絵画表現との照合作業を通じて美術史学の研究能力を涵養する。 											
[授業計画と内容]											
第1回 講義趣旨説明 授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な工具書、参考図書の紹介。											
第2～3回 基本的な変体仮名を学ぶ											
第3～5回 『信貴山縁起絵巻』を読む											
第6～14回 『頼焼阿弥陀縁起絵巻』を読む											
第15回 テスト											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点 授業時の訓読・現代語訳の発表、および議論への参加により評価する。											
テスト 最終回に行うテストにより評価する。											
[教科書]											
テキスト、参考資料はコピーを配付する。											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
利用しやすい辞典として以下がある。											
児玉幸多 『くずし字用例辞典』(東京堂出版)											
児玉幸多 『くずし字解読辞典』(東京堂出版)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の精読箇所について、必ず予習が必要。訓読、現代語訳しておく。											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系118

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		飛鳥奈良時代彫刻史の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>飛鳥奈良時代彫刻史の重要作例を取り上げる。近年、辺土意識（釈迦の故国たるインドを中心とし、中国や日本を辺境とみなす世界観）と中華意識とのせめぎ合い、王権思想との相互依存関係、仏陀観の展開、といった、東アジアの仏教国に顕著な心性が、東アジアの仏教美術史を理解する上での重要な鍵として注目を集めている。こうした研究動向を踏まえ、この授業では、主に釈迦造像・涅槃・阿弥陀を主な対象とし、教学や実践、社会史的背景、海流交流史などを視野に入れつつ、造形的・思想的変遷を検討する。また近年の注目すべき研究成果を適宜取り上げて研究動向の理解を得ることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>先行研究を踏まえて飛鳥奈良時代彫刻史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>飛鳥奈良時代彫刻史のうち、釈迦および阿弥陀造像を主な対象として、主要な作品について考察する。内容は下記のとおりである。なお、講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、適宜講義担当者が調整する。</p> <p>1 序論 飛鳥時代彫刻史を考える視点 2～5 釈迦造像と礼拝空間 6～9 涅槃を表す造形遺品 10～14 阿弥陀造像と礼拝空間 15 まとめ</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系119

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		詩と絵画									
【授業の概要・目的】											
前近代の中国において、世界（風景）がどのように把握され、どのように表現されてきたかを、「詩」と「絵画」の両側面から考える。											
【到達目標】											
前近代中国人が世界をどのようにとらえ、どのように表現したかを理解することによって、自身が中国古典詩や中国山水画を扱うときの思想的な糸口のひとつを修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス 第二回 山水画と気 第三回 風景詩の諸問題（1）六朝期 第四回 風景詩の諸問題（2）唐宋 第五回 杜甫と蘇東坡の題画詩について 第六回 杜甫の表現（1）視覚句の問題 第七回 杜甫の表現（2）風景表現の意味 第八回 杜甫の表現（3）杜甫と蘇東坡 第九回 白居易の表現 第十回 蘇東坡の表現（1）風景表現 第十一回 蘇東坡の表現（2）「体物」の問題 第十二回 題画詩の展開（1）杜甫まで 第十三回 題画詩の展開（2）蘇東坡以降 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック（授業時に指示します）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（100％）											
----- 美学美術史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

川合康三 『杜甫』 (岩波書店) ISBN:978-4-00-431392-2

[授業外学修(予習・復習)等]

中国古典詩にふだんから触れること、できるだけ中国山水画の展覧会あるいは図録などに気を配っておくことを勧めます。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系120

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学文学学術院文化構想学部 小林 信之 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「形なきもの」をめぐる省察									
【授業の概要・目的】											
<p>ハイデガーは、形相 質料、形式 素材の関係が、西欧形而上学の根底にあって支配力をおよぼしつづける思考様式であることを洞察した。だとすれば、かれの存在の思想は「形」との格闘であったということもできる。他方、西田幾多郎は「形なきものの形を見、声なきものの声を聞く」と語った。ここでもまた同様に、西欧哲学と対峙しつつ「形」をめぐるくりひろげられた思考の跡をうかがうことができる。</p> <p>この講義は、形と形なきものへの問いに収斂する思想を、日本と西欧の幾人かの哲学者に尋ねて、そこからひろく、美、像、感情、詩といったテーマ系に展開することを試みるものである。具体的には、美における否定性（無関心性ともののはれ）、像と構想力をめぐる諸問題、ポイエーシスとプラクシス等が主題化される。</p>											
【到達目標】											
<p>講義は、主として日本における文化形成の原理を、西欧哲学の光源から照らしたことで深く省察することをめざしている。したがってなにか実利的な到達目標が設定されているわけではなく、ただ哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせるための訓練の場と考えてほしい。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおよそ以下のような内容を順次あつかう予定である（変更の可能性あり）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス： 趣旨説明と全体の展望 2. 美における否定性（1）： カント『判断力批判』の美の分析論から（現象における形としての美と超感性的なもの。美と倫理） 3. 美における否定性（2）： 無関心性にかんする諸解釈（ショーペンハウアー、ニーチェ、ハイデガー、デリダ） 4. 美における否定性（3）： 日本近代における受容（大西克礼のもののあはれ論、田邊元の目的論的判断力の解釈ほか） 5. 美における否定性（4）： 経験の現在性（西田幾多郎ほか） 6. 像をめぐる諸問題（1）： カントの構想力論とハイデガーによる解釈 7. 像をめぐる諸問題（2）： 三木清の構想力論 8. 像をめぐる諸問題（3）： 影像論 9. あはれと悲哀（1）： 情態性とエポケーについて 10. あはれと悲哀（2）： 不安と世界の非情性 11. あはれと悲哀（3）： もののあはれの現象学 12. 詩作について（1）： ポイエーシスとプラクシス 13. 詩作について（2）： カント「自然の技術」について 14. 詩作について（3）： 九鬼周造の詩論 15. 総括とフィードバック 											
----- 美学美術史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートまたは試験。講義内での質疑、議論への参加も評価にくわえる。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系121

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36									
授業科目名 <英訳>		哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹 非常勤講師 安井 絢子 非常勤講師 笠木 丈 非常勤講師 林 和雄 非常勤講師 香西 信			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		哲学基礎文化学入門									
【授業の概要・目的】											
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>											
【到達目標】											
哲学基礎文化学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス（大河内）</p> <p>第2回 林和雄講師（倫理学）「J.S.ミルの功利主義的自由主義 1」</p> <p>第3回 林和雄講師（倫理学）「J.S.ミルの功利主義的自由主義 2」</p> <p>第4回 林和雄講師（倫理学）「J.S.ミルの功利主義的自由主義 3」</p> <p>第5回 安井絢子講師（倫理学）「ケアの倫理入門 : その出自と基本的な考え方」</p> <p>第6回 安井絢子講師（倫理学）「ケアの倫理入門 : その特徴と問題点」</p> <p>第7回 安井絢子講師（倫理学）「ケアの倫理入門 : 依存労働としてのケアワークを考える」</p> <p>第8回 前半の振り返り</p> <p>第9回 笠木丈講師（宗教学）「アンリ・ベルクソンの自由論 1」</p> <p>第10回 笠木丈講師（宗教学）「アンリ・ベルクソンの自由論 2」</p> <p>第11回 笠木丈講師（宗教学）「アンリ・ベルクソンの自由論 3」</p> <p>第12回 香西信講師（キリスト教学）「使徒教父文書概論」</p> <p>第13回 香西信講師（キリスト教学）「バルナバの手紙（1）概論」</p> <p>第14回 香西信講師（キリスト教学）「バルナバの手紙（2）予型論的聖書解釈」</p> <p>第15回 予備日</p>											
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。